

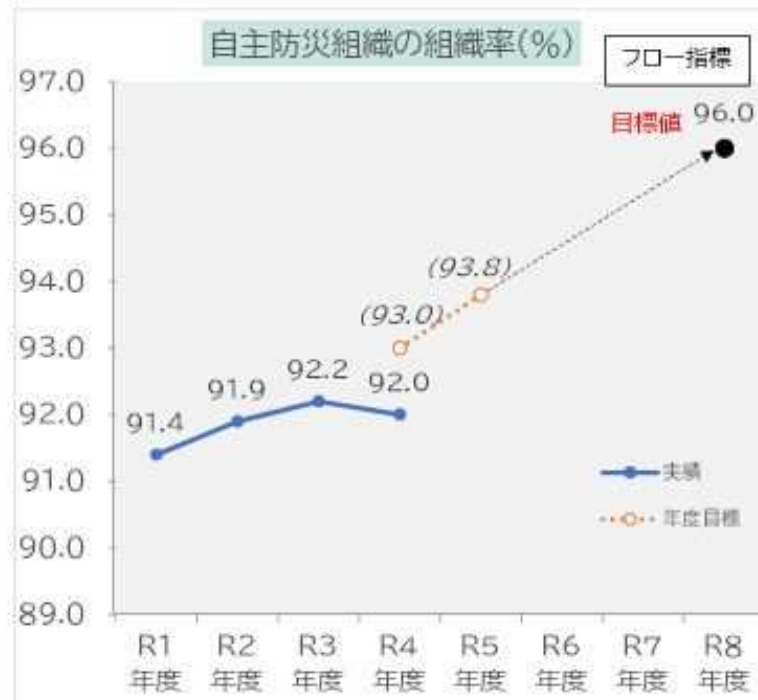
指標等の進捗状況シートの見方

針路1 施策1 危機管理・防災体制の再構築

施策指標の進捗状況

【達成率(年度目標比)】
年度目標と比較した達成率を記載

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
1. 自主防災組織の組織率	%	91.4 (R1年度)	92.0 (R4年度)	93.0 (R4年度)	98.9%	策定時より改善	96.0 (R8年度)



指標の説明

全世帯数に占める「自主防災組織が組織されている地域の世帯数」の割合。
令和元年度における組織率の全国上位10県の平均値(96.2%)に相当する組織率を目指し、目標値を設定。

指標の進捗状況・分析

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標値に届いていない。
- 自主防災組織の資機材整備に対する補助金に頼りすぎたものの、多くの自主防災組織が自治会において、少子高齢化、人口減少によるコミュニティの希薄化による自治会自体の活動が停滞し、年度目標に達成しなかった。
- 防災人材の育成・派遣や市町村の自主防災組織の活動に対する補助などを通じた支援を強化することにより、自主防災組織の組織率を向上させる。

【指標の進捗状況・分析】
指標の進捗(動き)について、年度(最終)目標値との比較を定型的に記載した上で、その要因等について分析して記載

【グラフの説明】

- ・実績 … その年(度)の実績値
- ・目標値 … 5か年計画で設定した数値目標
- ・年度目標(値) … 施策指標を所管する部局が毎年度設定する目標

【ストック指標】棒グラフ

毎年の実績を積み上げる(累計)指標

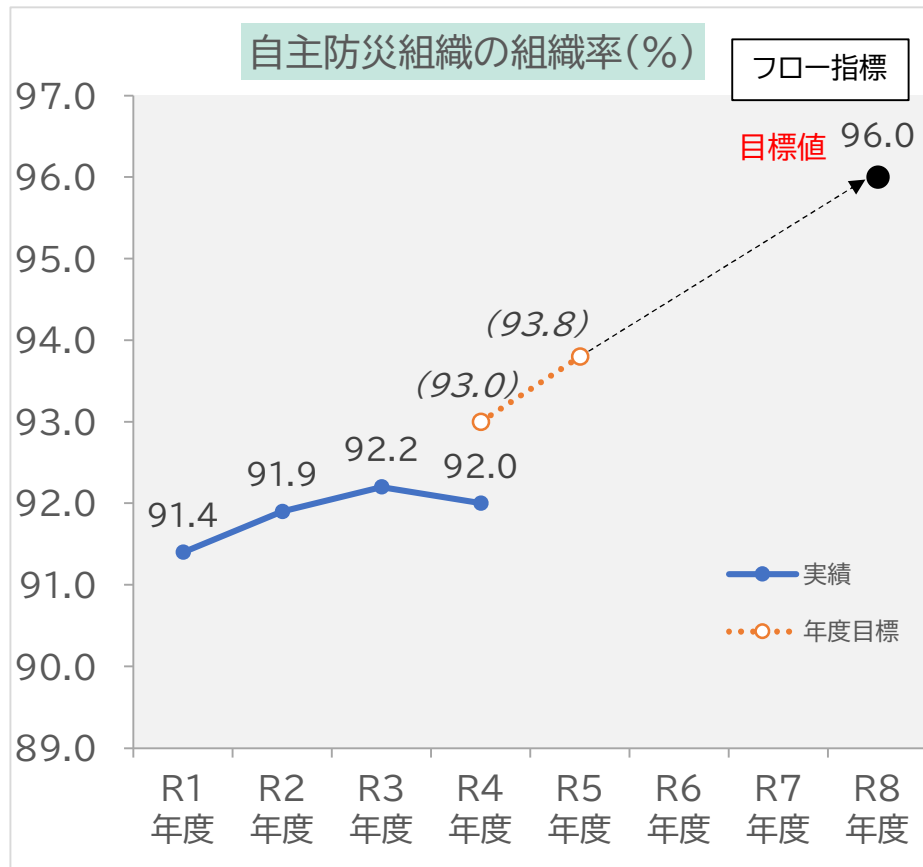
【フロー指標】折れ線グラフ

社会情勢により毎年度の数値が上下に変動する指標

針路1 施策1 危機管理・防災体制の再構築

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
1. 自主防災組織の組織率	%	91.4 (R1年度)	92.0 (R4年度)	93.0 (R4年度)	98.9%	策定時より改善	96.0 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

全世帯数に占める「自主防災組織が組織されている地域の世帯数」の割合。
令和元年度における組織率の全国上位10県の平均値(96.2%)に相当する組織率を目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

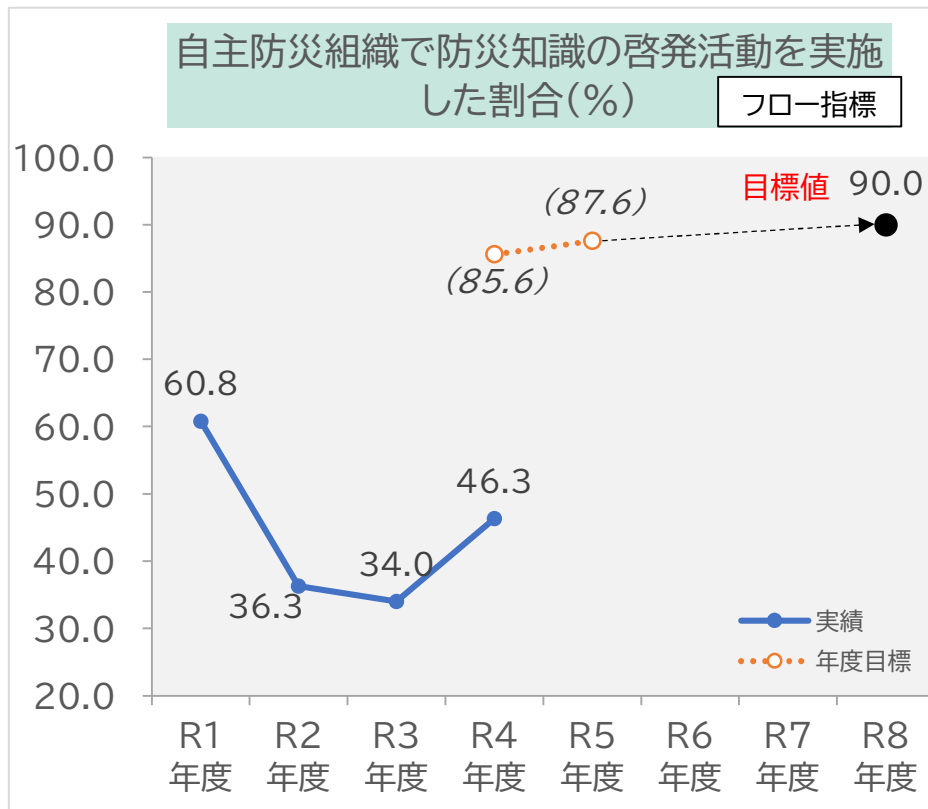
- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 自主防災組織の資機材整備に対する補助や防災人材の育成・派遣に取り組んだものの、多くの自主防災組織の母体となっている自治会において、少子高齢化、人口減少による担い手の減少や地域コミュニティの希薄化による自治会自体の弱体化などの要因から年度目標に達成しなかった。
- 防災人材の育成・派遣や市町村の自主防災組織等の活動活性化を図るための取組に対する補助などを通じて市町村の主体的な取組を支援することにより、自主防災組織の新規設立を促していく。

針路1

施策1 危機管理・防災体制の再構築

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
2. 自主防災組織で防災知識の啓発活動を実施した割合	%	60.8 (R1年度)	46.3 (R4年度)	85.6 (R4年度)	54.1%	策定時より後退	90.0 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

自主防災組織の組織活動として、構成員に災害への備えや災害時の行動などの防災知識の啓発活動を実施した割合。

過去5年間(平成27年度～令和元年度)の自主防災組織の訓練実施率の平均値(約90%)を踏まえ、啓発活動の実施率を令和6年度までに同水準である90%まで高め、その後維持していくことを目指し、目標値を設定。

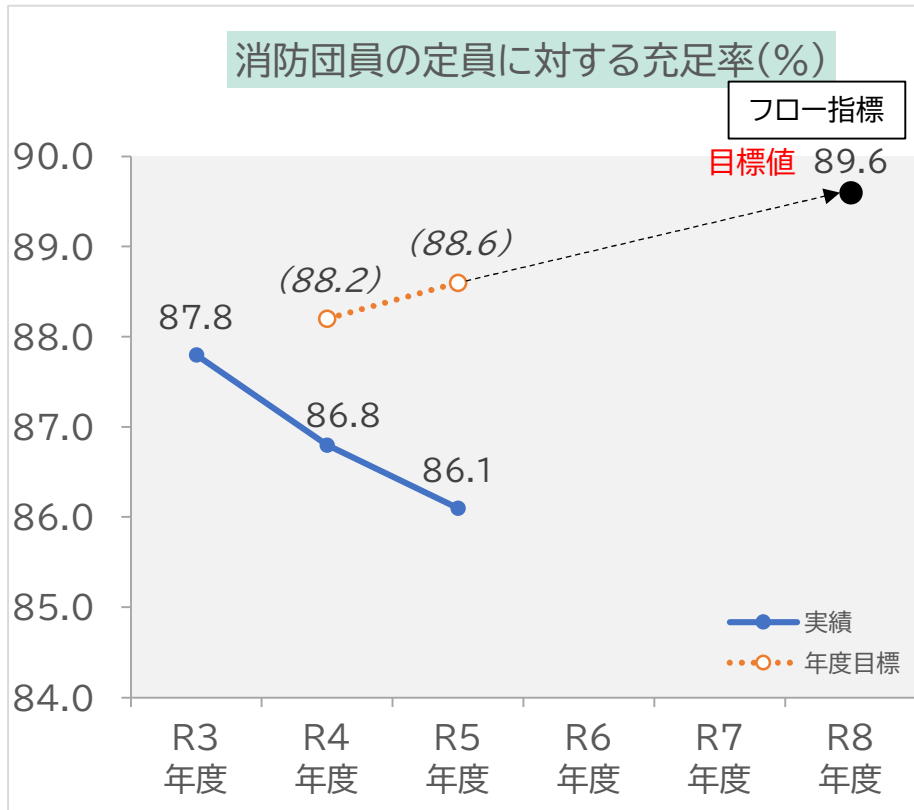
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- 防災人材の育成や、市町村・自主防災組織等が実施する研修等への派遣などに取り組んだものの、新型コロナウイルス感染拡大以前の水準には達していない。
- 防災人材の育成・派遣、市町村の自主防災組織等の活動活性化を図るための取組支援により、自主防災組織の防災知識の啓発活動を支援していく。また、若者向け防災講座の実施やSNSや動画サイトなどを活用し、特に若い世代を対象とした普及啓発を行うことで自主防災組織の新たな担い手確保に取り組む。

針路1 施策1 危機管理・防災体制の再構築

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
3. 消防団員の定員に対する充足率	%	87.8 (R3年度)	86.1 (R5年度)	88.6 (R5年度)	97.2%	策定時より後退	89.6 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

消防団員の条例定数に対する充足率。
令和2年4月1日時点における充足率の全国平均値(89.6%)を下回らないことを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

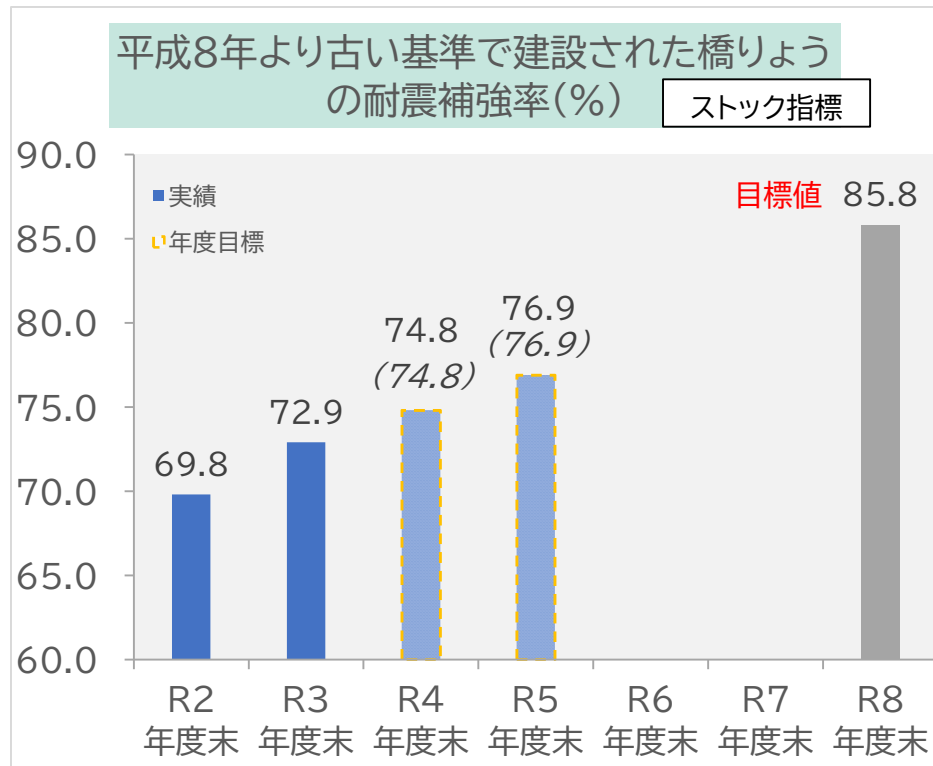
- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- 少子化や地元市町村以外で働くサラリーマンの増加などにより、20～30代の新規入団数が減少傾向である。また、コロナ禍の影響により、勧誘活動ができなかったこともあり、団員数が減少した。
- 若者の消防団に対する認知度向上・加入促進を目的とした「埼玉県消防団ポータルサイト」を広く周知する。また、企業の従業員が大規模災害時に活動する機能別消防団に加入する仕組みを構築するなど若い世代を中心とした入団数の増加により充足率向上につなげる。

針路1

施策2 大地震に備えたまちづくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
4. 平成8年より古い基準で建設された橋りょうの耐震補強率	%	69.8 (R2年度末)	76.9 (R5年度末)	76.9 (R5年度末)	100.0%	年度目標達成	85.8 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

平成8年より古い基準で建設された橋りょうのうち、耐震補強が完了した割合。
 平成8年より古い基準で建設された橋りょうのうち、緊急輸送道路上などの橋りょうの耐震補強を令和8年度末までに完了させることを目指し、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

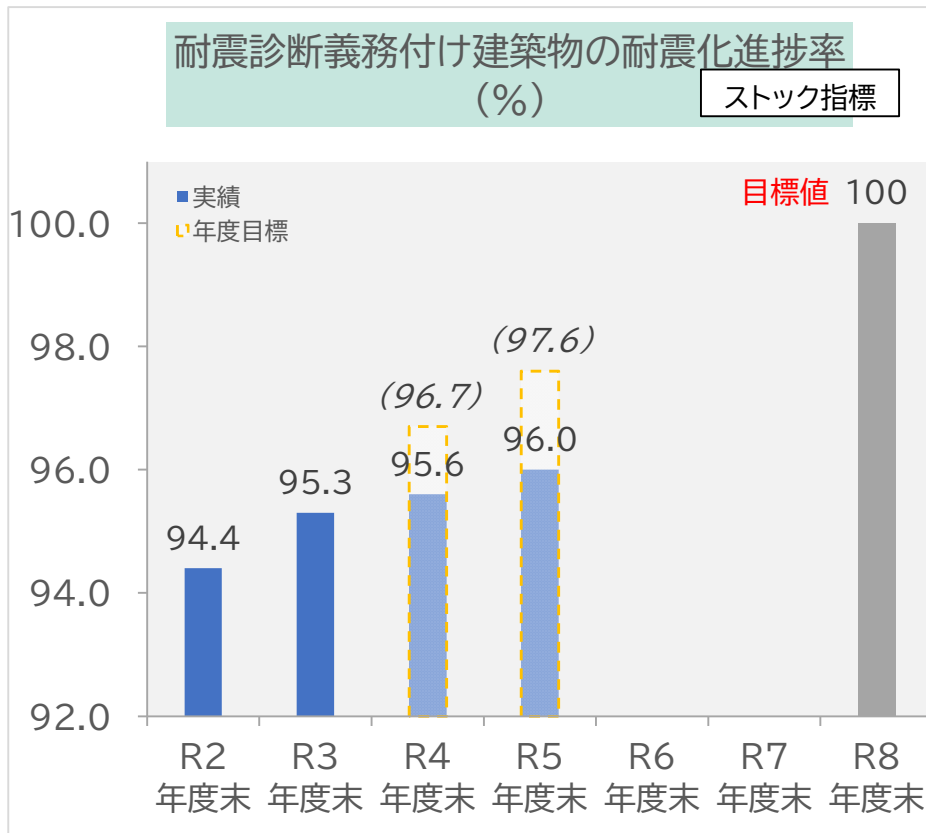
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 橋りょう毎に完了目標を設定し、計画的に整備を進めているため、年度目標を達成した。
- 対象橋りょうの耐震化に向け、引き続き計画的な取組を進めていく。

針路1

施策2 大地震に備えたまちづくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
5. 耐震診断義務付け建築物の耐震化進捗率	%	94.4 (R2年度末)	96.0 (R5年度末)	97.6 (R5年度末)	98.4%	策定時より改善	100 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

耐震診断が義務付けられた建築物のうち、耐震化が完了した割合。令和8年度末までに耐震診断義務付け建築物の耐震化進捗率100%を目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

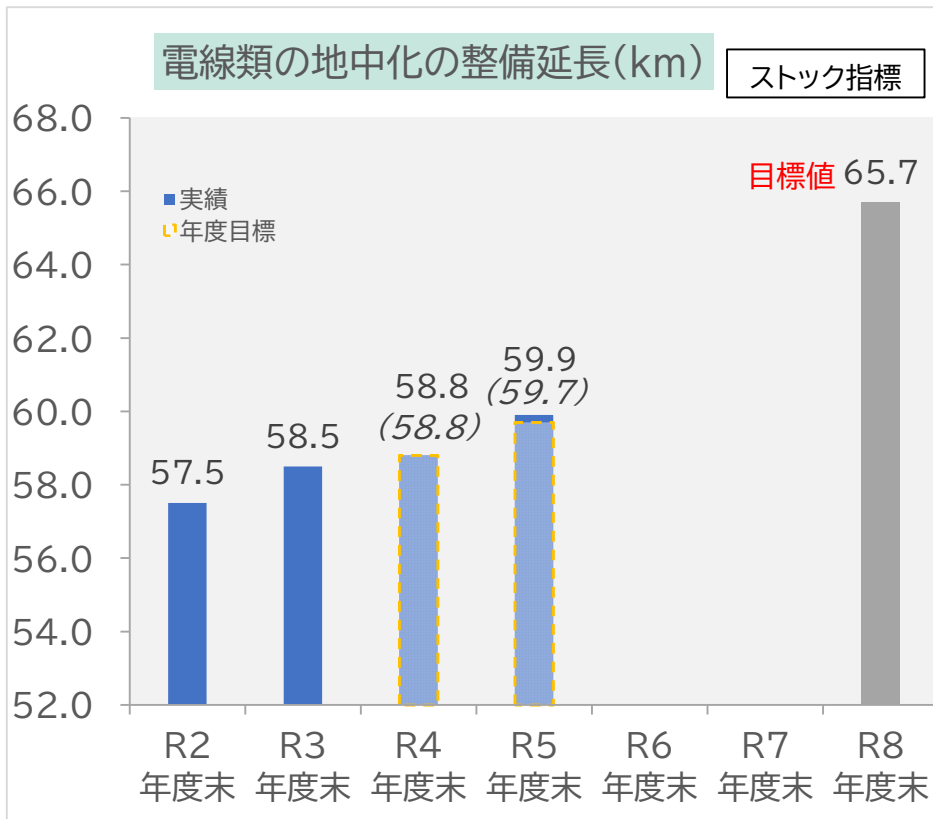
- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 未耐震の建築物所有者への個別訪問などによる働きかけを行ってきたものの、テナント等との調整の遅れなどにより、年度目標に到達しなかった。
- 引き続き、建築物所有者への個別訪問など耐震化の働きかけを強めていく。

針路1

施策2 大地震に備えたまちづくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
6. 電線類の地中化の整備延長	km	57.5 (R2年度末)	59.9 (R5年度末)	59.7 (R5年度末)	100.3%	年度目標達成	65.7 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

県管理道路のうち、電線類の地中化の整備が完了した延長。
過去5年間(平成28年度～令和2年度)の実績を踏まえ、同水準の整備延長を完了することを目指し、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 無電柱化推進計画に基づき計画的に整備を進めているため、年度目標を達成した。
- 引き続き電線管理者や占有者との調整を行い、電線類の地中化の整備を進めていく。

針路1

施策3 治水・治山対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
7. 治水対策によって床上浸水被害の解消が想定される家屋数	棟	— (—)	30 (R4～R5年度の累計)	30 (R4～R5年度の累計)	100.0%	年度目標達成	400 (R4～R8年度の累計)

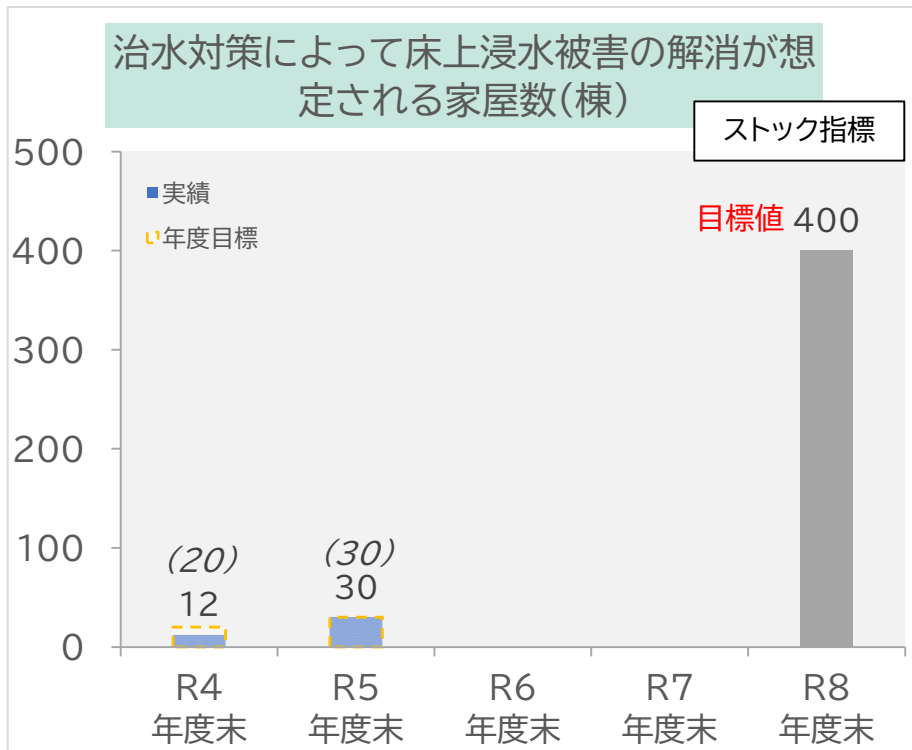
◀ 指標の説明 ▶

令和元年東日本台風において県内で床上浸水被害を受けた家屋(約2,000棟)のうち、令和元年東日本台風と同規模の降雨に対して、床上浸水被害の解消が理論上想定される棟数。

令和元年東日本台風と同規模の降雨に対し、河川改修や調節池の整備、市町村による内水対策を着実に進め、床上浸水被害を受ける家屋数を400棟減少させることを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 国の5か年加速化対策の活用により、予算を重点的に確保し、河川改修を進めているため、年度目標を達成した。
- 河道改修に加えて、浸水被害の解消に広域的な効果が発現される調節池の整備を引き続き進めていく。

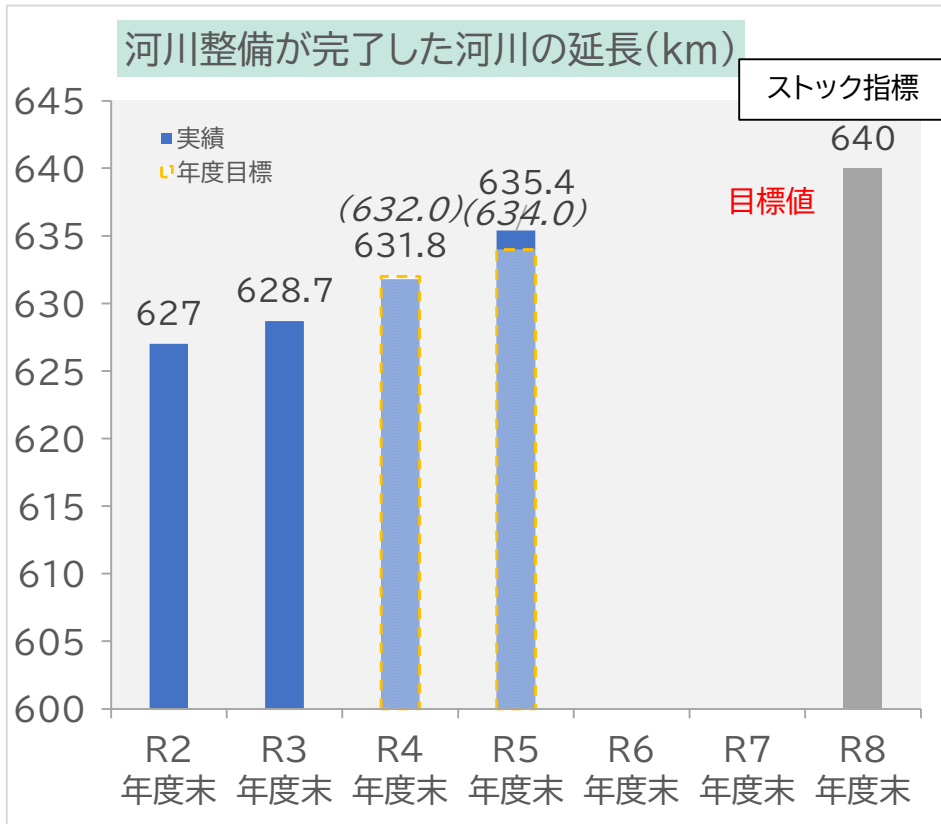


針路1

施策3 治水・治山対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
8. 河川整備が完了した河川の延長	km	627 (R2年度末)	635.4 (R5年度末)	634.0 (R5年度末)	100.2%	年度目標達成	640 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

県管理河川のうち、時間雨量50mm程度の降雨により発生する洪水を安全に流すための整備が完成した河川の延長。
河川整備が必要な河川の延長1,014kmのうち、事業効果の高い約13kmについて整備を完了することを目指し、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

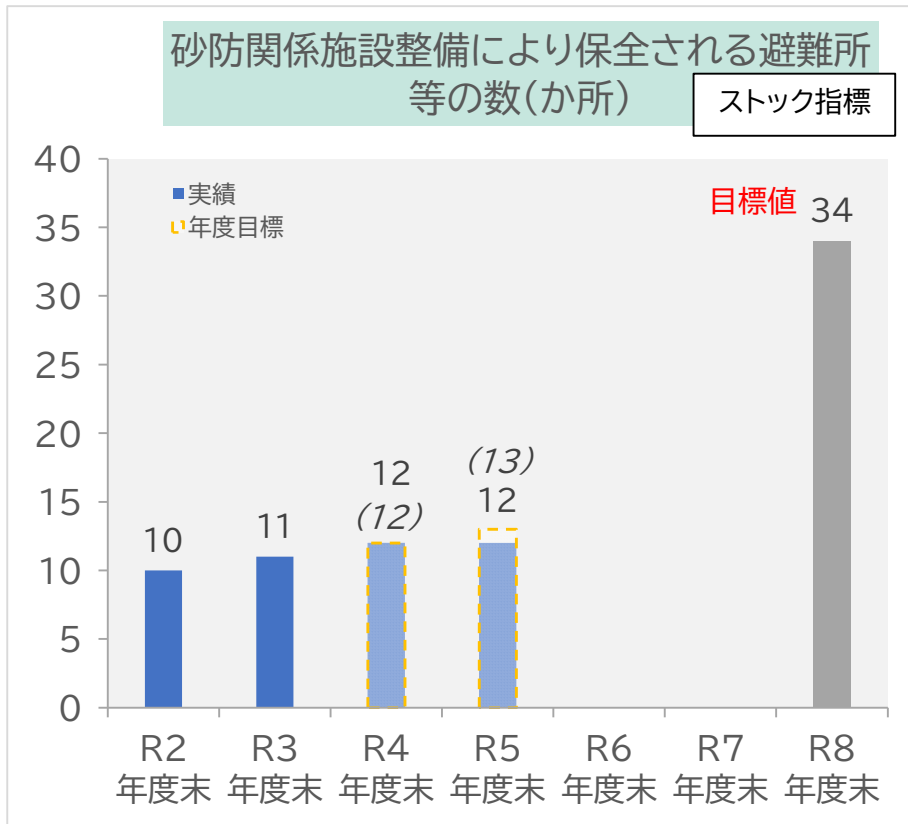
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 国の5か年加速化対策の活用により、予算を重点的に確保し、河川改修を進めているため、年度目標を達成した。
- 引き続き国の5か年加速化対策の活用により、予算を重点的に確保し、河川改修を引き続き進めていく。

針路1

施策3 治水・治山対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
9. 砂防関係施設整備により保全される避難所等の数	か所	10 (R2年度末)	12 (R5年度末)	13 (R5年度末)	92.3%	策定時より改善	34 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

砂防関係施設の整備により保全される土砂災害警戒区域内の避難所及び要配慮者利用施設の数。

土砂災害警戒区域内の避難所及び要配慮者利用施設168か所のうち、事業効果の高い24か所について保全することを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

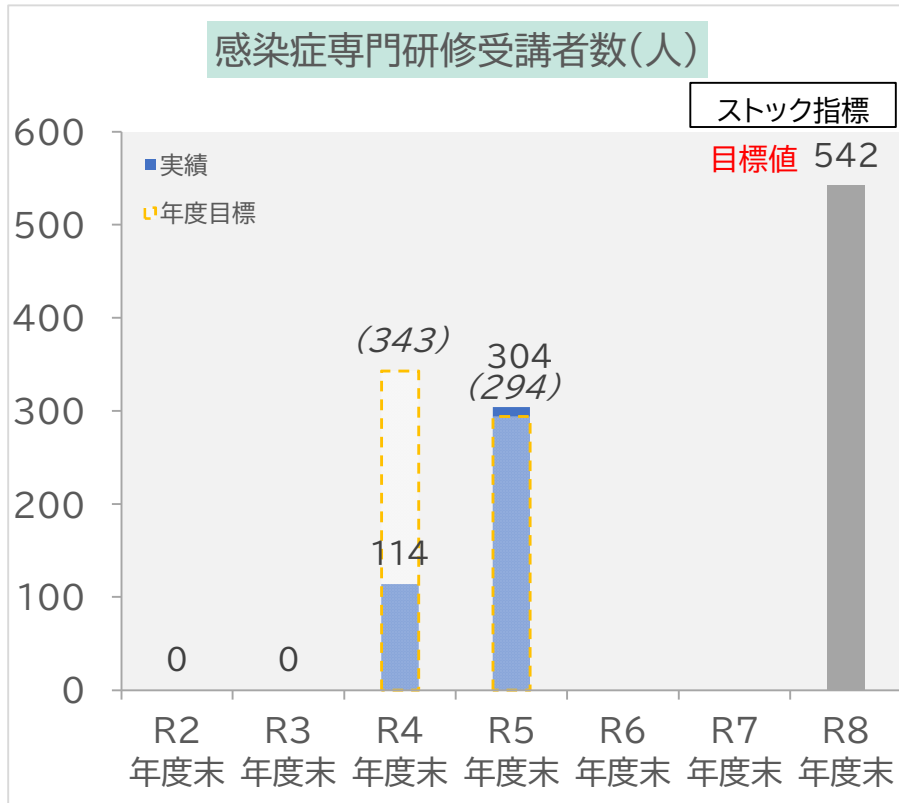
- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 砂防関係施設整備により保全される避難所や要配慮者利用施設などの優先度評価の高い区域から整備を実施している。完了予定であった整備箇所において、用地取得等の遅れから完了箇所が増えなかった。
- 整備が完了する箇所を優先的に実施し、国費等を最大限活用することにより、砂防関係施設の整備を進めていく。目標としている保全対象に対する整備を着実に進め、各整備箇所において早期に整備を完了するよう努める。

針路1

施策4 感染症対策の強化

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
10. 感染症専門研修受講者数	人	0 (R2年度末)	304 (R5年度末)	294 (R5年度末)	103.4%	年度目標達成	542 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

県が実施する感染症専門研修を受講した人数。
全入院医療機関542施設(病院343施設、有床診療所199施設)に1人ずつの感染症対策の専門人材を養成することを目指し、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

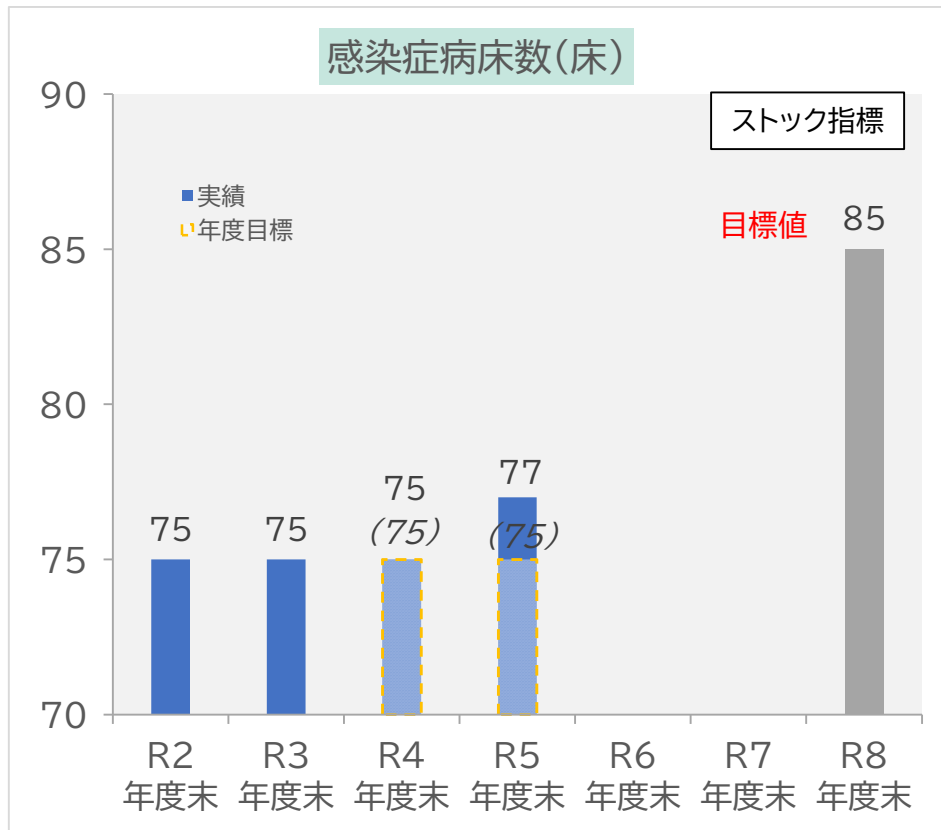
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い、医療現場が極めて多忙となり、研修における実習を引き受けられる医療機関、研修に現場の職員を派遣できる医療機関に限られたが、新たな医療機関の協力も得て、目標を達成できた。
- 受講者数は、実習可能な医療機関の受入体制によるところが大きいことから、引き続き医療機関と調整し受入可能者数を増やすように努めるとともに、派遣元医療機関に対し派遣を働きかけるなど研修生が受講しやすい環境整備に取り組む。

針路1

施策4 感染症対策の強化

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
11. 感染症病床数	床	75 (R2年度末)	77 (R5年度末)	75 (R5年度末)	102.7%	年度目標達成	85 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

新興・再興感染症のうち、エボラ出血熱やMERSなど県民に重篤な影響を及ぼす感染症について診察・治療が可能な感染症病床の整備数。県民に重篤な影響を及ぼす感染症の患者が発生した場合にも、早期治療を行い、まん延防止を図るため必要となる病床数として国の定めた基準を踏まえ、目標値を設定。

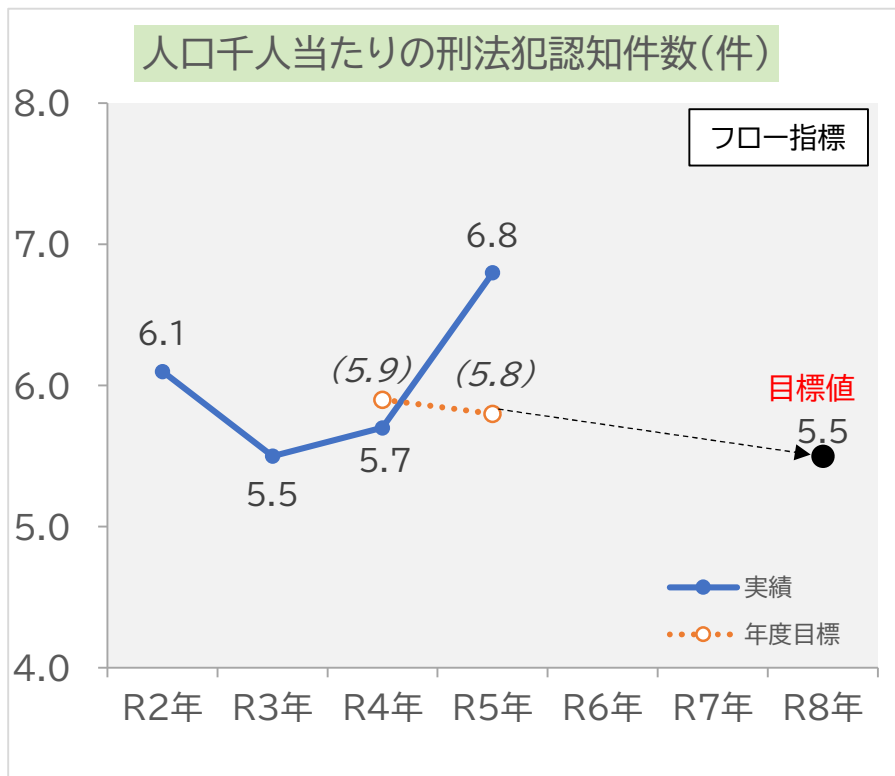
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 感染症指定医療機関との増床に係る変更協議を経て2床増床した。
- 新たな感染症発生に備え、感染症病床とは別に感染症患者への対応が可能な病床を医療措置協定に基づき確保する。感染症病床について、医療措置協定締結の締結状況も踏まえ、増床に取り組んでいく。

針路2 施策5 防犯対策の推進と捜査活動の強化

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
12. 人口千人当たりの刑法犯認知件数	件	6.1 (R2年)	6.8 (R5年)	5.8 (R5年)	85.3%	策定時より後退	5.5 (R8年)



≪ 指標の説明 ≫

県内で1年間(1月～12月)に警察において認知した刑法犯の事件数を、その年の県人口(推計人口)で割り、算出した人口千人当たりの刑法犯認知件数。

犯罪の減少傾向を持続させるため、令和2年の現状値6.1件から10%減少させることを目指し、目標値を設定。

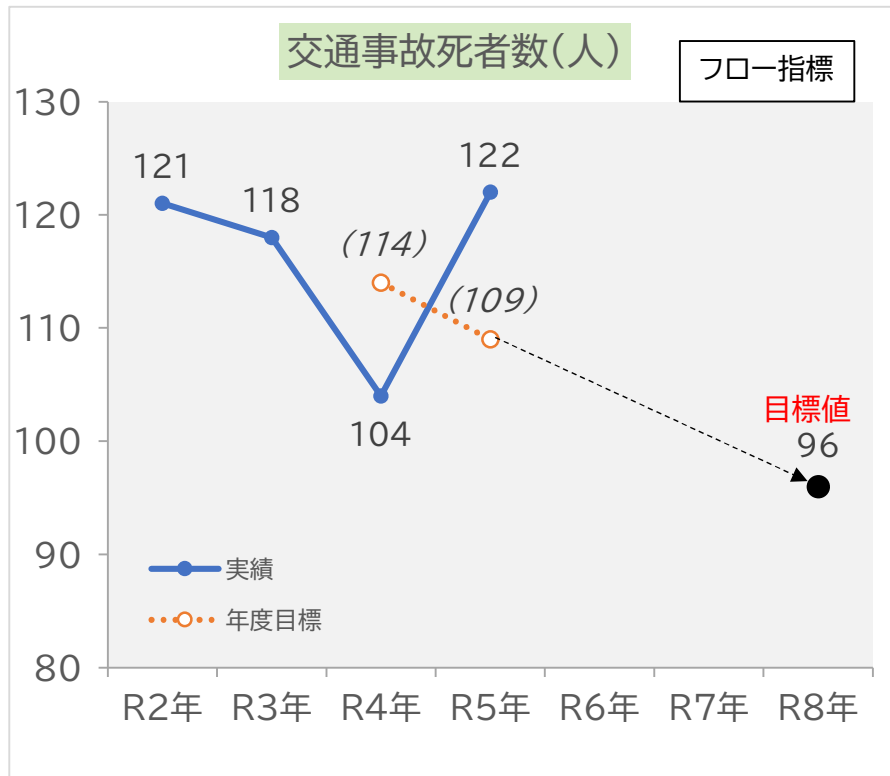
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、社会活動が活発になったことが大きな要因と考えられる。主には特殊詐欺、自転車盗、非侵入窃盗その他の罪種が増加している。
- 乗り物盗や金属類を対象とした窃盗等の増加した罪種を中心に、今後も、犯罪の抑止と検挙を両輪とする部門横断的な犯罪抑止対策を推進するとともに、自主防犯活動への支援、県民への情報発信等を積極的に実施し、県や市町村、事業者・団体と連携した抑止対策を推進する。

針路2 施策6 交通安全対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
13. 交通事故死者数	人	121 (R2年)	122 (R5年)	109 (R5年)	89.3%	策定時より後退	96 (R8年)



≪ 指標の説明 ≫

県内で1年間(1月～12月)に発生した交通事故による死者数(事故後24時間以内の死者)。
「第11次埼玉県交通安全計画」における令和7年の目標値(100人以下)を踏まえ、更に交通事故死者数を減少させることを目指し、目標値を設定。

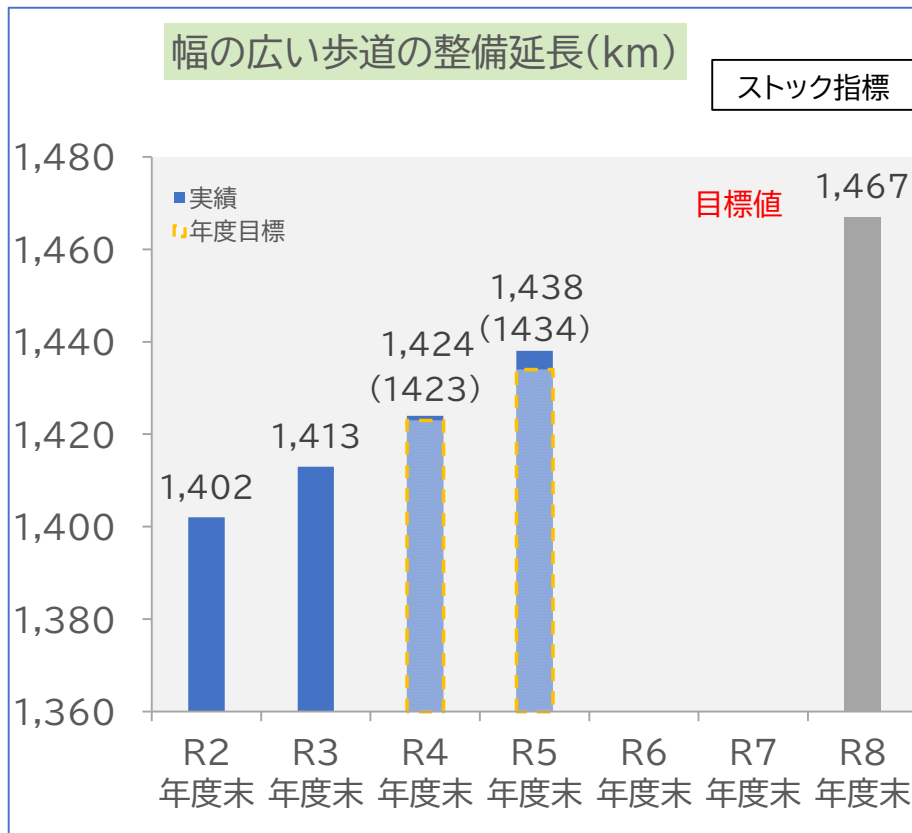
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- 新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、社会活動が活発になり、車両や歩行者の交通量が増加したことが要因の一つと考えられる。
- 引き続き、市町村や交通関係団体、交通ボランティア団体等と連携し、交通事故の発生状況の分析に基づき、交通事故死者数の多い、高齢者や歩行者をはじめとした各種交通安全対策を推進していく。

針路2 施策6 交通安全対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
14. 幅の広い歩道の整備延長	km	1,402 (R2年度末)	1,438 (R5年度末)	1,434 (R5年度末)	100.3%	年度目標達成	1,467 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

県が整備した道路のうち、少なくとも片側に幅員2.5m(有効幅員2.0m)以上の歩道が整備されている道路の延長。
過去5年間(平成28年度～令和2年度)の実績を踏まえ、同水準の整備延長を完了することを目指し、目標値を設定。

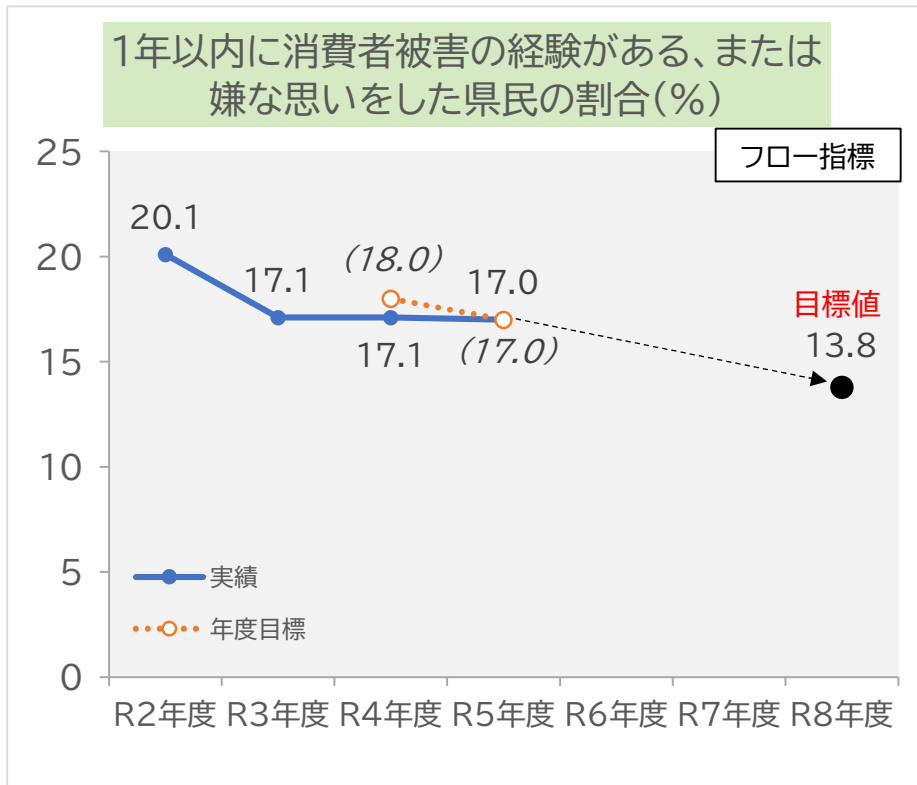
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 年度毎の整備目標を設定し、計画的に整備を進めているため、年度目標を達成した。
- 引き続き、用地取得や工事を進め、幅の広い歩道の整備を推進していく。

針路2 施策7 消費者被害の防止

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
15. 1年以内に消費者被害の経験がある、または嫌な思いをした県民の割合	%	20.1 (R2年度)	17.0 (R5年度)	17.0 (R5年度)	100.0%	年度目標達成	13.8 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県政世論調査で「訪問販売、電話勧誘販売、通信販売などにより行った契約で、経済的・物的な消費者被害の経験がある」または「嫌な思いをしたことがある」と回答した県民の割合。

消費者被害に遭いやすいとされる高齢者が増加する中であっても、過去5年間(平成28年度～令和2年度)の平均値(15.3%)よりも1割減少させることを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

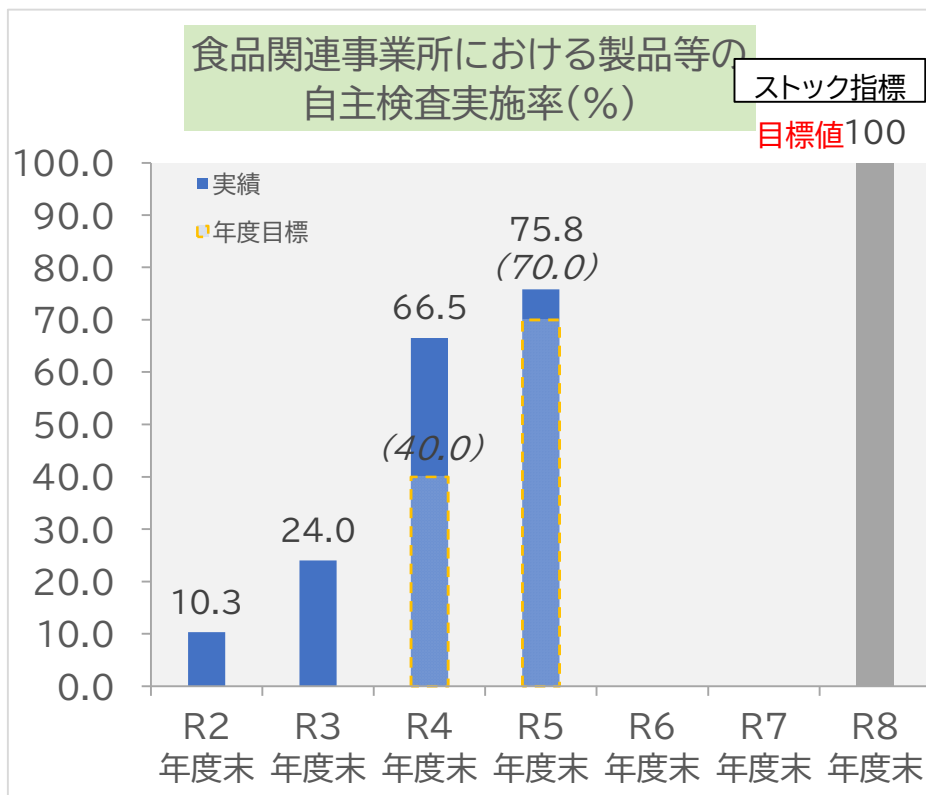
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 消費者被害の救済・未然防止を図るため、身近な市町村の消費生活相談体制の支援を行うとともに、消費者支援センター等において相談業務を実施した。また、悪質な事業者への処分・指導や消費者団体への育成・支援事業を実施するなど、消費者対策の推進を図った。
- 複雑かつ多様化する相談内容に対応するため、相談員の専門性の向上を図る。また、高齢者や若年者などの対象に見合った広報を実施するなどの対策を講じることで、被害の未然防止を図っていく。

針路2

施策8 食の安全・安心の確保

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
16. 食品関連事業所における製品等の自主検査実施率	%	10.3 (R2年度末)	75.8 (R5年度末)	70.0 (R5年度末)	108.3%	年度目標達成	100 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

食品関連事業所(「食品衛生法」等に基づきHACCPに沿った衛生管理を行うこととされている大規模事業者の施設及び広域流通食品等製造施設)において、HACCPの検証のための自主検査を実施している割合。

食中毒の発生を未然に防止し、食の安全・安心を確保するには、食品関連事業所における製品等の自主検査実施率を100%にする必要があることを踏まえ、目標値を設定。

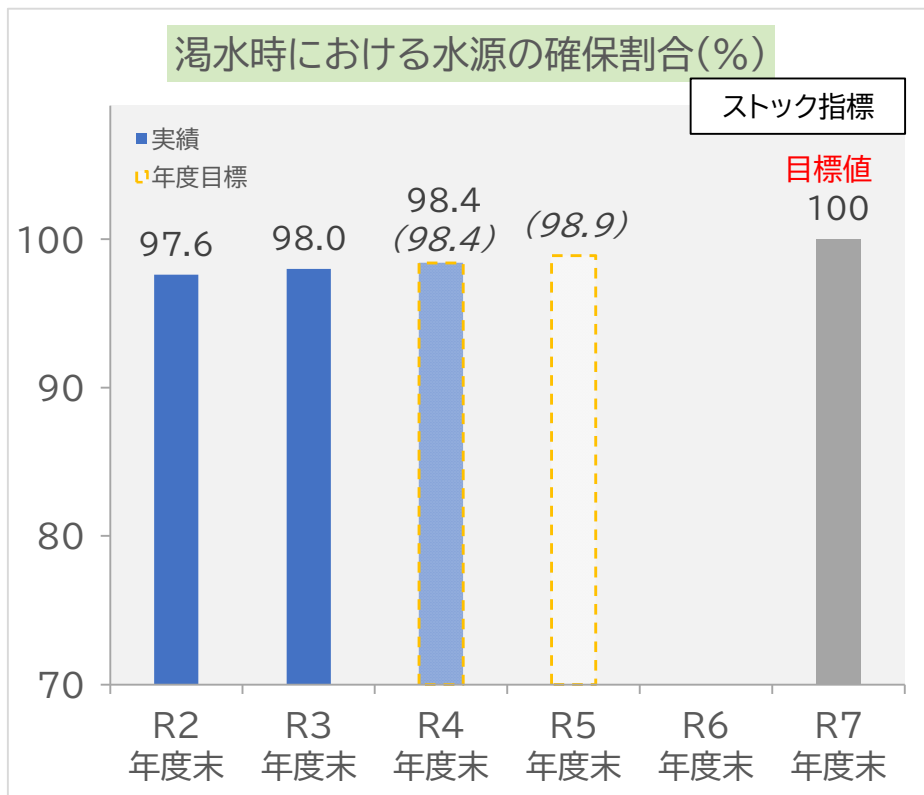
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 大規模事業者を中心に、効率的に自主検査実施状況の確認を行った結果、年度目標を上回った。
- 引き続き、大規模事業者の施設及び広域流通食品等製造施設に対して、自主検査実施状況を確認し、自主検査実施を推奨していく。

針路2 施策9 安全な水の安定供給と健全な水循環の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
17. 渇水時における水源の確保割合	%	97.6 (R2年度末)	98.4 (R4年度末)	98.4 (R4年度末)	100.0%	年度目標達成	100 (R7年度末)



≪ 指標の説明 ≫

埼玉県が必要とする取水量に対する、渇水時におけるダム等からの水の供給可能量の割合。
渇水時においても、日常生活に必要な水を安定的に確保する必要があり、水源の確保割合を100%にすることが必要であることを踏まえ、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

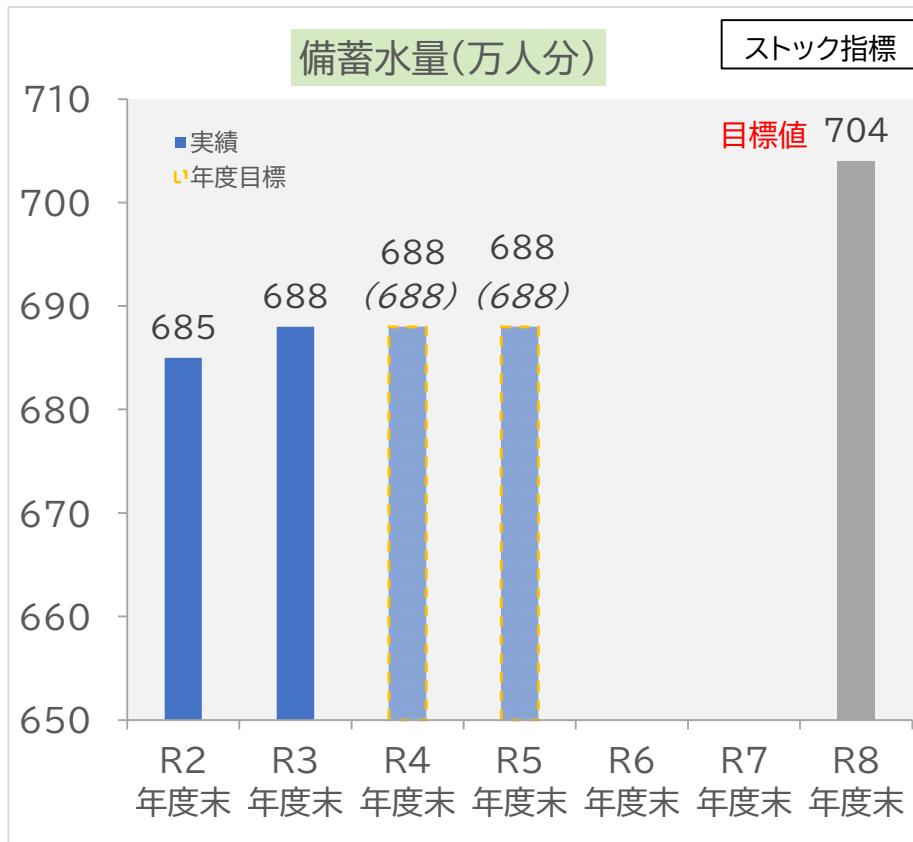
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 現在、水資源開発施設である思川開発事業が計画通り完成するよう、国及び独立行政法人水資源機構に働きかけているところであるが、令和4年度末時点では完成に至っていないため、渇水時供給可能量は増加していない。一方で、水需要が減少傾向にあることから必要取水量が低下し、指標算定値は改善している。
- 関係都県と連携し、コスト管理や進捗管理を行いながら、建設中の水資源開発施設が計画通りに完成するよう国及び独立行政法人水資源機構等に働きかけていく。

針路2

施策9 安全な水の安定供給と健全な水循環の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
18. 備蓄水量	万人分	685 (R2年度末)	688 (R5年度末)	688 (R5年度末)	100.0%	年度目標達成	704 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

浄水場などの貯水タンクに確保する水量。
 県営水道供給区域内の県民が復旧までの間必要となる水量(89L/人)を着実に供給できることを目指し、目標値を設定。

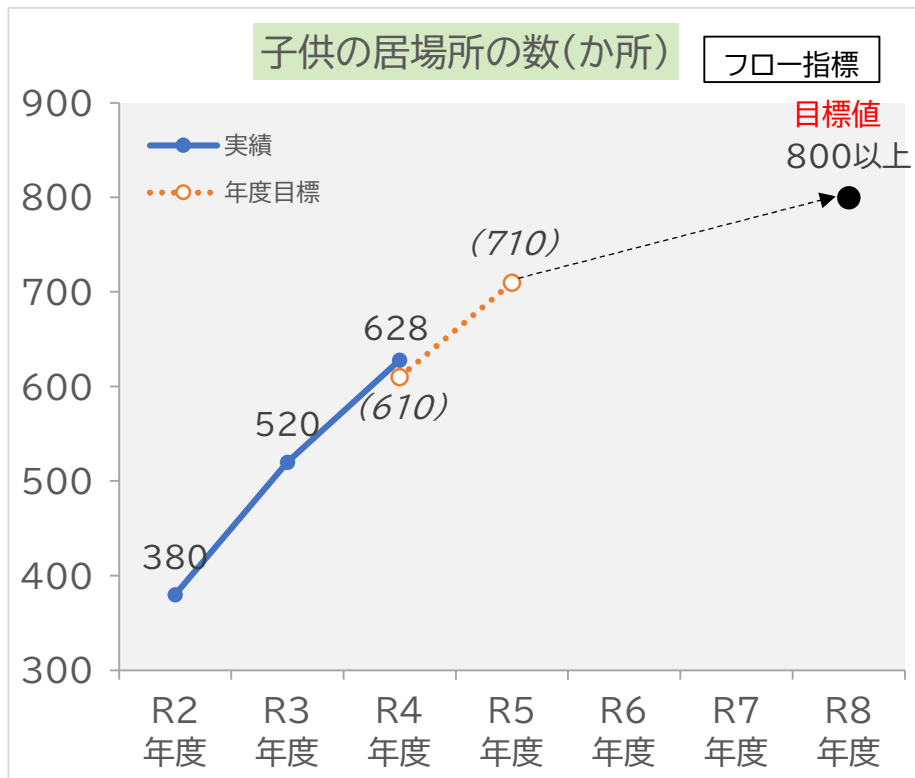
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 供用中の吉見浄水場関連施設の拡張など調整を必要とする整備に取り組み、備蓄水量の確保は計画どおり進捗している。
- 震災から県営水道復旧までの間(約1週間)、県民の生命と生活を守るには水道水を供給し続ける必要があるため、令和8年度の最終目標の達成を目指し吉見浄水場拡張関連事業に取り組む。

針路2 施策10 生活の安心支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
19. 子供の居場所の数	か所	380 (R2年度)	628 (R4年度)	610 (R4年度)	103.0%	年度目標達成	800以上 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

子ども食堂や無料塾、プレイパーク、多世代交流拠点などの子供の居場所の数。
子供たちが歩いて通えるよう、公立小学校の数(令和3年度806校)を目安に、目標値を設定。

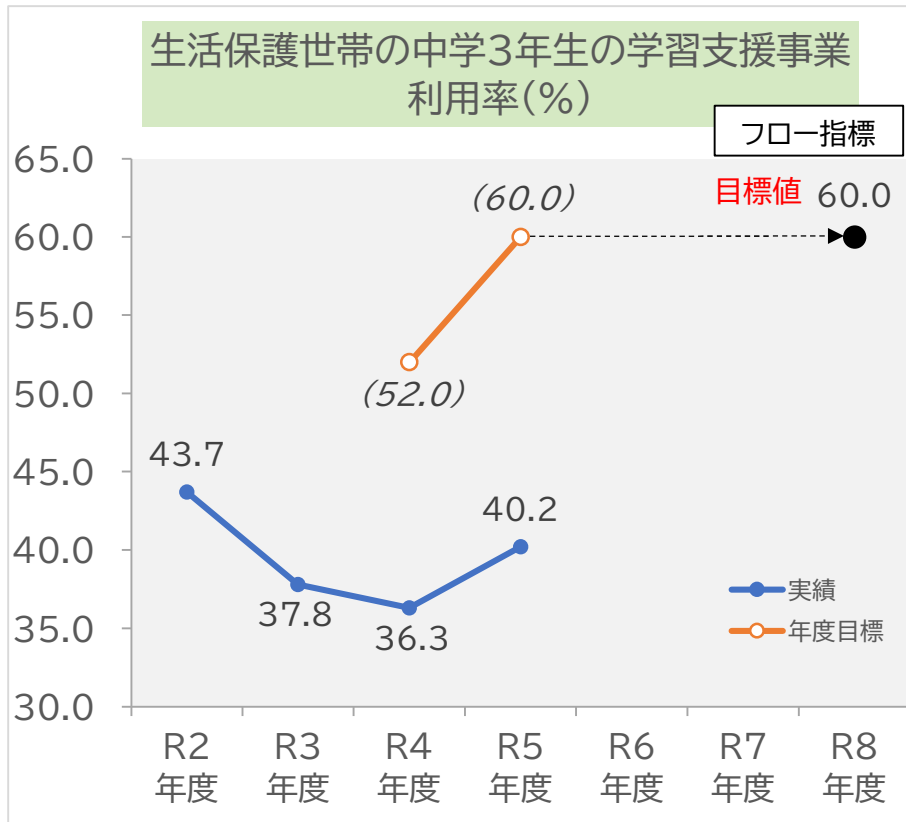
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- こども食堂などのこどもの居場所づくりを後押しするため、「こどもの居場所づくりアドバイザー」を161回派遣し、団体の新規立ち上げ・活動の継続を支援した。
- こどもの居場所団体等の立ち上げ・継続の支援を引き続き実施するとともに、こどもの居場所の認知拡大及び機運醸成を図る。

針路2 施策10 生活の安心支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
20. 生活保護世帯の中学3年生の学習支援事業利用率	%	43.7 (R2年度)	40.2 (R5年度)	60.0 (R5年度)	67.0%	策定時より後退	60.0 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

生活保護世帯の中学3年生のうち、学習支援事業を利用している割合。
 中学3年生の通塾率(約6割)と同率を目指し、目標値を設定。

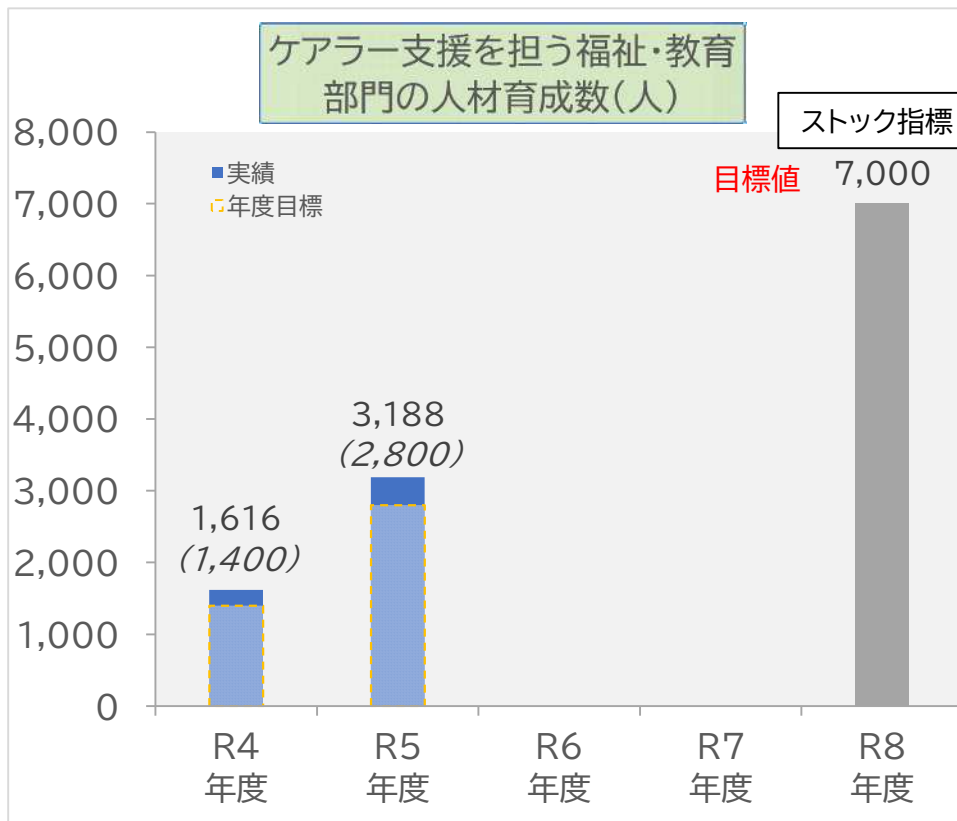
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- 県所管の町村部教室では目標値を達成している一方、人口の多い市部では、市への事業趣旨の浸透を図り、利用率向上に向けた働きかけを行っているものの、各市ごとの事業利用率には差があり、全体として年度目標に及ばなかった。
- これまで蓄積してきたノウハウをまとめたマニュアルを作成し市に配布したほか、ケースワーカーへの出前講座やロールプレイ等の実践的な研修を通じて市部の利用率向上に向けた支援を行う。

針路2 施策10 生活の安心支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
21. ケアラー支援を担う福祉・教育部門の人材育成数	人	— (—)	3,188 (R4～R5年度の累計)	2,800 (R4～R5年度の累計)	113.9%	年度目標達成	7,000 (R4～R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

県が実施するケアラー支援に関する福祉部門、教育部門の関係者向け研修を受講した人数の累計。
 「埼玉県ケアラー支援計画」の令和5年度の目標値(令和3～5年度の累計で福祉部門3,000人、教育部門1,000人)を踏まえ、毎年度、約1,400人に対し研修を実施し、ケアラーからの相談に対応できる人材を増やすことを目指し、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

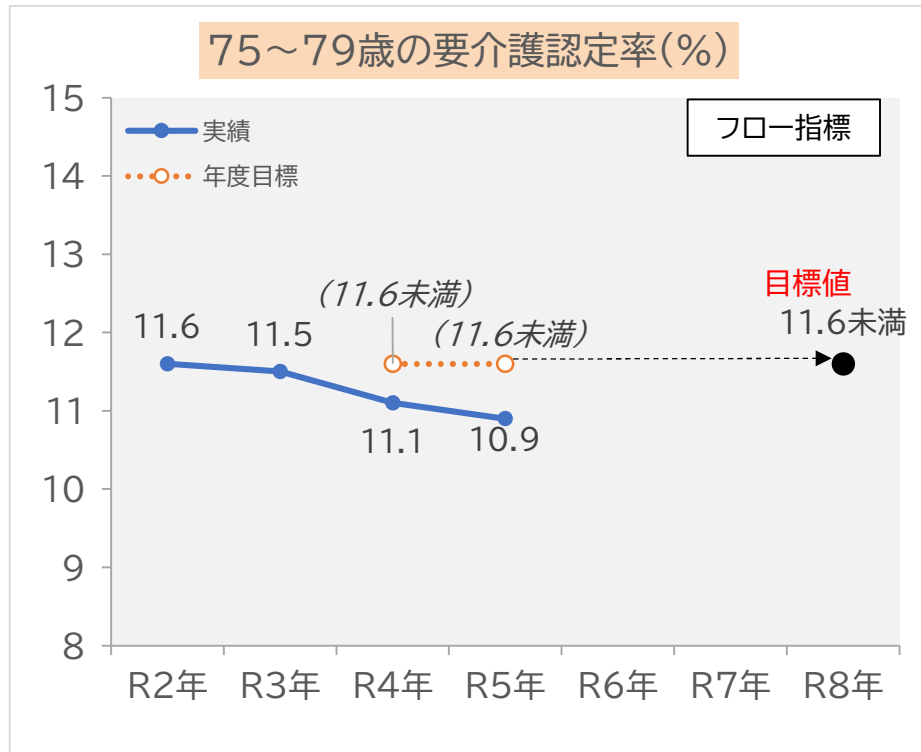
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 地域包括支援センター・障害者相談支援事業所・市町村等を対象とした研修、主任児童委員やこどもの居場所運営者等向けの研修、学校等の教員と市町村福祉担当職員等との合同研修について、市町村等のニーズを踏まえながら研修内容を構成し、事前の周知もしっかり行い着実に実施したことで、年度目標を達成した。
- より多くの方に受講いただくとともに、ケアラー支援のために効果的な内容となるよう、研修内容等を工夫しながら継続して研修を実施していく。

針路3

施策11 地域で高齢者が安心して暮らせる社会づくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
22. 75～79歳の要介護認定率	%	11.6 (R2年)	10.9 (R5年)	11.6未満 (R5年)	106.4%	最終目標を上回る	11.6未満 (R8年)



◀ 指標の説明 ▶

75～79 歳の人のうち、要介護(支援)認定を受けている人の割合。本県は後期高齢者数の増加率が高いことから今後は要介護認定率の上昇が見込まれるため、介護予防の取組などにより、現行の水準より下げることを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

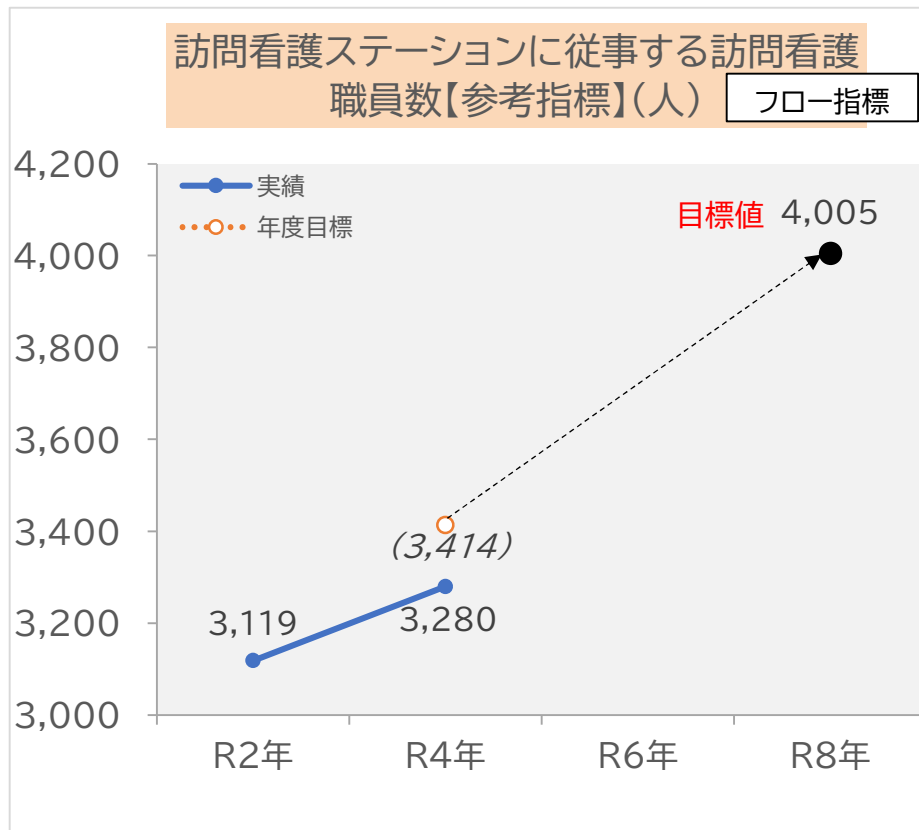
- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 近年の健康志向の高まりに加え、市町村の介護予防の取組が進んだことなどから数値が改善したと考えられる。
- 今後、団塊の世代が70歳代後半になっていく中、早い段階から介護予防に取り組める環境づくりを進めるため、保健・福祉の専門職団体などと連携するとともに、市町村に対しては実情に応じた支援を進め、介護予防の取組を強化していく。

針路3

施策11 地域で高齢者が安心して暮らせる社会づくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
23. 訪問看護ステーションに従事する訪問看護職員数【参考指標】	人	3,119 (R2年)	3,280 (R4年)	3,414 (R4年)	96.1%	策定時より改善	4,005 (R8年)



◀ 指標の説明 ▶

訪問看護ステーションに従事する看護職員の数。
今後見込まれる在宅医療需要の増加により令和7年(2025年)に必要な訪問看護職員数(推計3,857人)を踏まえ、訪問看護職員数を更に増加させることを目指し、目標値を設定。

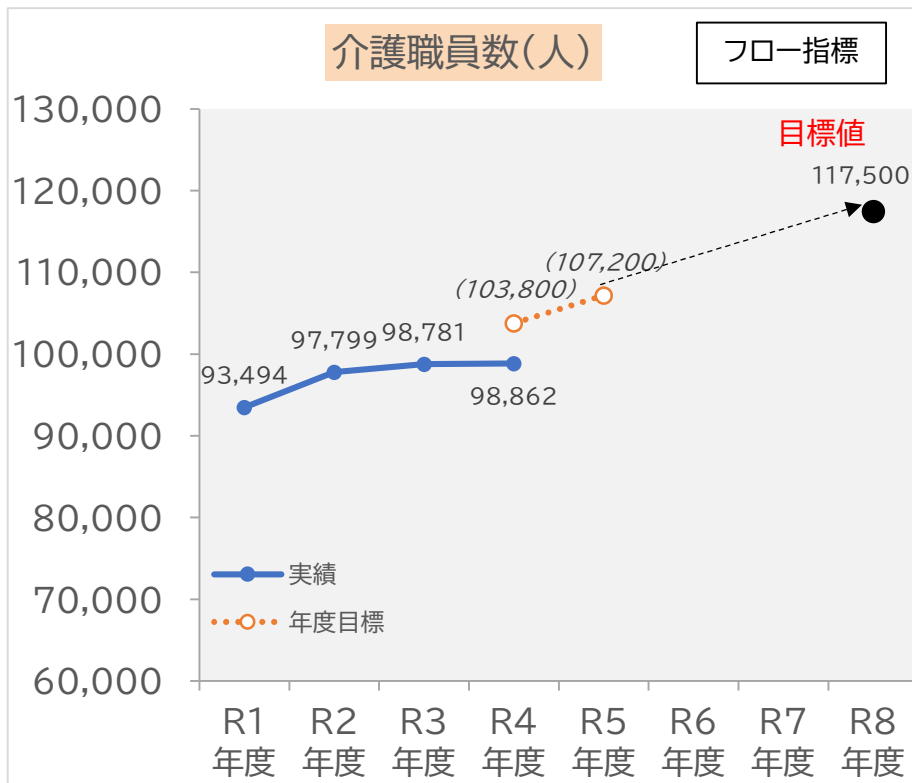
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 訪問看護師育成プログラム研修事業や訪問看護師育成事業補助金等により、訪問看護職員の確保・育成を図ってきたが、訪問看護事業所向けのアンケートの結果、訪問看護職員の離職率が16.2%であり、看護職員全体の離職率(13.0%)より高く定着に課題がある。
- 新人訪問看護職員向けの訪問看護師育成プログラム研修や看護学生等向けの体験実習事業、訪問看護事業所に対する訪問看護師育成事業補助金等の実施により、訪問看護職員の確保・定着・育成に向けた支援を継続する。

針路3 施策12 介護人材の確保・定着対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
24. 介護職員数	人	93,494 (R1年度)	98,862 (R4年度)	103,800 (R4年度)	95.2%	策定時より改善	117,500 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

介護施設・事業所に勤務する介護職員数。
 国の介護人材需給推計方法に基づいて算出した令和7年度の必要介護職員数(114,644人)を踏まえ、更に介護職員数を増加させることを目指し、目標値を設定。

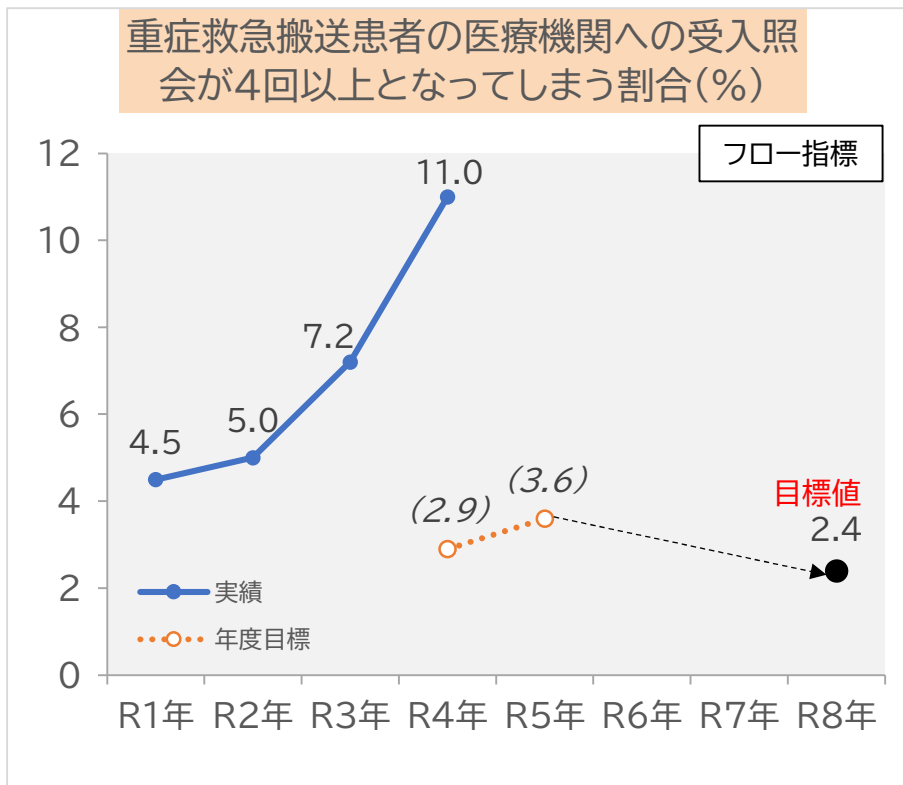
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 介護職員しっかり応援プロジェクトや介護未経験者等への就労支援に取り組んだことにより、計画策定時より増加している。
- 令和6年度は「埼玉の介護の魅力プロモーション事業」の予算を増額し、取組を強化する。また、職員の資格取得支援やキャリアに応じた研修を実施するとともに、介護ロボットやICTの導入によって介護現場の生産性の向上を図ることで、職員の定着につなげる。

針路3 施策13 地域医療体制の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
25. 重症救急搬送患者の医療機関への受入照会が4回以上となってしまう割合	%	4.5 (R1年)	11.0 (R4年)	2.9 (R4年)	26.4%	策定時より後退	2.4 (R8年)



◀ 指標の説明 ▶

重症以上の救急搬送患者のうち、医療機関への受入照会が4回以上となった患者の割合。
直近の全国平均である2.4%(令和元年)を下回ることを目指し、目標値を設定。

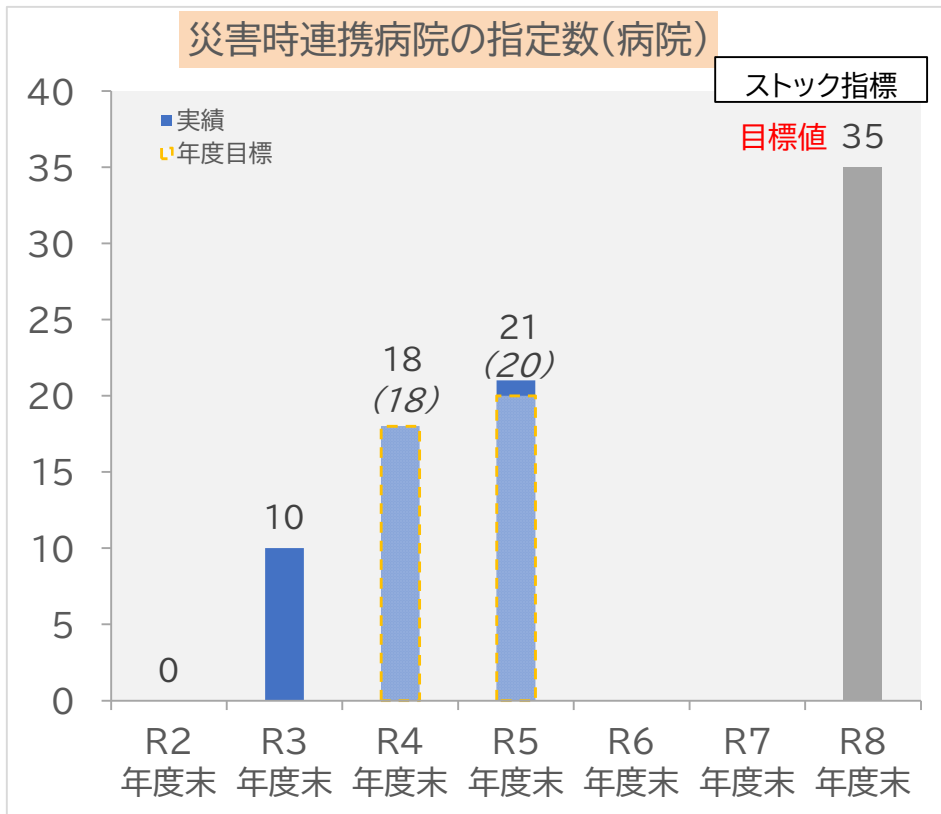
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- 新型コロナウイルス感染症拡大や高齢化等による救急搬送件数の増加に加え、発熱患者の受入など受入体制が通常時と異なったこともあり、策定値より後退した。
- 引き続き、救急搬送体制の強化、受入医療機関の整備、適正受診の推進の3本柱を取り組んでいく。

針路3 施策13 地域医療体制の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
26. 災害時連携病院の指定数	病院	0 (R2年度末)	21 (R5年度末)	20 (R5年度末)	105.0%	年度目標達成	35 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

災害時に災害拠点病院と連携し、中等症患者などを受け入れる病院の指定数。
 災害拠点病院(令和2年度末22病院)と円滑に連携できる体制の確立及び地域偏在の解消を目指し、目標値を設定。

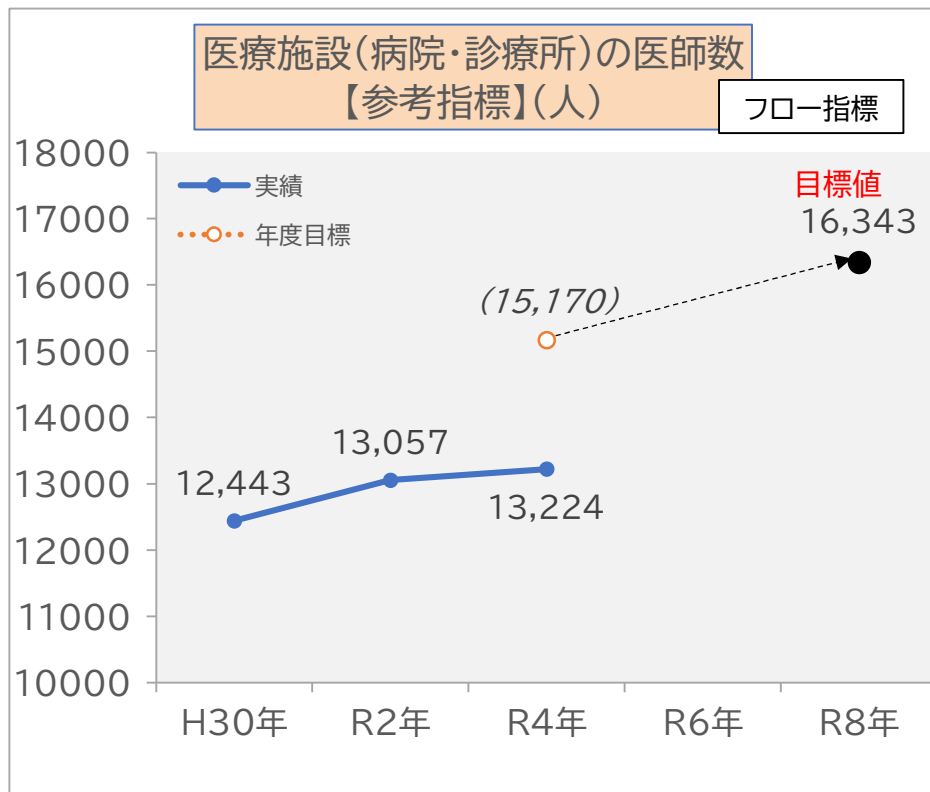
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 埼玉独自DMAT養成研修等の支援を行い、令和5年度に新たに3病院を災害時連携病院に指定し、年度目標を達成した。
- 今後も引き続き協力病院の確保に努めるとともに、埼玉地域DMAT養成研修等を実施し、災害時連携病院の増加を図る。

針路3 施策14 医師・看護師確保対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
27. 医療施設(病院・診療所)の医師数【参考指標】	人	12,443 (H30年)	13,224 (R4年)	15,170 (R4年)	87.2%	策定時より改善	16,343 (R8年)



≪ 指標の説明 ≫

医療施設に従事する医師数。
 医師確保の取組により、本県の人口10万人当たり医師数(平成30年169.8人)について、社会・経済的条件が近似する千葉県、神奈川県、埼玉県の3県の近年の増加傾向を踏まえた平均値(令和8年223.3人)に達することを目指し、目標値を設定。
 ※目標値を達成するために必要な医師数は3,900人(人口換算により算出)。

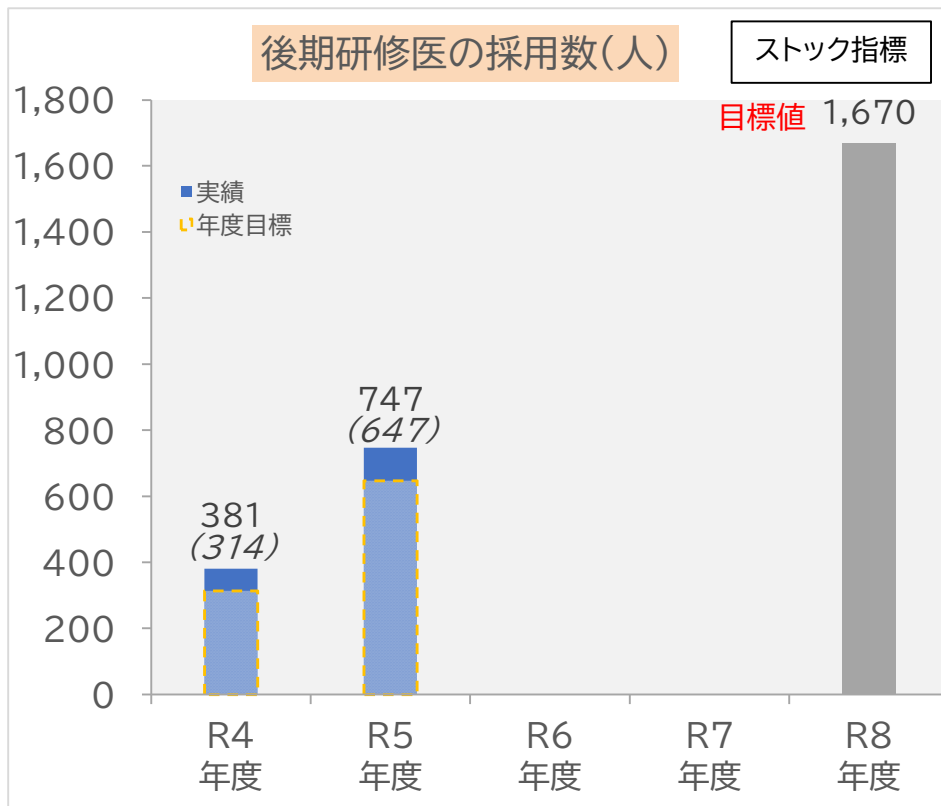
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 奨学金等の貸与やガイドブックの作成、合同説明会の開催等の取組を行ったことにより、目標値に向けて着実に増加している。
- これまでの取組に加え、医学生奨学金の貸与枠の増枠や、県内の専門研修プログラムをPRするための特設WEBサイトを運用する等の取組を行い、県内医師数の更なる増加、定着を図る。

針路3 施策14 医師・看護師確保対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
28. 後期研修医の採用数	人	— (—)	747 (R4～R5年度の累計)	647 (R4～R5年度の累計)	115.5%	年度目標達成	1,670 (R4～R8年度の累計)



◀ 指標の説明 ▶

専門研修基幹病院において採用された後期研修医の人数。
「第7次埼玉県地域保健医療計画」における令和5年度の目標値(333人)を踏まえ、更に後期研修医の採用数を増加させることを目指し、目標値を設定。

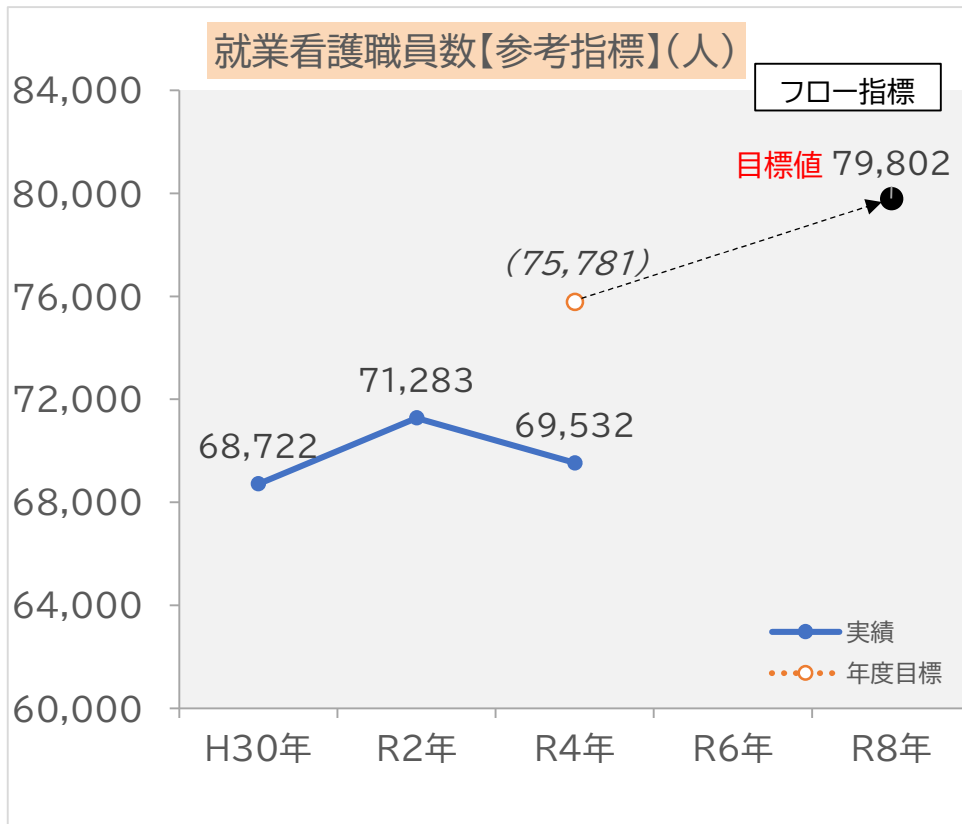
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 後期研修医の県内医療機関への誘導・定着を促進するため、後期研修を県内病院で受講してもらえるよう、県内の専門研修プログラムをPRする特設WEBサイトの構築や、専門研修プログラムガイドブックの作成などを行い、魅力を発信してきたことにより、後期研修医の採用者数は着実に増加してきている。
- 専門研修プログラムガイドブックの作成を行うとともに、県内の専門研修プログラムをPRする特設WEBサイトのコンテンツの拡充と周知を行い、更なる後期研修医の確保を図る。

針路3 施策14 医師・看護師確保対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
29. 就業看護職員数【参考指標】	人	68,722 (H30年)	69,532 (R4年)	75,781 (R4年)	91.8%	策定時より改善	79,802 (R8年)



≪ 指標の説明 ≫

保健師、助産師、看護師、准看護師の免許を取得している者のうち就業しているものの人数。

国の供給推計方法に基づいて算出した令和7年の看護職員の供給推計が78,416人であることを踏まえ、看護職員数を更に増加させることを目指し、目標値を設定。

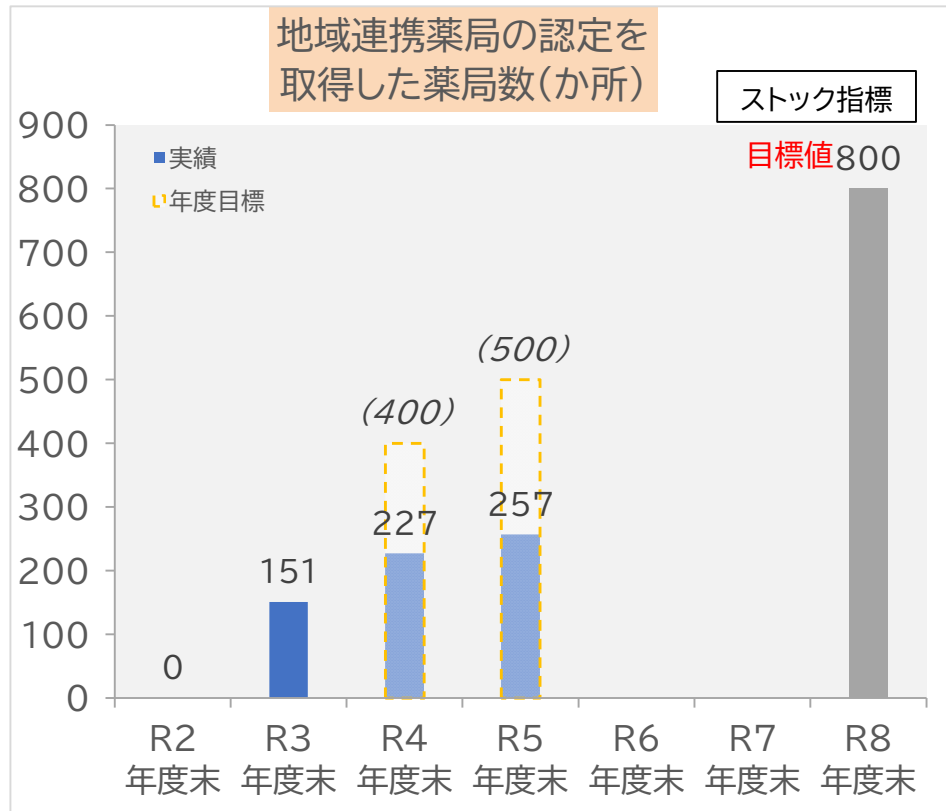
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 看護学生への支援や新人看護職員の定着支援、潜在看護職員の復職定着支援などに取り組み、看護職員の確保を図ってきたが県内看護職員の離職率が13.0%であり、全国平均(11.8%)より高く定着に課題がある。
- 看護学生への支援や新人看護職員の定着支援、潜在看護職員の復職定着支援などに取り組み、看護職員の確保を図る。令和5年度からは潜在看護職員の復職定着支援を行うナースセンターの機能を強化することでより潜在看護職員の復職を促進する取組を行っている。

針路3 施策15 医薬品などの適正使用の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
30. 地域連携薬局の認定を取得した薬局数	か所	0 (R2年度末)	257 (R5年度末)	500 (R5年度末)	51.4%	策定時より改善	800 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

かかりつけ薬剤師・薬局のうち、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に基づく地域連携薬局の認定を取得した薬局数。

日常生活圏域(中学校区)において、患者が自身に適した地域連携薬局を選択できるよう、公立中学校(令和3年度416校)の数を2倍した数を目安に、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

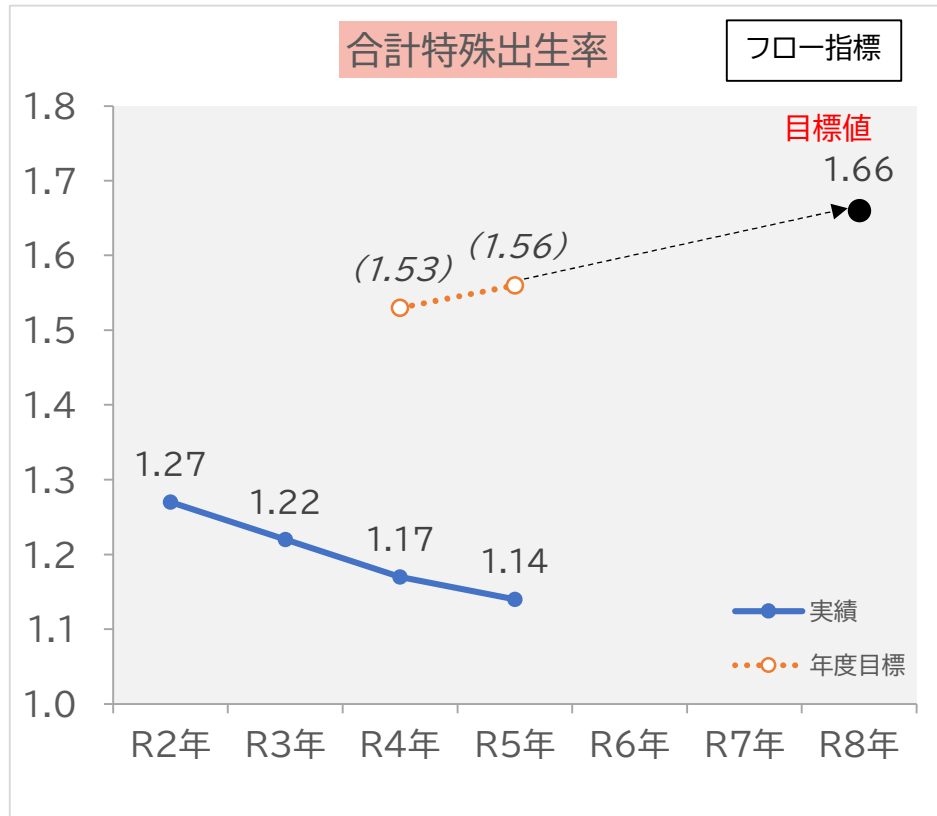
- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 地域連携薬局の制度を薬局関係者に周知したものの、認定薬局への理解が十分浸透していないことや認定申請書の添付書類作成の困難度が高いこと及び診療報酬加算がなく認定取得によるメリットが少ないことなどにより年度目標に至らなかった。
- 地域連携薬局に関する制度概要等を掲載及び県薬剤師会と連携し多くの薬局関係者が参加する研修会での説明による周知の取組を進めていく。併せて必要に応じ国に対して制度設計の見直しや診療報酬加算の創設などを働きかける。

針路4 施策16 きめ細かな少子化対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
31. 合計特殊出生率	-	1.26 (R2年)	1.14 (R5年)	1.56 (R5年)	73.1%	策定時より後退	1.66 (R8年)

※令和2年埼玉県の人口動態概況(概数)。確定値は1.27。
 ※最新値の数値は人口動態概況(概数)。



≪ 指標の説明 ≫

15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が一生の間に生む子供の数に相当する。
 令和12年に県民の希望出生率1.78を実現することを目指し、目標値を設定。

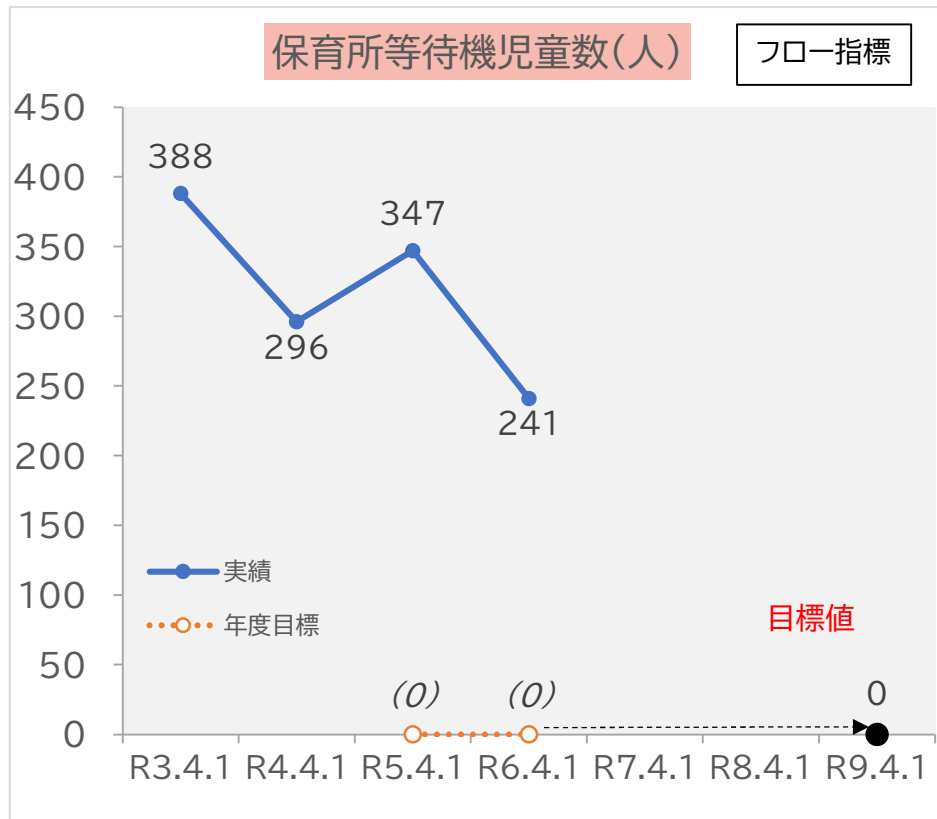
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- 未婚化の進行などが大きく影響を与えており、その背景には、経済的な不安定さ、出会いの機会の減少、仕事と子育ての両立の難しさなど様々な要因が複雑に絡み合っている。
- 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に加え、経済・雇用、教育、まちづくりなどの幅広い分野にわたって、総合的な取組を継続的に実施していく。

針路4 施策17 子育て支援の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
32. 保育所等待機児童数	人	388 (R3.4.1)	241 (R6.4.1)	0 (R6.4.1)	0.0%	策定時より改善	0 (R9.4.1)



≪ 指標の説明 ≫

保育の必要性の認定を受け、保育所等の利用の申込みがされているが、利用できていない人数(特定の保育所等への希望や育児休業延長の意思の確認ができた者などを除く)。
計画期間中は常に待機児童がいない状態を目指し、目標値を設定。

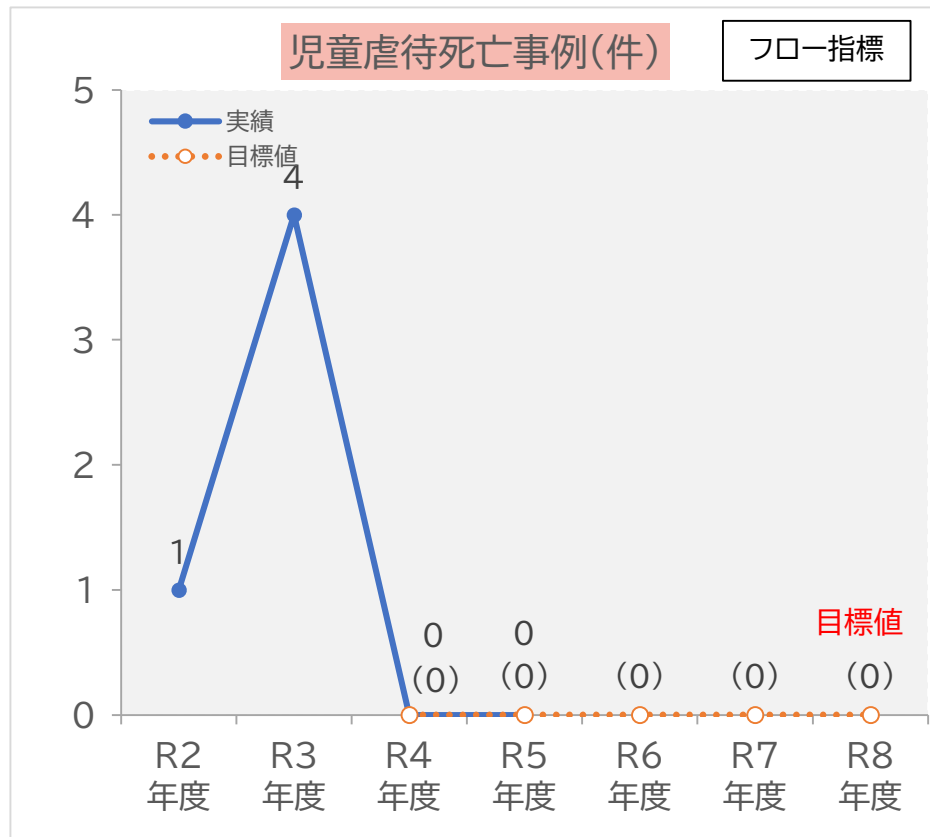
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 保育所等の整備による定員増加により、前年比で大きく数を減らすことができ、策定時より改善している。待機児童数の目標を達成できていない理由としては、自治体が想定困難な戸建て住宅の建設による申込児童の増加等の影響が考えられる。
- 待機児童の年齢別では特に1, 2歳児が多いため、同世代の受け皿となる小規模保育事業所の整備を進めるなど、地域の実情に応じた待機児童対策を進めてもらえるよう、市町村に働きかけを行い、待機児童ゼロを目指していく。

針路4 施策18 児童虐待防止・社会的養育の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
33. 児童虐待死亡事例	件	4 (H28~R2年度)	0 (R5年度:暫定)	0 (R5年度)	100.0%	年度目標達成	0 (R4~R8の各年度)



◀ 指標の説明 ▶

児童虐待により死亡に至った事例の数。
虐待による死亡事例を根絶するため、毎年度死亡事例を発生させないことを目指し、目標値を設定。

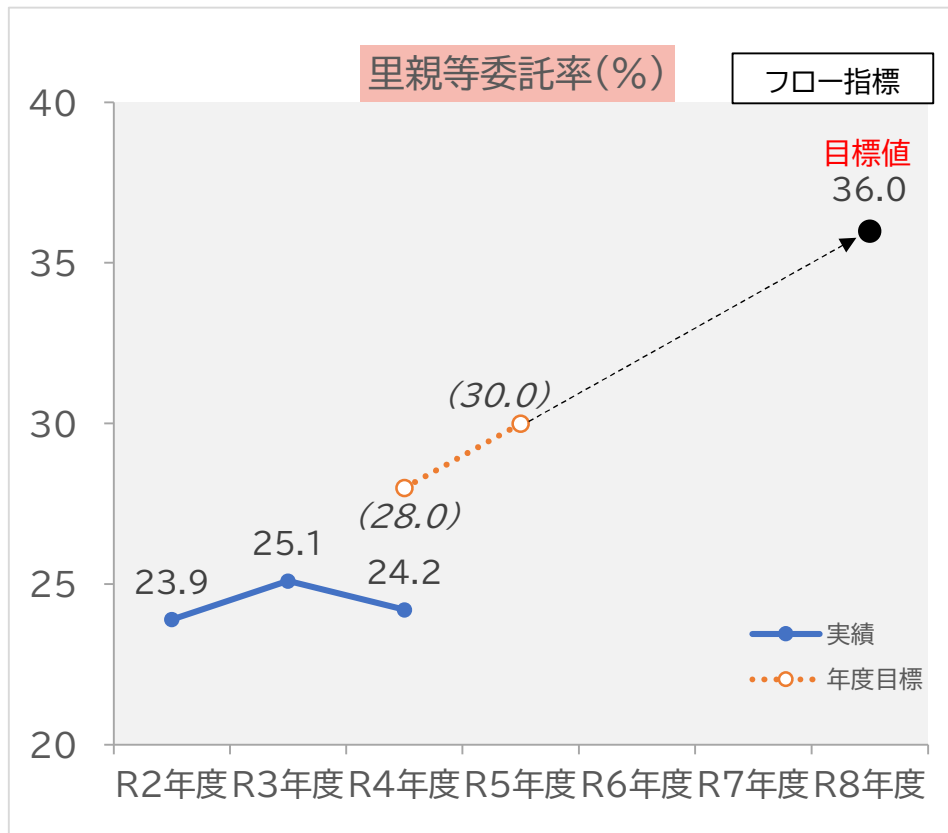
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 児童虐待防止に関する普及啓発、通告や相談窓口の周知、市町村職員への研修の実施等により、虐待の発生予防及び早期発見に努めた。児童相談所の体制強化等により、児童虐待対応の強化を図った。あわせて、再発防止対策に取り組み、市町村や関係機関への共有も図った。
- 引き続き、普及啓発、通告や相談窓口の周知、児童相談所の体制強化、関係機関との連携及び児童虐待重大事例検証委員会の提言を踏まえた取組等を着実に実施し、児童虐待の発生予防、早期発見、早期対応に努めていく。

針路4 施策18 児童虐待防止・社会的養育の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
34. 里親等委託率	%	23.9 (R2年度)	24.2 (R4年度)	28.0 (R4年度)	86.4%	策定時より改善	36.0 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

社会的養育が必要な児童のうち、里親等(里親及びファミリーホーム)において養育されている児童の割合。
「埼玉県子育て応援行動計画」における令和6年度の目標値(32%)を踏まえ、里親等委託率を更に向上させることを目指し、目標値を設定。

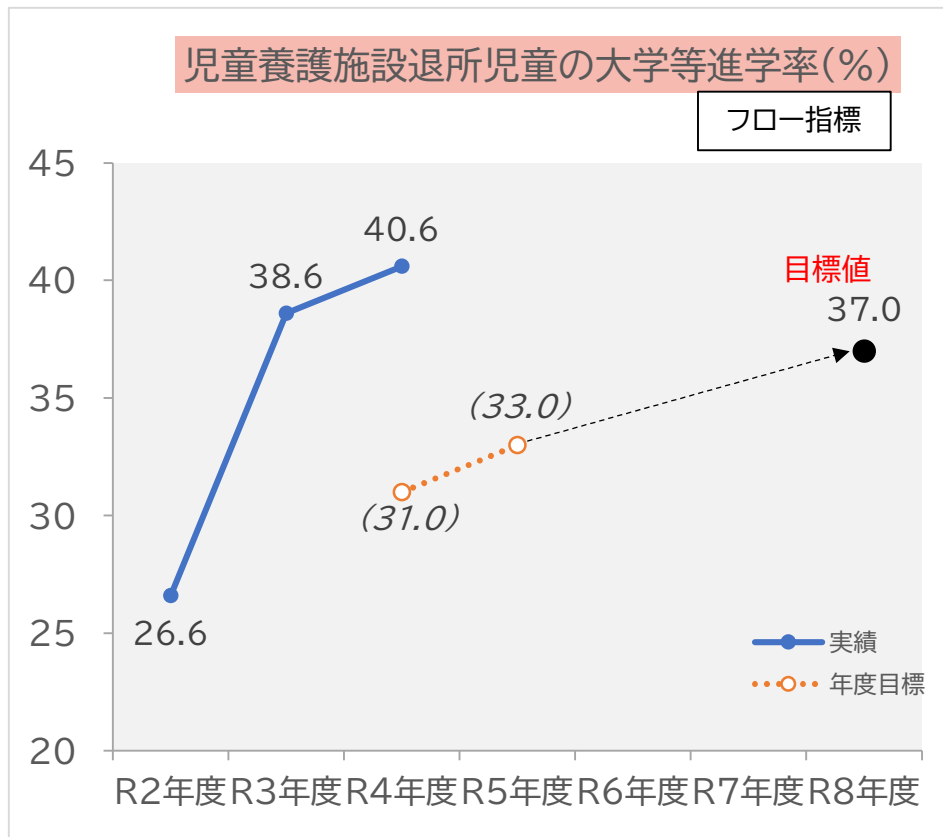
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 要保護児童は虐待等により心に傷を負った児童で、施設において専門的なケアを必要とする児童が多く里親委託に結びつけるのが困難であった。また、コロナ禍において施設での面会交流が進まなかった。
- 里親養育包括支援事業に児童福祉施設と連携して取り組むなど、民間のノウハウを活用して里親制度の普及、里親の新規開拓、里親委託の拡大に取り組む。県里親会と連携し、未委託里親に対する研修や里親委託前後の支援を行い、里親の養育技術の向上と孤立化の防止に取り組む。

針路4 施策18 児童虐待防止・社会的養育の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
35. 児童養護施設退所児童の大学等進学率	%	26.6 (R2年度)	40.6 (R4年度)	31.0 (R4年度)	131.0%	最終目標を上回る	37.0 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

児童養護施設を退所した高等学校卒業児童のうち、高等教育機関(大学・短期大学、高等専門学校及び専門学校)へ進学した者の割合。「埼玉県子育て応援行動計画」における令和6年度の目標値(35%)を踏まえ、毎年着実に進学する児童を増やすことを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

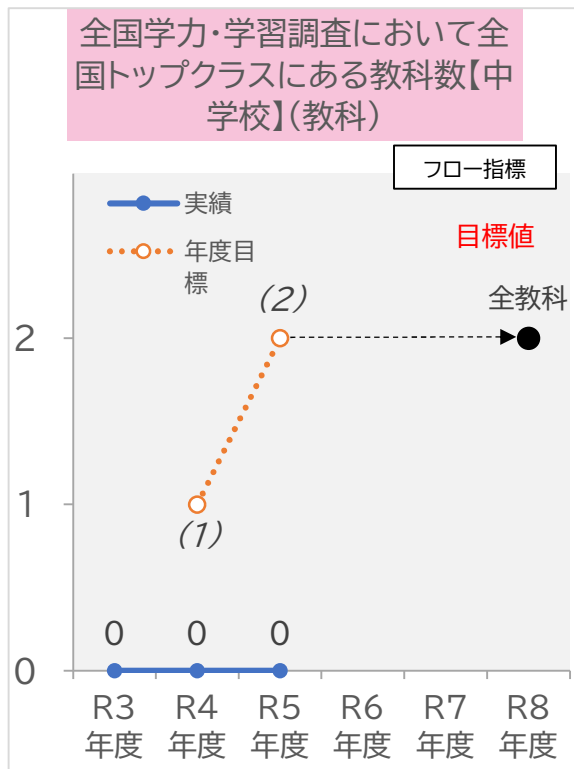
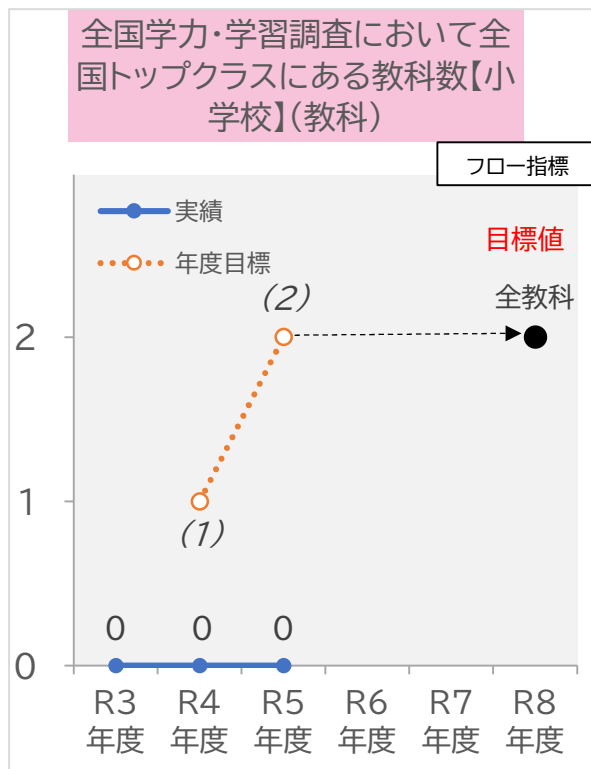
- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 学習経費の補助や、希望の家における進学者への支援、自立支援資金の貸付を行うことで計画策定時より上昇している。
- 学習経費や受験料などの補助を引き続き行い、大学等への進学を支援する。

針路5 施策19 確かな学力と自立する力の育成

施策指標の進捗状況

※総合的な進捗状況は次頁「埼玉県学力・学習状況調査において」

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
36. 学力・学習状況調査における学力状況 ●全国学力・学習状況調査において全国トップクラスにある教科数	教科	小学校 0 中学校 0 (R3年度)	小学校 0 中学校 0 (R5年度)	小学校 2 中学校 2 (R5年度)	0.0% 0.0%	策定時から横ばい	全教科 全教科 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

全国学力・学習状況調査において、全国平均正答率(公立)を1ポイント以上上回った教科数(調査を毎年行う国語、算数・数学に限る)。

全国学力・学習状況調査の毎年調査を行う小・中学校全ての教科(各2教科)において、全国平均正答率を1ポイント以上上回ることによって全国トップクラスになることを目指し、目標値を設定。

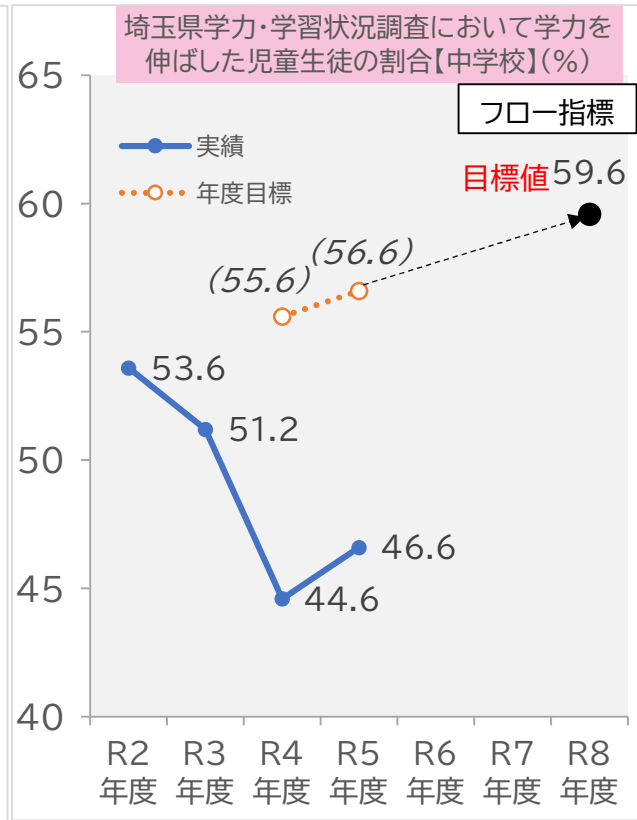
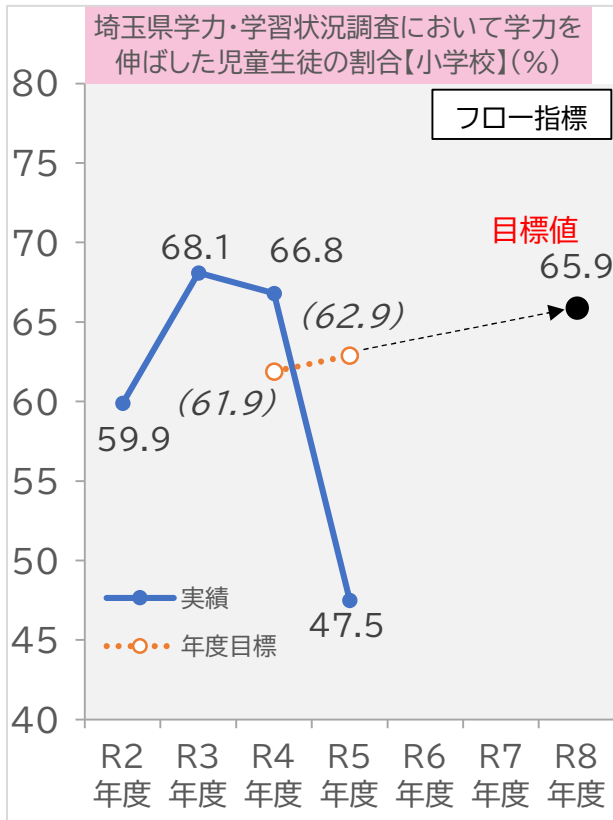
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画策定時と同水準で改善しておらず、目標値達成に向け一層の努力を要する。
- 埼玉県学力・学習状況調査の分析結果から「主体的・対話的で深い学び」の実践が、児童生徒の非認知能力などの向上を通じて、学力の向上につながることが分かっているため、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研修プログラム」の活用促進などの取組を行ってきたが十分ではなかった。
- 研修プログラムの活用を更に促進する。併せて、市町村教育委員会が調査結果を基に設定した重点取組の効果検証を行い、よい取組を県内で共有し活用を図る。

針路5 施策19 確かな学力と自立する力の育成

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
36. 学力・学習状況調査における学力状況 ●埼玉県学力・学習状況調査において学力を伸ばした児童生徒の割合	%	小学校 59.9 中学校 53.6 (R2年度)	小学校 47.5 中学校 46.6 (R5年度)	小学校 62.9 中学校 56.6 (R5年度)	75.5% 82.3%	策定時より後退	小学校 65.9 中学校 59.6 (R8年度)



指標の説明

埼玉県学力・学習状況調査において、小学校4年生から6年生まで及び中学校1年生から中学校3年生までの2年の間に、国語及び算数・数学の学力を36段階中4段階以上伸ばした児童生徒の割合。

埼玉県学力・学習状況調査において、学力を36段階中4段階伸ばした児童生徒の割合を5年間で5ポイント高めることを目指し、目標値を設定。

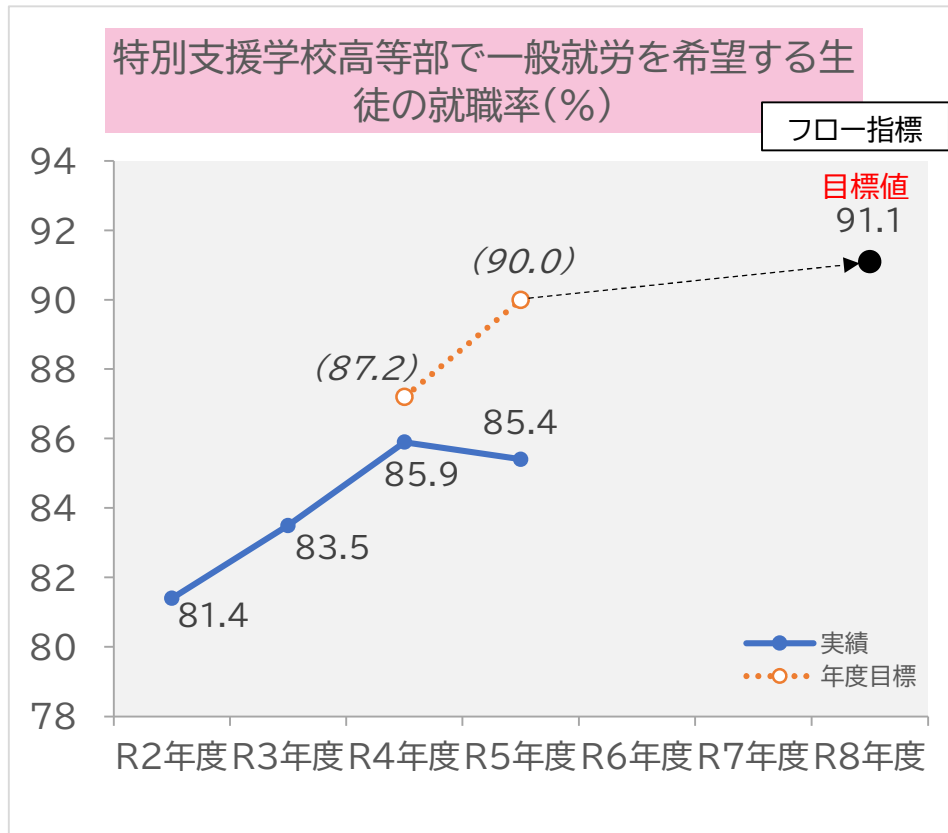
指標の進捗状況・分析

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- 達成できなかった大きな要因として、学力中位層(上位25%から上位75%の間に位置する児童生徒)の学力の伸び悩みが挙げられる。
- 令和5年度に一部の学校で実施した「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査を、令和6年度から県のホームページに掲載し、全ての学校が活用できるようにしている。今後も市町村教育委員会指導主事や各学校の教員等が集まる会議で活用方法を周知することで、学力中位層の学力向上を図る。

針路5 施策19 確かな学力と自立する力の育成

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
37. 特別支援学校高等部で一般就労を希望する生徒の就職率	%	81.4 (R2年度)	85.4 (R5年度)	90.0 (R5年度)	94.9%	策定時より改善	91.1 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県立特別支援学校高等部の生徒のうち、一般就労を希望した生徒が卒業する時点で一般就労できた割合(内定を含む)。

過去5年間(平成28年度～令和2年度)の平均就職率(81.1%)を今後5年間で10ポイント高めることを目指し、目標値を設定。

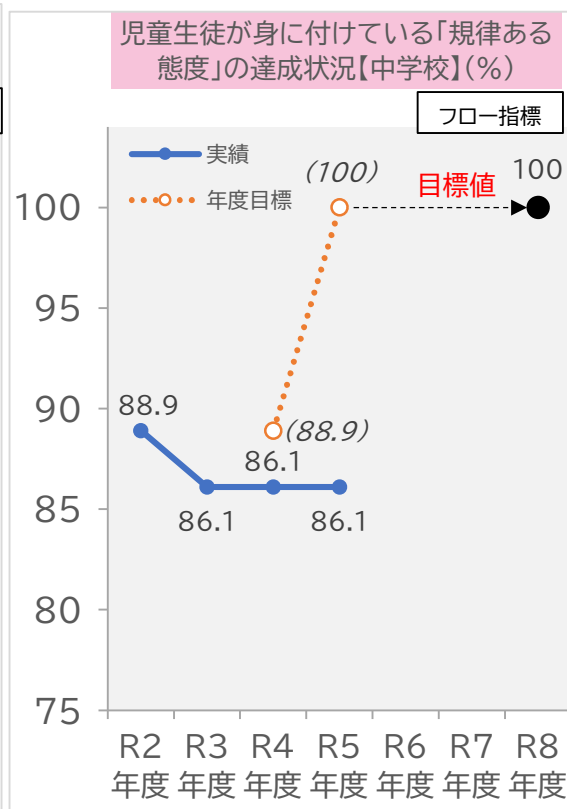
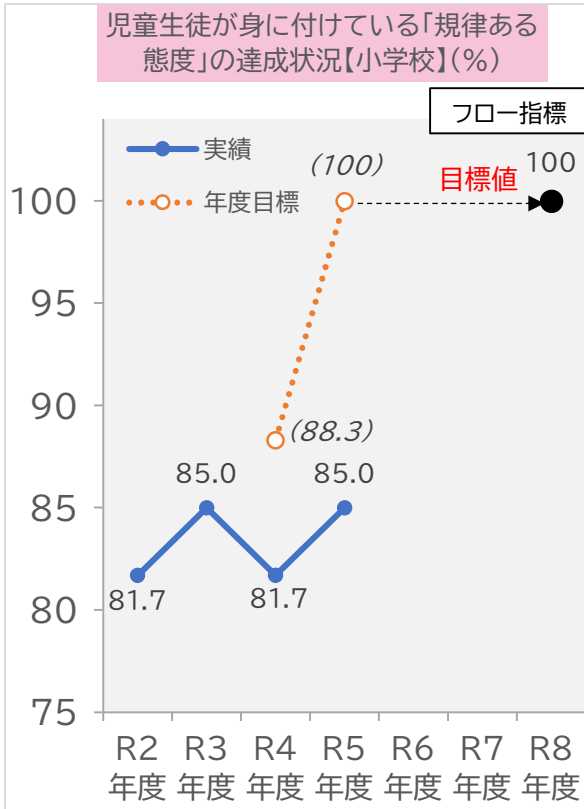
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 新型コロナの影響により、現場実習を控えるなど停滞した企業の採用活動が、コロナ以前の水準に戻りつつあり、策定時より数値は上昇しているものの、就労を希望する生徒と雇用を希望する企業とのマッチングがうまくいかないなどの理由により、年度目標を下回った。
- 引き続き各特別支援学校に就労支援アドバイザーを配置し、民間等の知見を活用するとともに、埼玉県内経済6団体等関係機関と連携を強化し、実習先の開拓に努め、特別支援学校高等部生徒の更なる就職率向上を図る。

針路5 施策20 豊かな心と健やかな体の育成

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
38. 児童生徒が身に付けている「規律ある態度」の達成状況	%	小学校 81.7 中学校 88.9 (R2年度)	小学校 85.0 中学校 86.1 (R5年度)	小学校 100 中学校 100 (R5年度)	85.0% 86.1%	策定時より後退	小学校 100 中学校 100 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県が設定した「規律ある態度」(各学年12項目)のうち、小学校2年生から中学校3年生までの8割以上が身に付けている項目の割合。「規律ある態度」の全ての項目について、児童生徒の8割以上が達成できれば規律ある態度が身に付き、基本的な生活・学習習慣の改善が期待できることを踏まえ、目標値を設定。

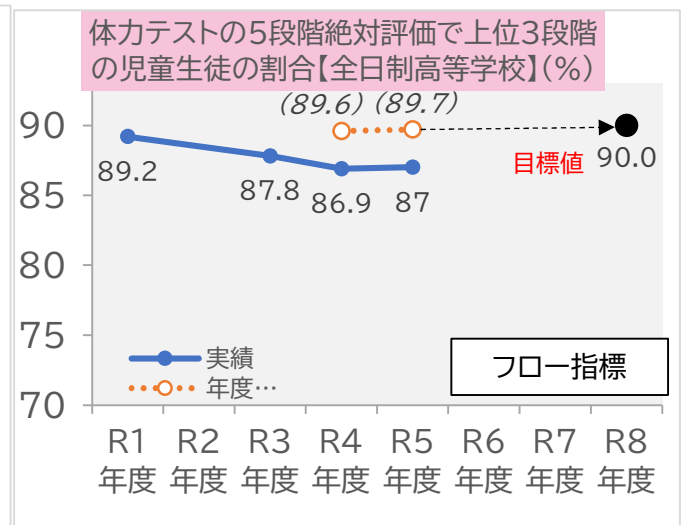
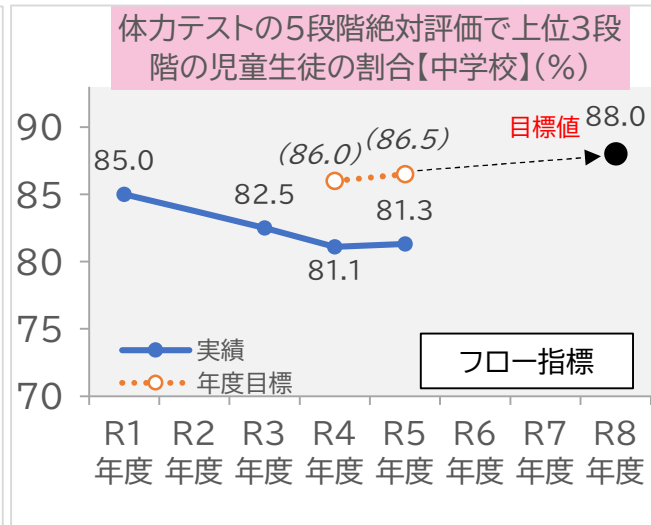
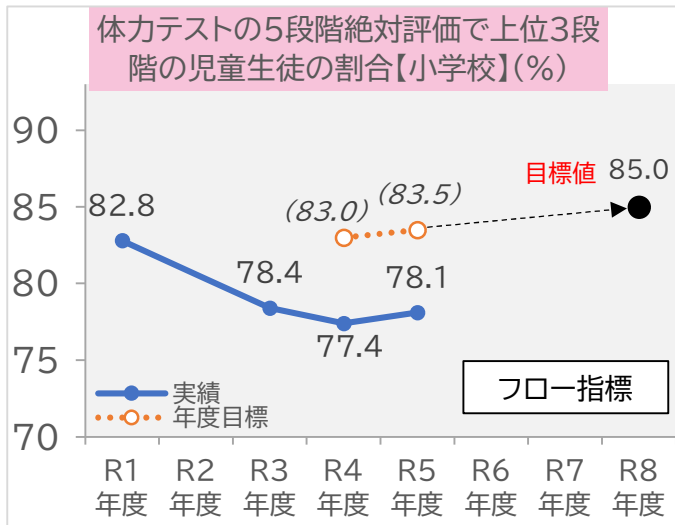
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。(小学校は策定時を上回っている。)
- 小学校において、「あいさつ」や「靴そろえ」などの項目で8割を上回った学年が増加し、実績値は昨年度より改善した。中学校においては、8割を下回った学年は昨年度と変化はなく、「整理整頓」の項目が策定時より後退した。
- 「整理整頓」などの項目に課題を抱える市町村教育委員会に対し、改善に効果があった事例を示し課題解決に向けた取組を働きかけるなど、支援を継続していく。課題を抱える学校に対し、教育事務所の指導主事が直接訪問し、授業者に対して指導助言を行う。

針路5 施策20 豊かな心と健やかな体の育成

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
39. 体力テストの5段階絶対評価で上位3段階の児童生徒の割合	%	小学校 82.8 中学校 85.0 全日制高等学校 89.2 (R1年度)	小学校 78.1 中学校 81.3 全日制高等学校 87.0 (R5年度)	小学校 83.5 中学校 86.5 全日制高等学校 89.7 (R5年度)	93.5% 94.0% 97.0%	策定時より後退	小学校 85.0 中学校 88.0 全日制高等学校 90.0 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

各学校で実施している体力テストの各種目の記録を得点化し、その合計を5段階絶対評価した上位3段階に入る児童生徒の割合。

上位3段階に入る児童生徒の割合の過去最高値(小学校 83.7%、中学校 86.4%、全日制高等学校 89.5%)を上回ることを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

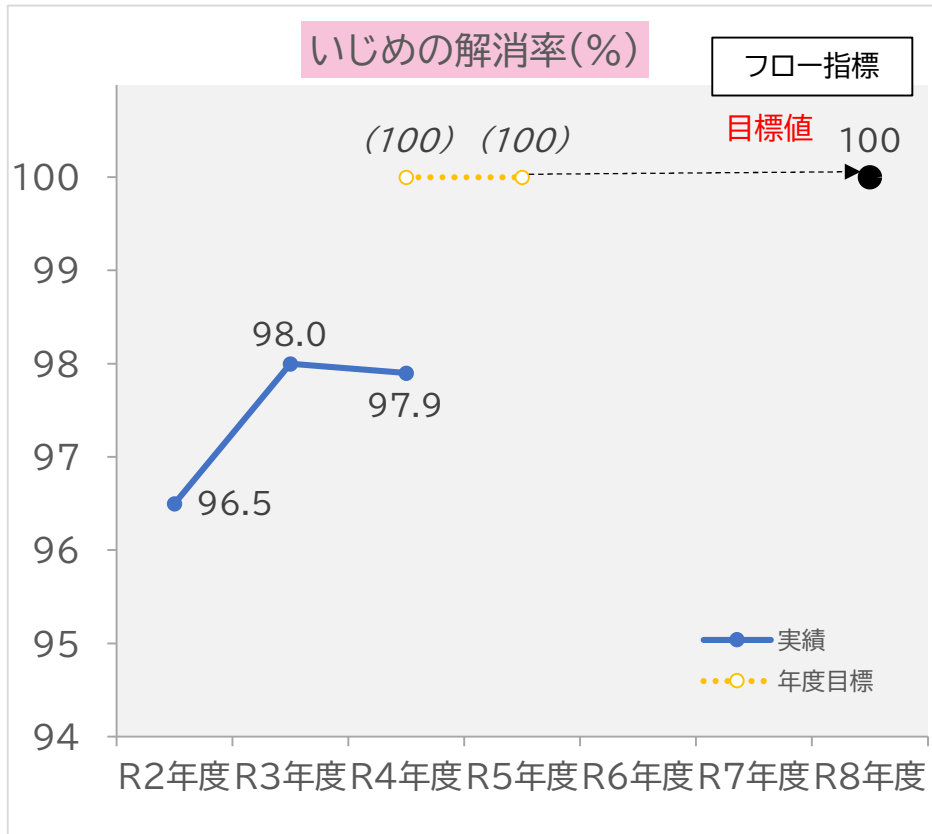
- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- コロナ禍における臨時休校や体育的活動の制限等により低下した児童生徒の体力が、コロナ禍前の水準には戻せていない状況である。
- 児童生徒の豊かなスポーツライフの実現を目指し、各校における授業や体育的活動のさらなる充実を図っていく。運動好きな児童生徒を育成するためのリーフレット・動画、家庭でも取り組める運動を紹介した動画等の積極的な活用を促し、学校と家庭が連携して児童生徒が運動に親しみ、総合的な体力の向上を目指した取組を推進する。

針路5

施策21 多様なニーズに対応した教育の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
40. いじめの解消率	%	96.5 (R2年度)	97.9 (R4年度)	100.0 (R4年度)	97.9%	策定時より改善	100 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県内公立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校におけるいじめの認知件数のうち、解消された件数の割合。

一人一人の児童生徒にとって明るく安心して学べる学校であるために、認知したいじめを全て解消することを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

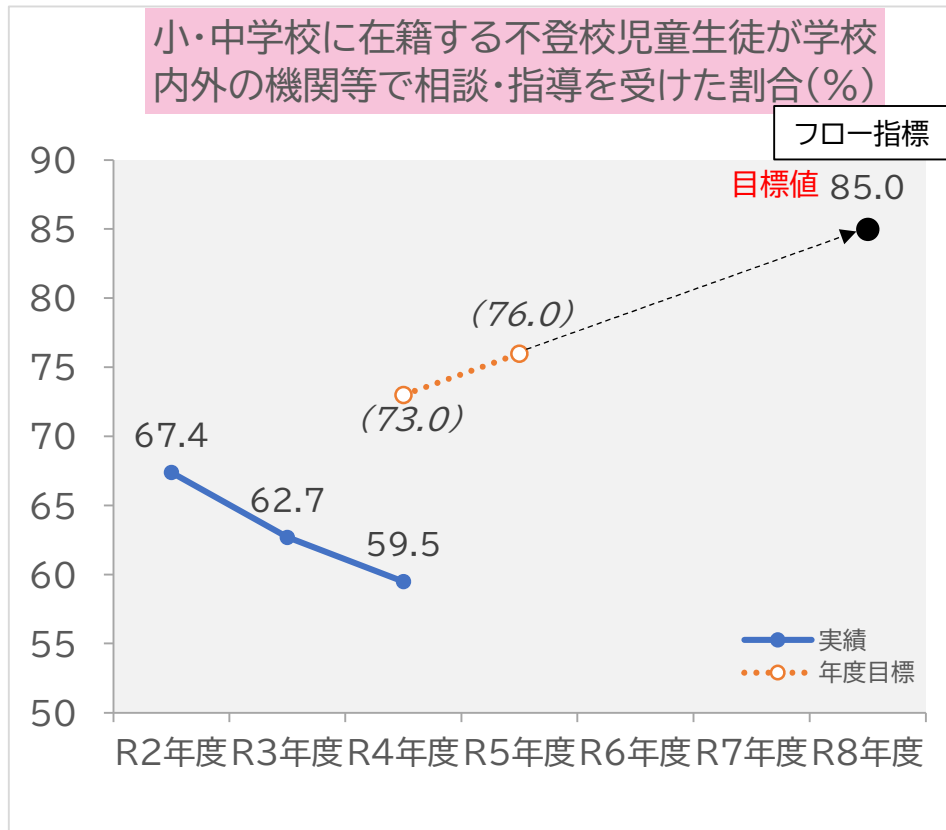
- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 重大な事態に至らないよう初期段階から積極的に対応するよう時機を捉えて呼び掛け等を行った結果、学校現場において丁寧な対応が取られたことで、いじめ防止対策推進法に基づく対応の徹底が図られ、計画策定時より改善が図られた。
- 研修動画を活用したいじめに対する教職員の理解促進やアンケート調査の活用等による「いじめは許さない」という学校・クラスの雰囲気づくりを継続する。スクールカウンセラー等専門職の配置や活用事例の周知により、教育相談体制の充実を図る。

針路5

施策21 多様なニーズに対応した教育の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
41. 小・中学校に在籍する不登校児童生徒が学校内外の機関等で相談・指導を受けた割合	%	67.4 (R2年度)	59.5 (R4年度)	73.0 (R4年度)	81.5%	策定時より後退	85.0 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

教育支援センターなど学校外における機関等で相談・指導を受けた、もしくは、学校内において養護教諭やスクールカウンセラーなどによる専門的な相談・指導を受けた公立小・中学校の不登校児童生徒の割合。

過去最高値(平成29年度84.6%)を上回ることを目指し、目標値を設定。

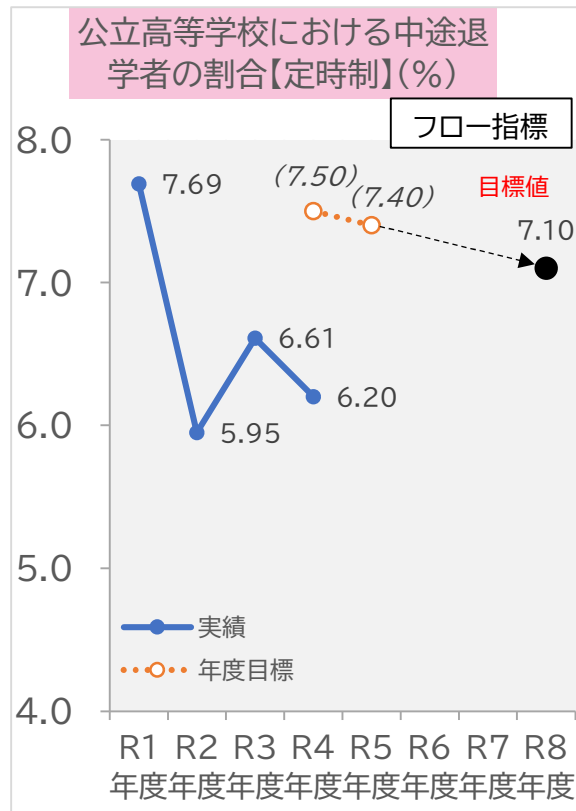
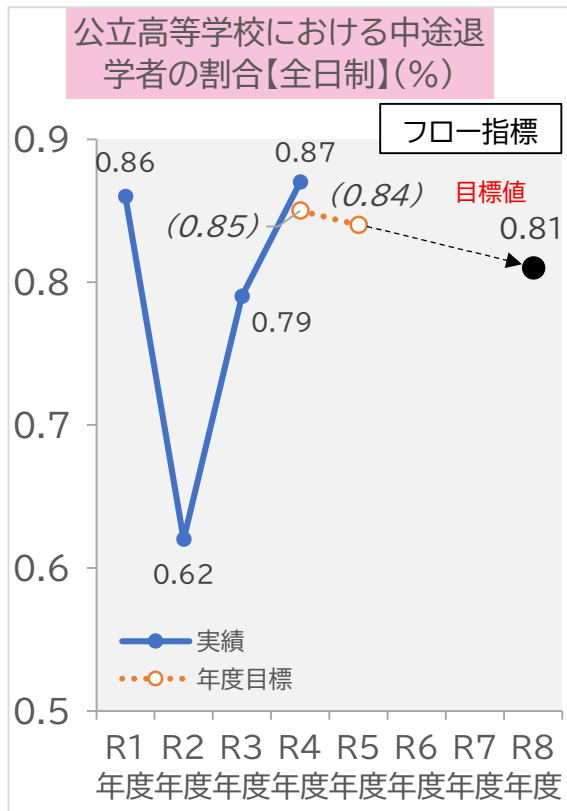
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- スクールカウンセラー等の専門人材の活用促進や、不登校児童生徒及びその保護者に向けた支援情報の発信等に取り組んでいるものの、全国的な不登校児童生徒数の大幅な増加などの要因により、計画策定時より数値が下降した。
- 不登校児童生徒への対応をまとめたガイドブックを基に、各校の支援体制の点検等の実施を促し、更なる不登校対策の検討・充実を図っていく。また、多様な学びの場の充実に関する研究事業を継続し、研究で得た成果などの発信を通じて市町村を支援していく。

針路5 施策21 多様なニーズに対応した教育の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
42. 公立高等学校における中途退学者の割合	%	全日制0.86 定時制7.69 (R1年度)	全日制0.87 定時制6.20 (R4年度)	全日制0.85 定時制7.50 (R4年度)	97.7% 121.0%	策定時より後退	全日制0.81 定時制7.10 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

公立高等学校における全日制・定時制別の中途退学者の割合。
「第3期埼玉県教育振興基本計画」における令和5年度目標値(全日制 0.84%以下、定時制7.40%以下)を踏まえ、中途退学者の割合を更に減少させることを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

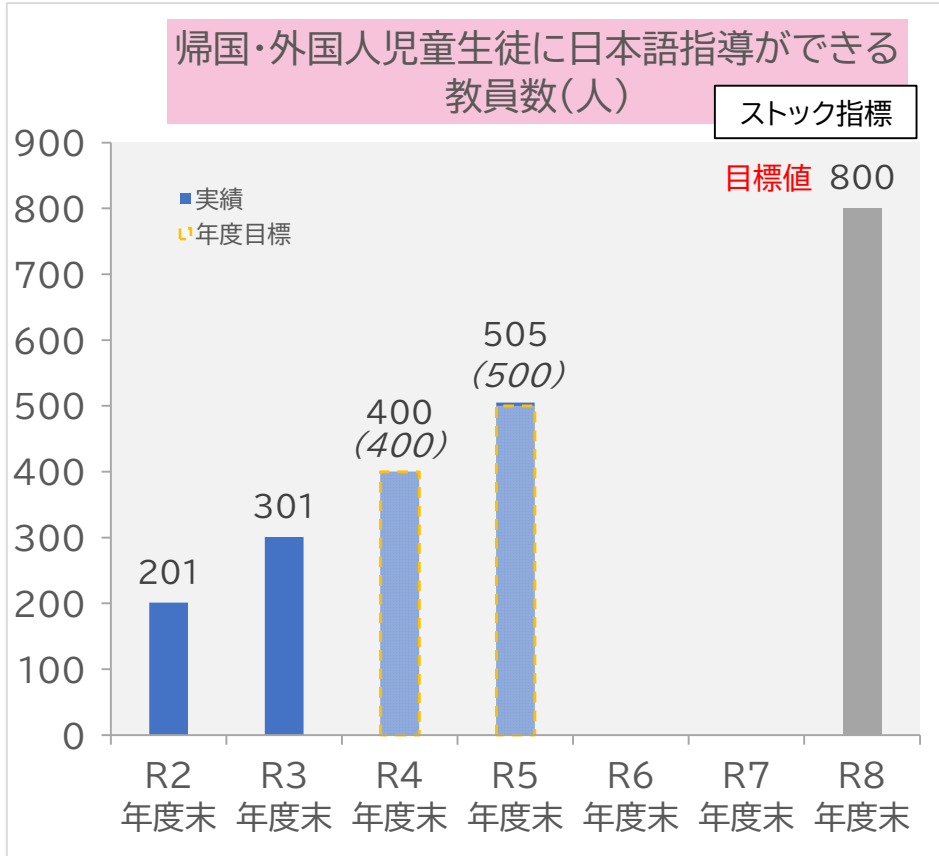
- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。(定時制は最終目標を上回っている。)
- 休校や分散登校、オンライン授業の実施など長期化するコロナ禍により変容していた学校生活から徐々に以前のような環境に戻る中で、人間関係がうまく築けないなど変化に適応することができない生徒が多かった。
- 面談指導や家庭訪問、学び直し指導など学校におけるきめ細かい指導の継続やスクールカウンセラー等の専門家を活用した相談支援に引き続き取り組むとともに、校内の居場所づくり活動などに新たに取り組む。

針路5

施策21 多様なニーズに対応した教育の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
43. 帰国・外国人児童生徒に日本語指導ができる教員数	人	201 (R2年度末)	505 (R5年度末)	500 (R5年度末)	101.0%	年度目標達成	800 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

帰国・外国人児童生徒と接するときの心構えや日常生活に必要な日本語の指導に関する研修を受講した小・中学校の教員数。毎年100人以上に対して研修を実施し、日本語指導の指導力が高い教員を増やすことを目指し、目標値を設定。

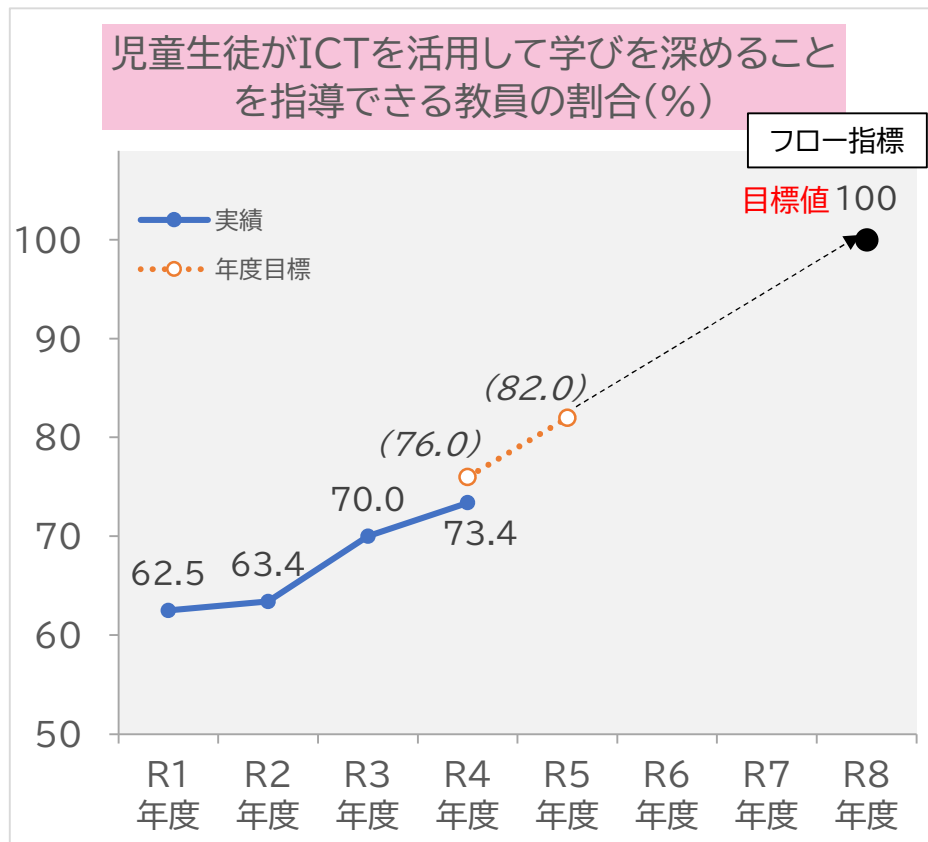
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 日本語指導に関する研修会を実施し、帰国・外国人児童生徒に日本語指導に対応するための教員を増やすことができた。
- 引き続き、日本語指導に関する研修会を実施し、日本語指導に対応するための教員を増やしていく。

針路5 施策22 質の高い学校教育の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
44. 児童生徒がICTを活用して学びを深めることを指導できる教員の割合	%	62.5 (R1年度)	73.4 (R4年度)	76.0 (R4年度)	96.6%	策定時より改善	100 (R8年度)



《 指標の説明 》

文部科学省の「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」において、「児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する」に対して「できる」、「ややできる」と回答した教員の割合。

児童生徒の端末1人1台環境が整備される中で、主体的・対話的で深い学びを実現するため、全ての教員がICTを活用して指導できることを目指し、目標値を設定。

《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- ICT活用プロジェクトによる実践事例の共有やICT支援員の配置、ポータルサイトによる情報発信などの取組により、ICT活用が促進され、策定時より改善されつつあるが、生成AIなど新たな技術への対応や教員のICT活用指導力の底上げが必要である。
- 引き続き、上記の取組を通じ、生成AIなど新たな技術を活用した実践事例の共有や発信を行っていくとともに、「教員のICT活用指導力向上のためのルーブリック」を活用して、教員全体のICT活用指導力の底上げを図る。

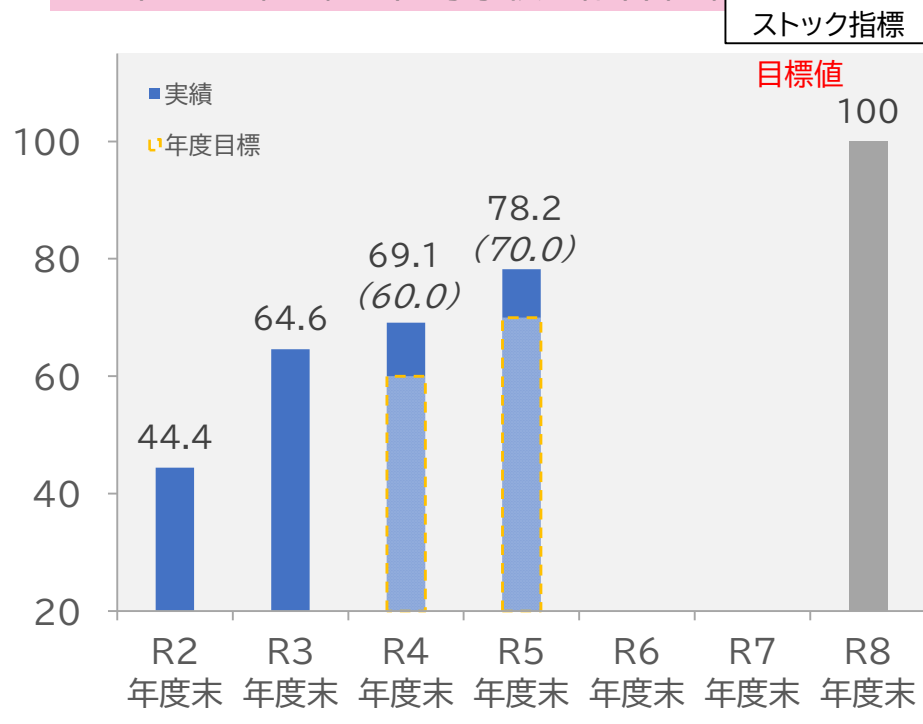
針路5

施策23 私学教育の振興

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
45. 統合型校務支援システムを導入し、教育の質の向上に取り組む高等学校の割合	%	44.4 (R2年度末)	78.2 (R5年度末)	70.0 (R5年度末)	111.7%	年度目標達成	100 (R8年度末)

統合型校務支援システムを導入し、教育の質の向上に取り組む高等学校の割合(%)



≪ 指標の説明 ≫

統合型校務支援システムを導入して、校務の効率化を図り、教育の質の向上に取り組む私立高等学校の割合。
 全ての私立高等学校において統合型校務支援システムの導入を目指し、目標値を設定。

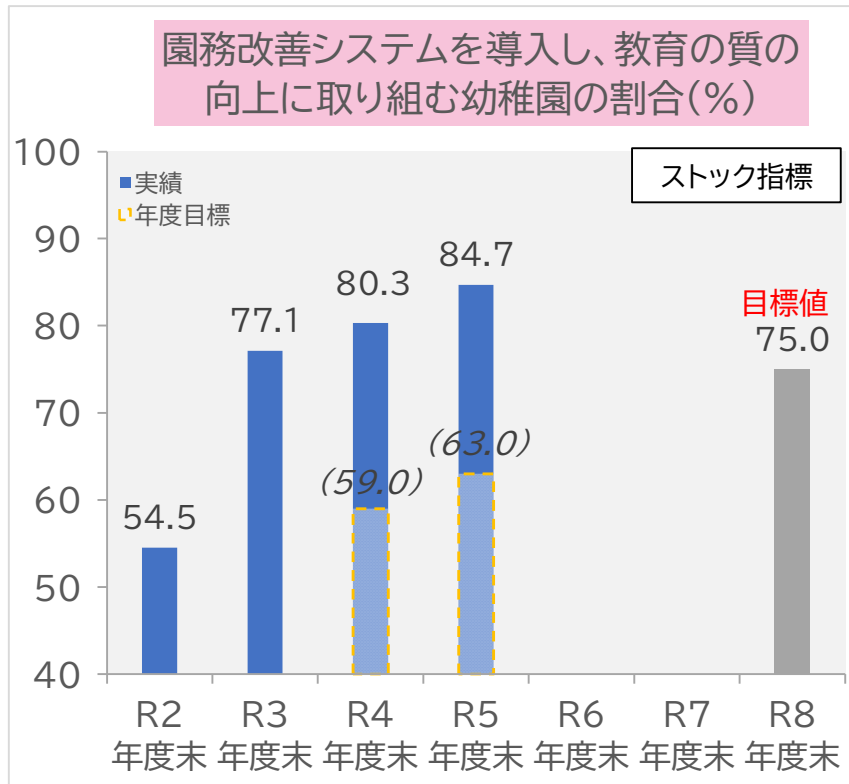
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 私立学校運営費補助金において、統合型校務支援システムの導入や運用の費用に対する補助を実施したことで、私立学校における統合型校務支援システムの新規導入に結びついた。
- 令和6年度以降も引き続き、私立学校運営費補助金において、システム導入や運用の費用に対する補助を実施する。

針路5 施策23 私学教育の振興

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
46. 園務改善システムを導入し、教育の質の向上に取り組む幼稚園の割合	%	54.5 (R2年度末)	84.7 (R5年度末)	63.0 (R5年度末)	134.4%	最終目標を上回る	75.0 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

園務改善システムを導入して、園務の効率化を図り、教育の質の向上に取り組む私立幼稚園の割合。
 私立幼稚園のうち、今後園務改善システムを導入予定の幼稚園及び導入を進めるべき幼稚園(小規模園等を除く)の割合を踏まえ、目標値を設定。

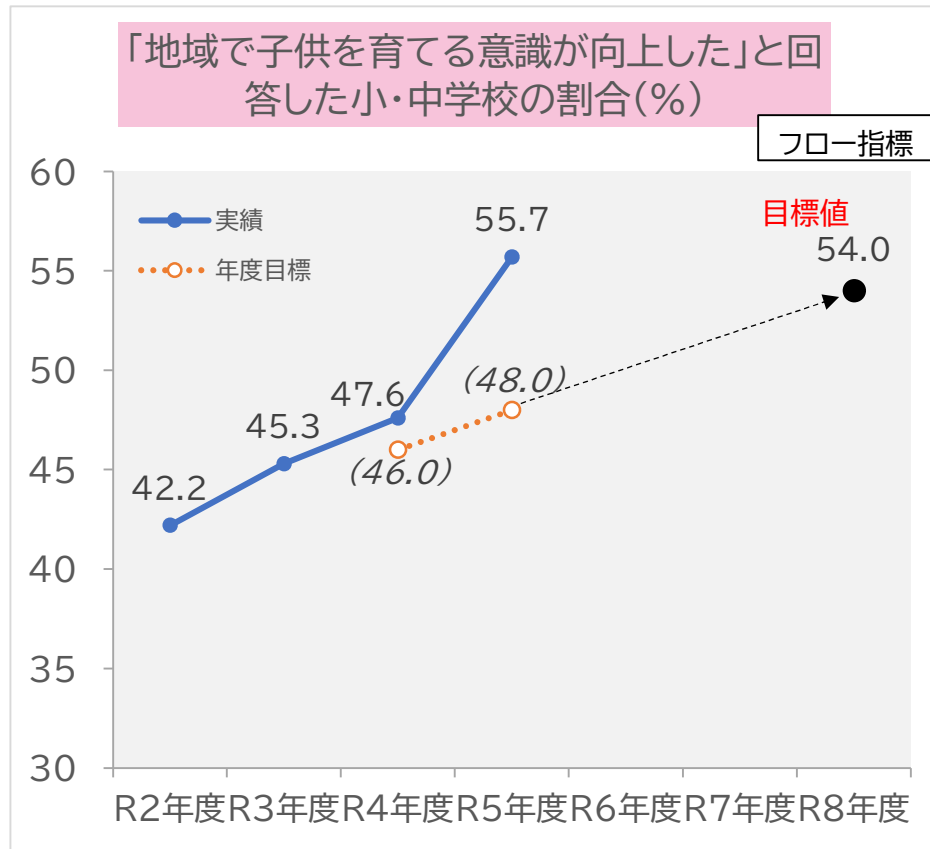
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 私立幼稚園ICT化支援補助金において、園務改善システムの導入や運用の費用に対する、補助を実施したことで、私立幼稚園における園務改善システムの新規導入に結びついた。
- 令和6年度以降も引き続き、私立幼稚園ICT化支援補助金において導入や運用の費用に対する補助を実施する。

針路5 施策24 家庭・地域の教育力の向上

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
47.「地域で子供を育てる意識が向上した」と回答した小・中学校の割合	%	42.2 (R2年度)	55.7 (R5年度)	48.0 (R5年度)	116.0%	最終目標を上回る	54.0 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県の「学校応援団」の推進に係る調査において「地域で子供を育てる意識が向上した」と回答した小・中学校の割合。
 平成29年度から令和2年度までの実績値の伸び(年平均約2ポイント)を踏まえ、同等の伸びを維持することを目指し、目標値を設定。

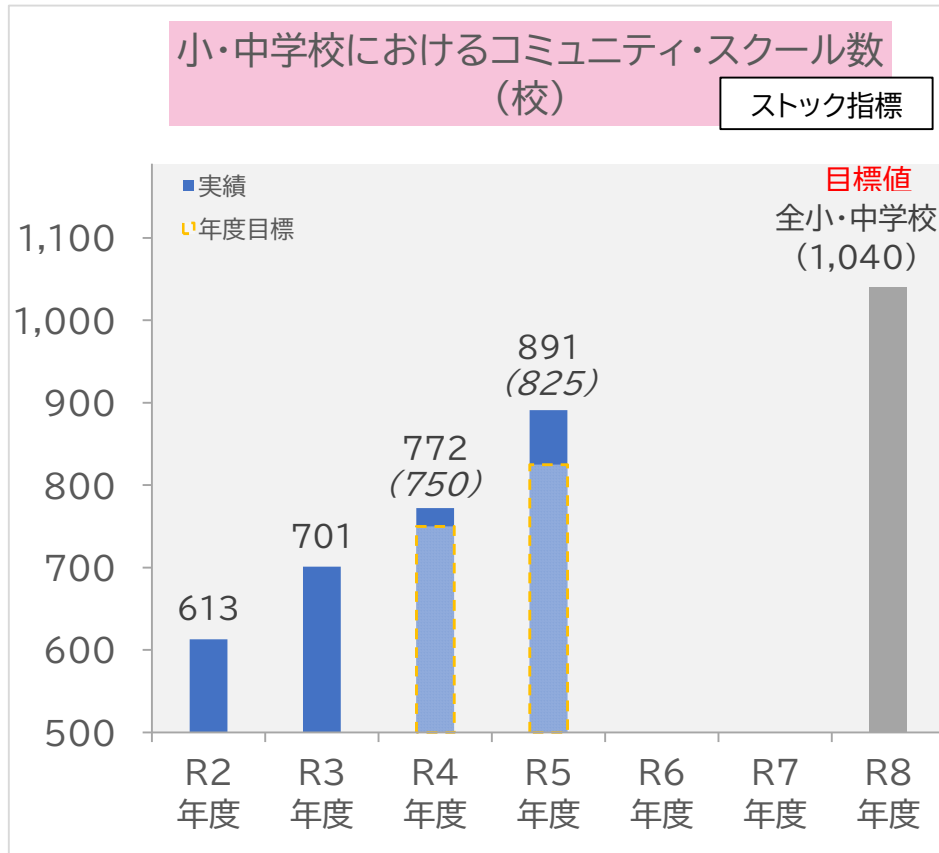
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、自粛されていた地域と子供の活動が活発化し、地域住民と子供たちのふれあいを目にする機会が増えたため指標の数値が上昇したと考えられる。
- 地区別担当者会議や研修の実施、事例集等による幅広い優良事例の周知を通じて、学校と地域住民の双方に地域学校協働活動に対する理解促進を図り、市町村における地域で子供を育てる意識の醸成を支援する。

針路5 施策24 家庭・地域の教育力の向上

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
48. 小・中学校におけるコミュニティ・スクール数	校	613 (R2年度)	891 (R5年度)	825 (R5年度)	108.0%	年度目標達成	1,040 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

育てたい子供像、目指すべき教育ビジョンを保護者や地域と共有し、目標の実現に向けて共に協働する仕組みである学校運営協議会を設置している小・中学校数。

平成29年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、学校運営協議会の設置が努力義務化され、国の「第3期教育振興基本計画」においても、全ての公立学校に学校運営協議会の導入を目指すとしていることを踏まえ、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 国の補助金を活用した市町村への支援や、研修会や導入事例の紹介などを行った結果、年度目標を達成した。
- 引き続き、コミュニティ・スクール未設置自治体へ直接訪問し、積極的な働き掛けを行っていく。

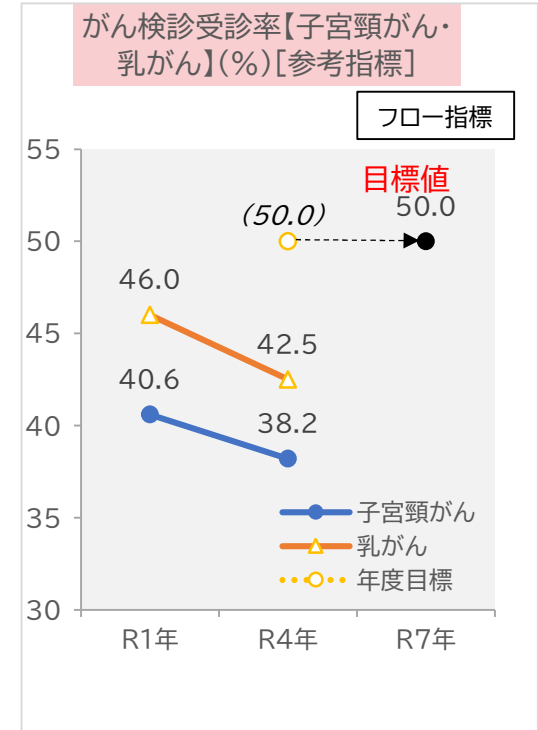
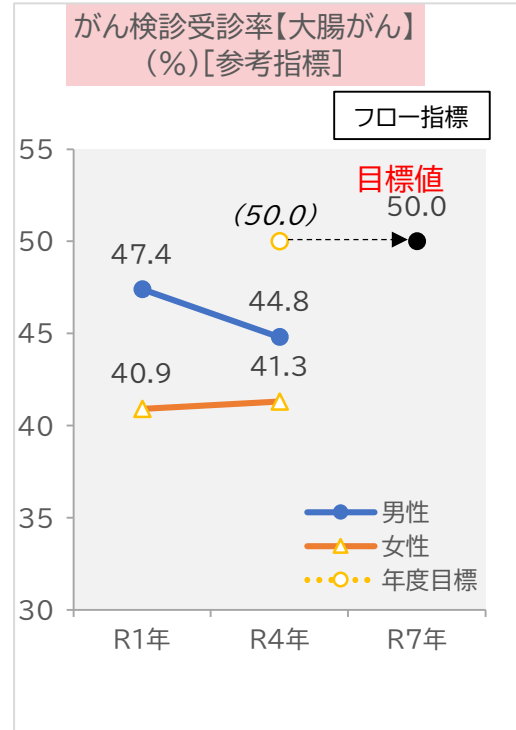
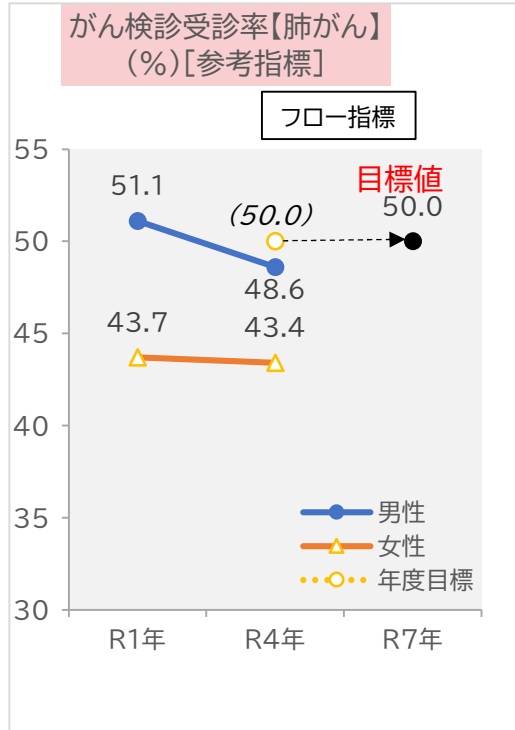
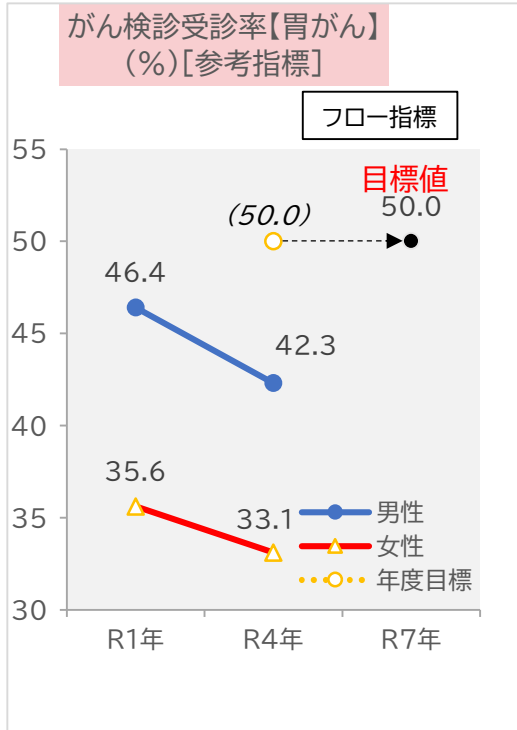
針路6 施策25 生涯を通じた健康の確保

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
49. がん検診受診率【参考指標】	%	胃がん男性 46.4	42.3	50.0	84.6%	策定時より後退	左記全ての がん種の受 診率50.0
		女性 35.6	33.1		66.2%		
		肺がん男性 51.1	48.6		97.2%		
		女性 43.7	43.4		86.8%		
		大腸がん男性 47.4	44.8		89.6%		
		女性 40.9	41.3		82.6%		
		子宮頸がん 40.6	38.2		76.4%		
		乳がん 46.0	42.5		85.0%		
		(R1年)	(R4年)	(R4年)	(R4年)		(R7年)

針路6 施策25 生涯を通じた健康の確保

施策指標の進捗状況



◀ 指標の説明 ▶

厚生労働省が実施する国民生活基礎調査におけるがん検診受診率。
国の「がん対策推進基本計画」において、がん検診受診率の目標値が50%であることを踏まえ、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

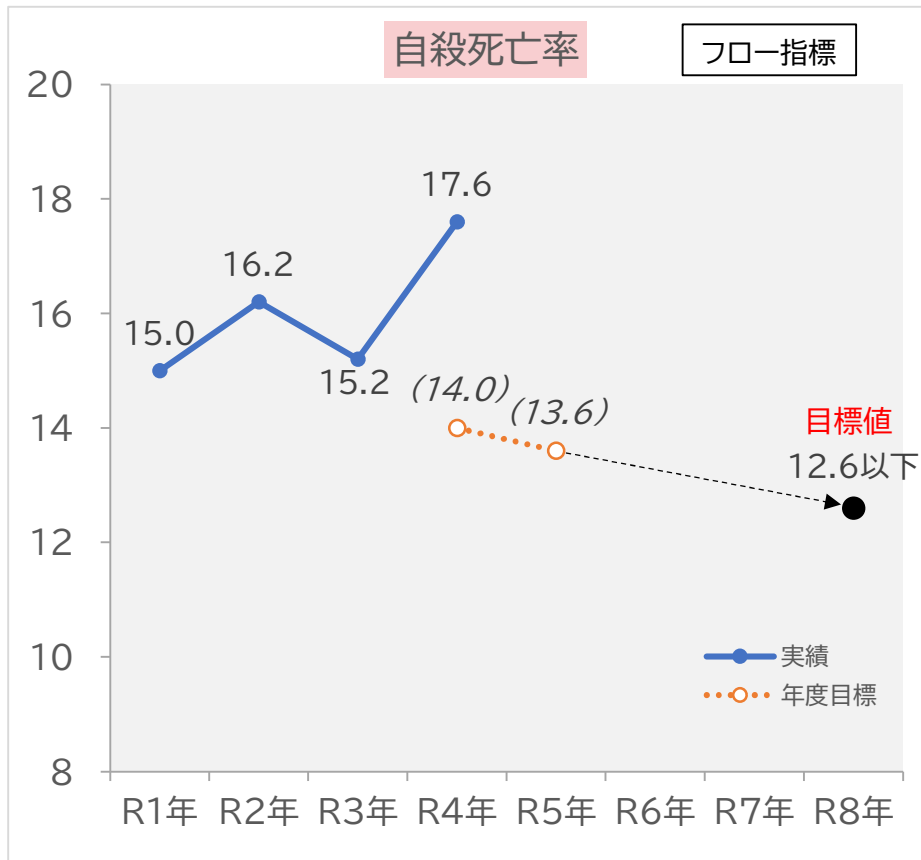
- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。(大腸がん女性は策定時を上回っている。)
- 新型コロナウイルス感染症の流行に伴う受診控えが要因の1つと考えられる。内閣府調査では、受診しない理由として、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」という回答が最も多い。
- 医師会と連携したがん検診受診促進リーフレットの配布、市町村がん検診と協会けんぽの特定検診の同時実施に向けた体制整備の促進、民間企業や各種団体と連携し、セミナーの開催やイベントの後援によるがん検診の重要性の普及啓発を行っていく。

針路6

施策25 生涯を通じた健康の確保

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
50. 自殺死亡率	-	15.0 (R1年)	17.6 (R4年)	14.0 (R4年)	79.5%	策定時より後退	12.6以下 (R8年)



◀ 指標の説明 ▶

人口10万人当たりの自殺者数。
 国の「自殺総合対策大綱」において、自殺死亡率を平成27年から令和8年までに30%以上減少させることを目指していることを踏まえ、目標値を設定。

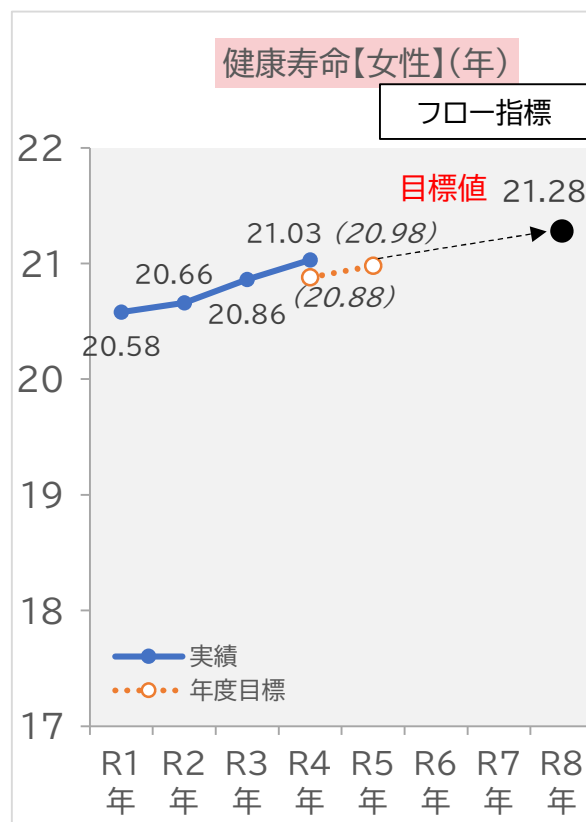
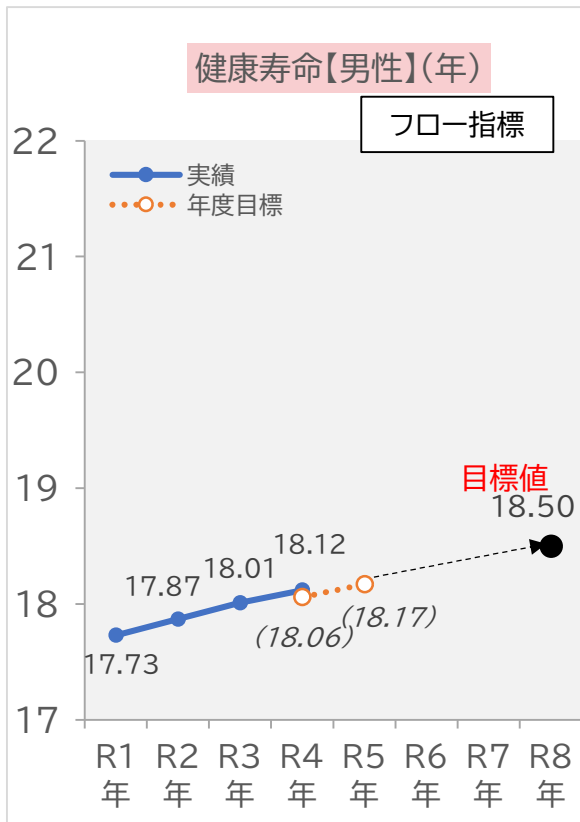
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- 令和4年は、50～60歳代の自殺の増加が目立った。19歳以下の若年層は、前年から6人減少した。また、20～30歳代は高い状態が続いている。なお、70歳以上は減少した。幅広い年齢を対象とした対応が課題と言える。
- 引き続き、相談体制を維持していくが、こころの健康相談統一ダイヤル(電話相談)及びSNS相談については拡充を行い体制を強化する。

針路6 施策25 生涯を通じた健康の確保

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
51. 健康寿命	年	男性 17.73 女性 20.58 (R1年)	男性 18.12 女性 21.03 (R4年)	男性 18.06 女性 20.88 (R4年)	100.3% 100.7%	年度目標達成	男性 18.50 女性 21.28 (R8年)



◀ 指標の説明 ▶

65歳に到達した人が健康で自立した生活を送ることができる期間(要介護2以上になるまでの期間)。各年の変動を踏まえ、長期的な視点から過去10年間(平成22年～令和元年)の実績値の伸び(年平均 男0.11年 女0.10年)を踏まえ、目標値を設定。

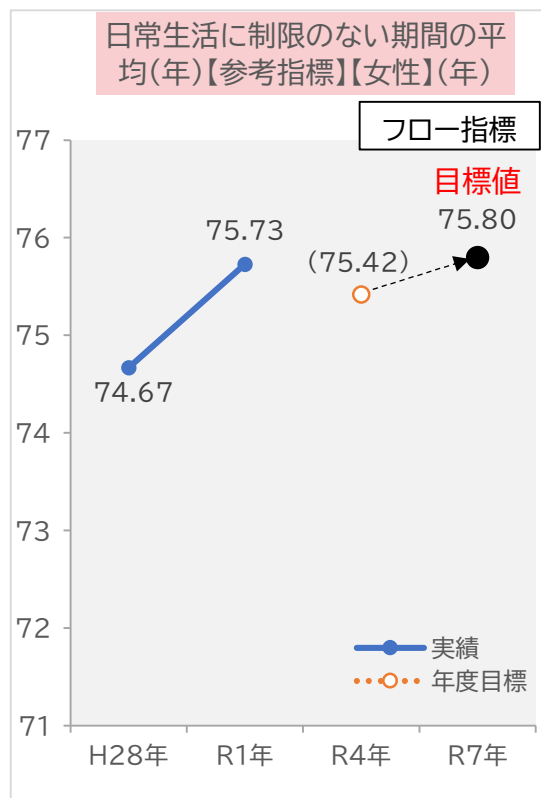
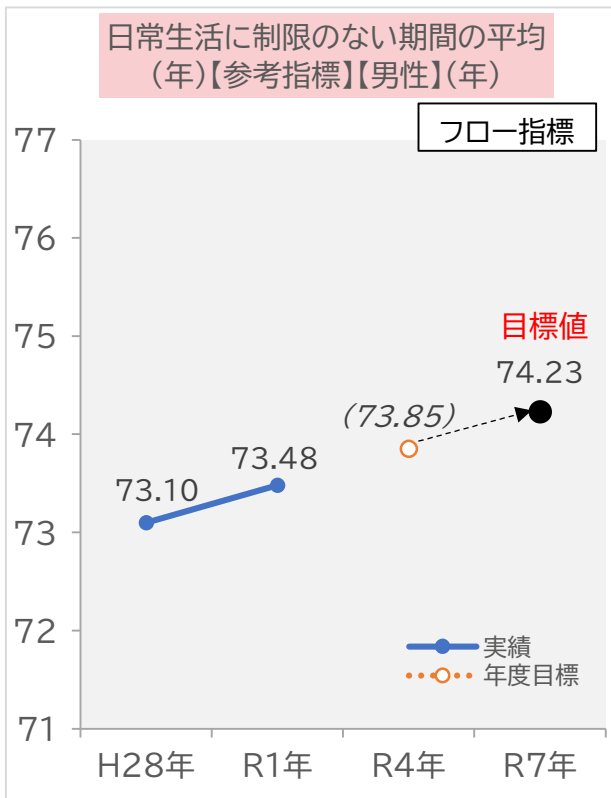
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 健康寿命の延伸には、平均寿命の延伸と介護状態を予防することが必要である。運動・栄養・休養の重要性の周知や定期的な健診により疾患の早期発見と重症化予防を推進するなどの総合的な取組が遠因となったと考えられる。最終目標に達成に向け、概ね順調である。
- 今後、後期高齢者が増える割合が増えることから、介護認定者が増加する可能性が考えられる。引き続き、生活習慣病予防等の健康づくり等の取組の強化を図っていく。

針路6 施策25 生涯を通じた健康の確保

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
52. 日常生活に制限のない期間の平均(年) 【参考指標】	年	男性 73.10 女性 74.67 (H28年)	男性 73.48 女性 75.73 (R1年)	— — (—)	— —	—	男性 74.23 女性 75.80 (R7年)



◀ 指標の説明 ▶

厚生労働省が実施する国民生活基礎調査において、「あなたは現在、健康の問題で日常生活に何か影響がありますか。」の質問に対し、「なし」と回答した人の割合。

国の目標(平成28年から令和22年までの24年間で3年延伸)を基準とし、その場合の1年あたりの伸び平均である0.125年を、最終年まで積み上げ、目標値を設定。

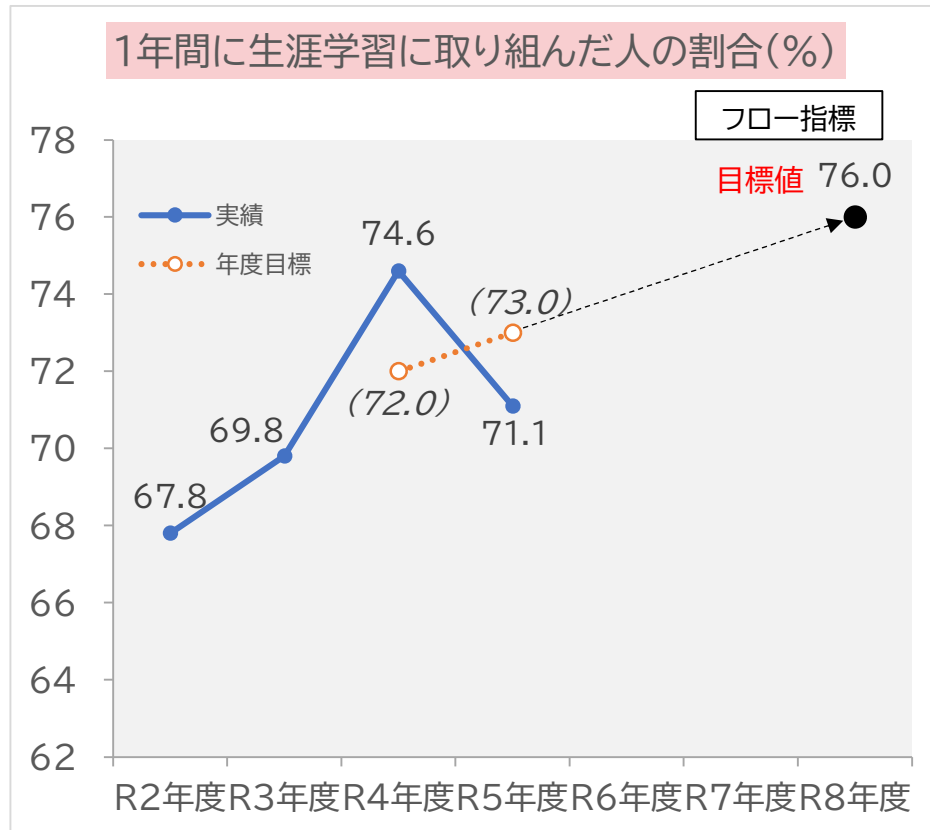
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は計画開始前であるが、策定時より改善している。
- 健康寿命の延伸には、平均寿命の延伸と介護状態を予防することが必要である。運動・栄養・休養の重要性の周知や定期的な健診により疾患の早期発見と重症化予防を推進するなどの総合的な取組が遠因となったと考えられる。最終目標達成の可能性が高い。
- 今後、後期高齢者が占める割合が増えることから、介護認定者が増加する可能性が考えられる。引き続き、健康づくり等の取組の強化を図っていく。

針路6 施策26 生涯にわたる学びの推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
53. 1年間に生涯学習に取り組んだ人の割合	%	67.8 (R2年度)	71.1 (R5年度)	73.0 (R5年度)	97.4%	策定時より改善	76.0 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県政サポーターアンケートにおいて、「この1年間に取り組んだ生涯学習活動の経験の有無」に「経験した」と回答した人の割合。「第3期埼玉県教育振興基本計画」における令和5年度の目標値(73.0%)を踏まえ、更に割合を毎年度1ポイントずつ向上させることを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

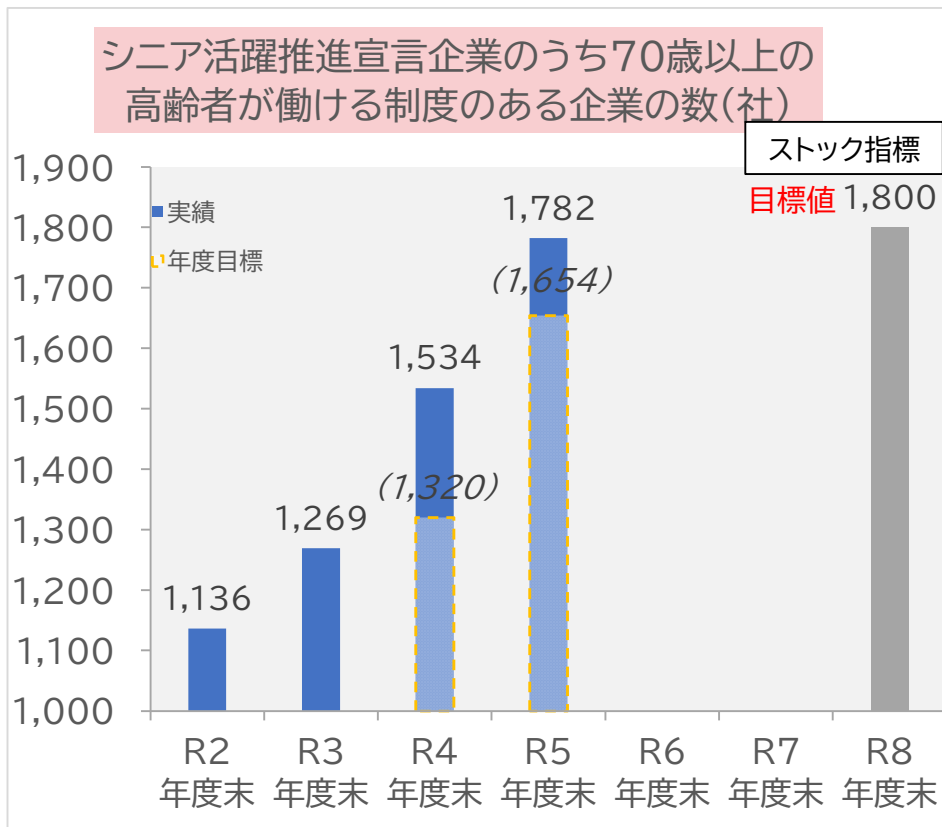
- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 令和5年度のアンケートで「生涯学習活動をしなかった理由」は、前年度と比べて「他に優先したいことがある」という選択肢が3.6ポイント増加した。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、それまで自粛されていた活動が再開され、生涯学習を行う時間の減少に影響したと考えられる。
- 引き続きアンケートを実施し、生涯学習に対するニーズを把握し、実態を分析する。分析結果を踏まえ「生涯学習ステーション」で更なる情報発信に努め、幅広い県民の生涯学習活動を支援する。

針路6

施策27 高齢者の活躍支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
54. シニア活躍推進宣言企業のうち70歳以上の高齢者が働ける制度のある企業の数	社	1,136 (R2年度末)	1,782 (R5年度末)	1,654 (R5年度末)	107.7%	年度目標達成	1,800 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

定年の廃止や定年・継続雇用の年齢延長、働きやすい職場環境づくりなどに取り組む、県が認定した企業のうち、70歳以上の高齢者が働ける制度のある企業の数。

70歳以上の高齢者が働ける制度のある企業数の過去5年間(平成28年～令和2年)の増加数(594社)を踏まえ、それを上回る成果を目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

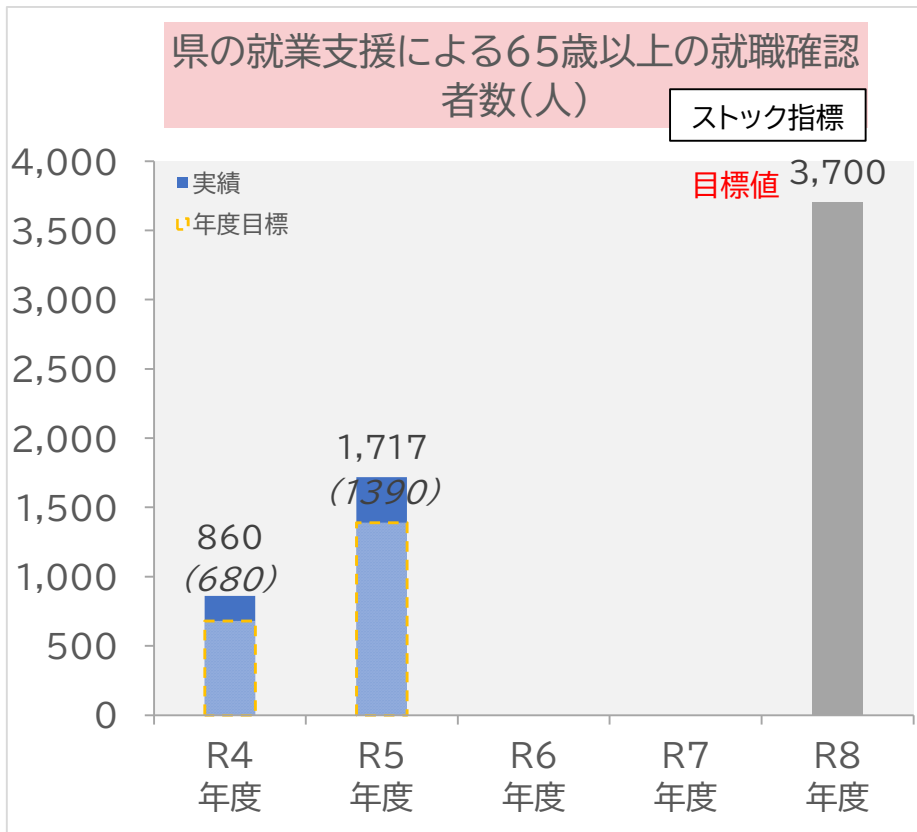
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 企業訪問(1,111社)や70歳雇用確保助成金の交付(63社)により、年度目標を達成した。
- 引き続き、企業訪問や70歳雇用確保助成金の交付により、70歳以上の高齢者が働ける制度のある企業の認定を拡大する。

針路6

施策27 高齢者の活躍支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
55. 県の就業支援による65歳以上の就職確認者数	人	— (-)	1,717 (R4～R5年度の累計)	1,390 (R4～R5年度の累計)	123.5%	年度目標達成	3,700 (R4～R8年度の累計)



◀ 指標の説明 ▶

セカンドキャリアセンターなどで県の就業支援を受けた65歳以上の利用者のうち、就職が確認できた人数。
過去5年間(平成28年度～令和2年度)の推計値(3,400人)を踏まえ、それを上回る就職確認者数を目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

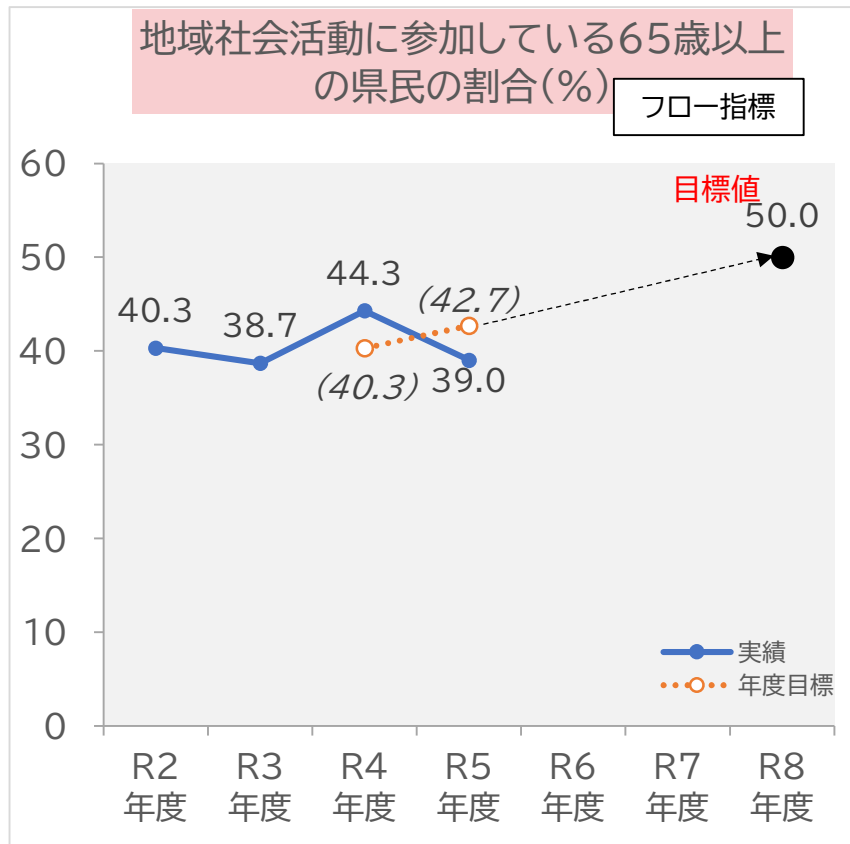
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 企業の人手不足と高齢者の就業意欲の高さを背景に高齢者の就業が進んでいる。セカンドキャリアセンターでは求職者の希望に沿った求人の開拓や丁寧なマッチングを行うことで、年度目標を大幅に上回った。
- シニアの希望と企業の求人内容にミスマッチがある。そこで、埼玉しごとサポート(旧セカンドキャリアセンター)では専任のキャリアコンサルタントが就職相談で求職者の希望を詳細に把握し、希望に沿った求人の紹介や、求人要件について企業と交渉を行い、就職を支援する。

針路6

施策27 高齢者の活躍支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
56. 地域社会活動に参加している65歳以上の県民の割合	%	40.3 (R2年度)	39.0 (R5年度)	42.7 (R5年度)	91.3%	策定時より後退	50.0 (R8年度)



《 指標の説明 》

県政世論調査で「過去1年間に地域社会活動(自治会、PTAなどによる地域活動及びNPO、ボランティアなどによる障害者・高齢者支援や青少年健全育成などの活動)に参加したことがある」と回答した65歳以上の県民の割合。

現状値を踏まえ、2人に1人の高齢者が参加することを目指し、目標値を設定。

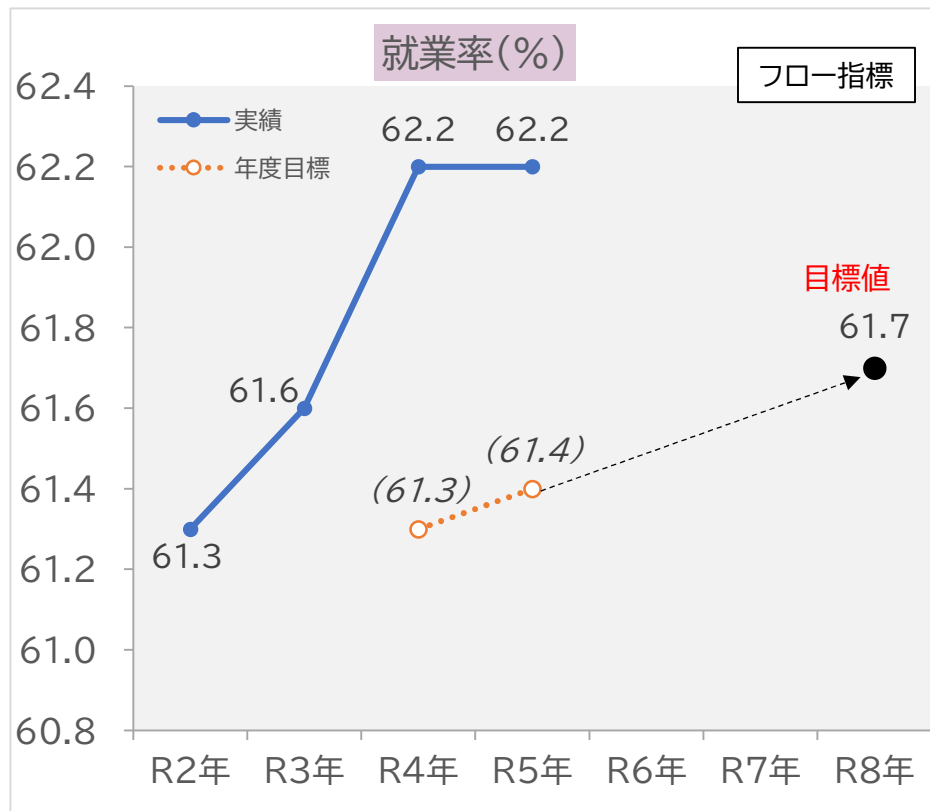
《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、地域活動が再開されつつあるが、コロナ禍によって低下した意欲の回復が不十分であった。また、65歳を過ぎても働き続けている人の割合が年々増加しており、定年時期が変化したことも要因の1つとして考えられる。
- 仕事をしながら地域社会活動に参加できるライフデザインを描けるようなテーマを未来大学の講座において取り上げるなど、既存講座の卒業生や県内市町村等と連携しながら、現在の取組をより効果的に進めていく。

針路7 施策28 就業支援と雇用環境の改善

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
57. 就業率	%	61.2 (R2年)	62.2 (R5年)	61.4 (R5年)	101.3%	最終目標を上回る	61.7 (R8年)



※国資料の修正により過去の値の修正あり。

≪ 指標の説明 ≫

15歳以上の人口に占める就業者の割合。
 就業率を令和元年の水準(61.7%)まで回復させることを目指し、目標値を設定。
 ※新型コロナウイルス感染症の大きな影響からの回復を目指す目標値。

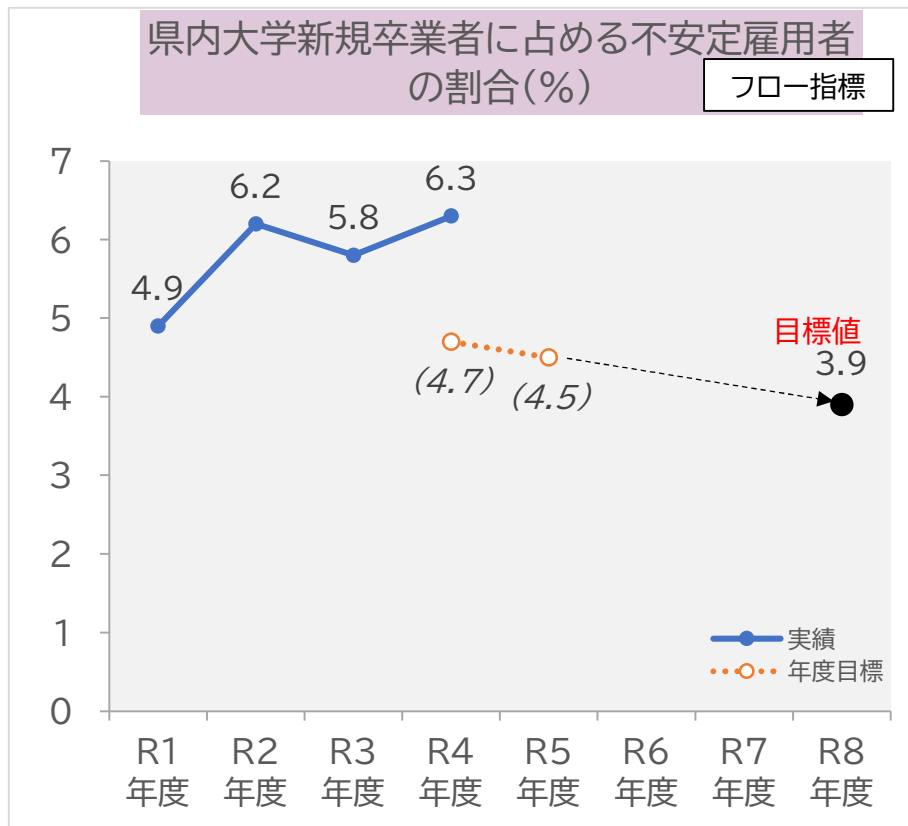
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 埼玉しごとセンター等において、求職者への就業支援を行っている。また、コロナ禍において停滞した経済活動の回復傾向に伴い、雇用情勢も緩やかに持ち直している。
- 令和6年度は、引き続き、埼玉しごとセンター等において求職者への県内企業への就業支援に取り組む。

針路7 施策28 就業支援と雇用環境の改善

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
58. 県内大学新規卒業者に占める不安定雇用者の割合	%	4.9 (R1年度)	6.3 (R4年度)	4.7 (R4年度)	74.6%	策定時より後退	3.9 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

県内大学新規卒業者に占める不安定雇用者(有期雇用労働者及び臨時労働者)の割合。
令和元年度における全国平均値(3.9%)まで減少させることを目指し、目標値を設定。

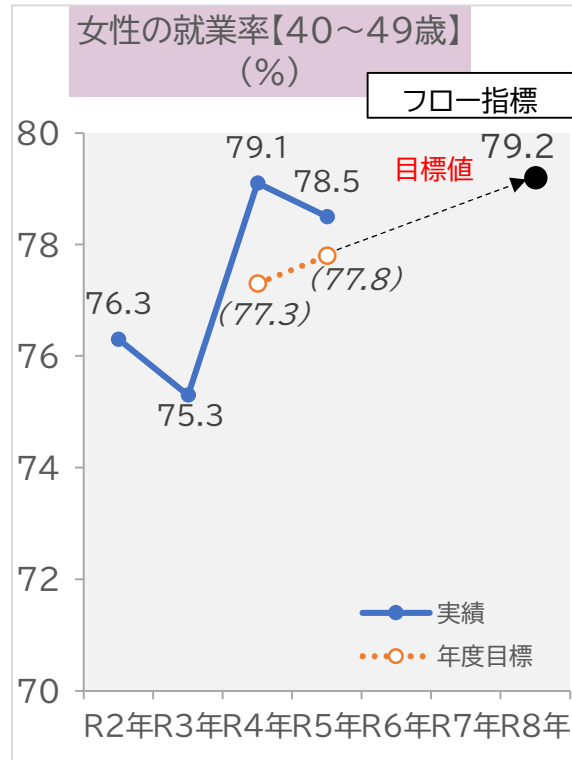
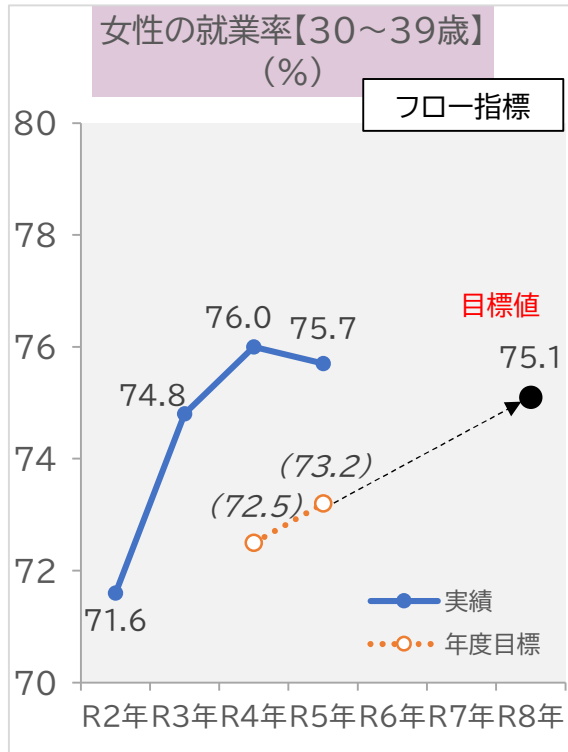
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- 正社員より非正規雇用者の増加割合が高くなり、非正規雇用者のうち雇用期間が1か月以上の有期雇用労働者、その中でも女子学生の割合が前年度に比べ37.7ポイント増加したことが不安定雇用率上昇の最大の要因となっている。
- 不安定雇用率の減少には、非正規雇用者としてではなく正社員として就職する学生を増加させることが効果的であることから、正社員として就職する学生を増加させるための取組を続けていく。

針路7 施策29 女性の活躍推進と男女共同参画の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
59. 女性(30~39歳、40~49歳)の就業率	%	30~39歳 71.6	75.7	73.2	103.4%	年度目標達成	75.1
		40~49歳 76.3 (R2年)	78.5 (R5年)	77.8 (R5年)	100.9%		79.2 (R8年)



◀ 指標の説明 ▶

女性(30~39歳、40~49歳)に占める就業者の割合。令和元年の全国平均(30~39歳:75.1%、40~49歳:79.2%)の水準まで引き上げることを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

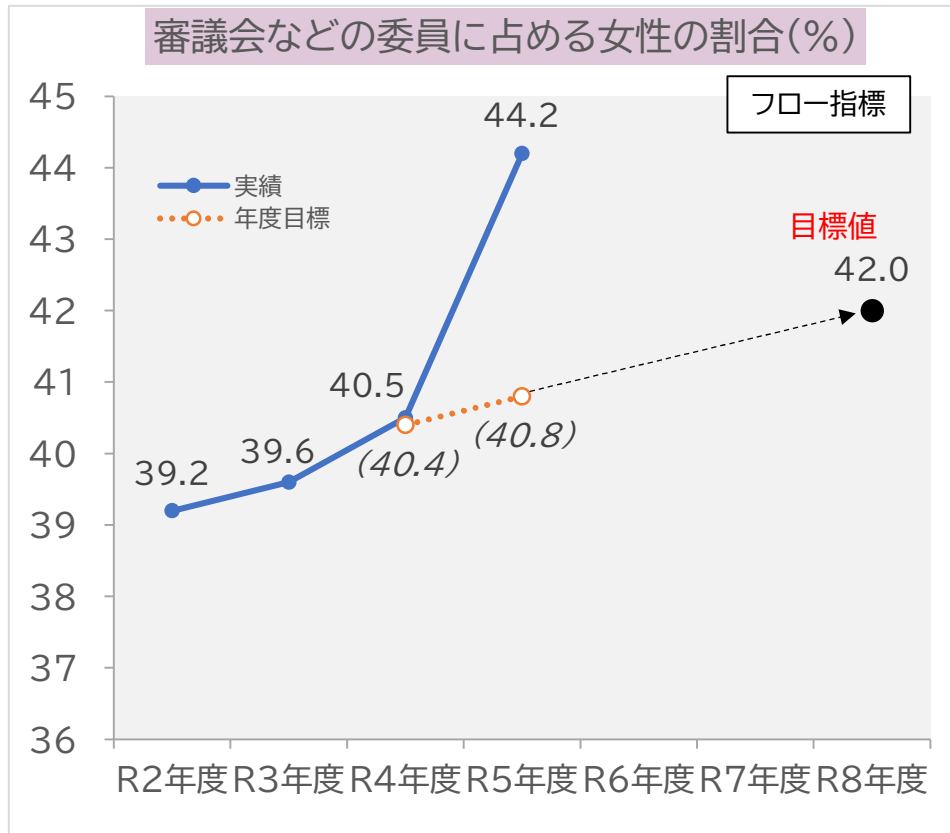
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。(30~39歳は最終目標を上回る)
- 女性キャリアセンターを、働く女性のワンストップ支援拠点と位置づけ、女性の就業から就労継続、キャリアアップまでをワンストップで支援したことが就業率の向上に寄与したと考えられる。
- 同センターにおける就業、就労継続、キャリアアップ等へのきめ細かい支援や、女性のデジタル人材育成を推進していく。

針路7

施策29 女性の活躍推進と男女共同参画の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
60. 審議会などの委員に占める女性の割合	%	39.2 (R2年度)	44.2 (R5年度)	40.8 (R5年度)	108.3%	最終目標を上回る	42.0 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県の各種審議会などにおける女性委員の割合。
 国の「第5次男女共同参画基本計画」において、令和7年までに女性委員の割合を40%以上60%以下にすることを目指していることを踏まえ、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

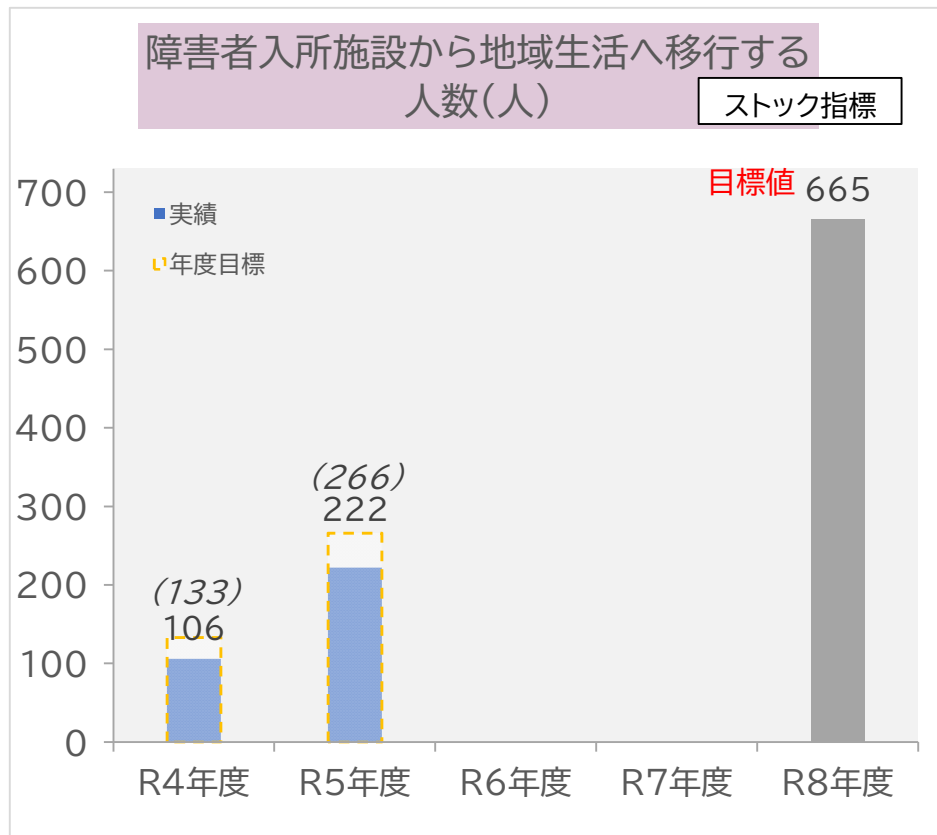
- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 審議会等における女性委員の割合が令和8年度末の達成目標値である42%に満たず審議会委員を委嘱する場合には、任命の前に協議を行い、できる限り女性の適任者の登用に努めた。
- 引き続き、女性委員の割合が令和8年度末の達成目標値(42%)を下回る審議会等を所管する部局に対して、法令に定めがあるものを除き、委員の充て職や推薦団体の変更などの委員の選任に係る運用の見直しや設置要綱等の改正に係る検討を部局長に対し依頼し、女性委員の登用促進に努める。

針路7

施策30 障害者の自立・生活支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
61. 障害者入所施設から地域生活へ移行する人数	人	— (-)	222 (R4～R5年度の累計)	266 (R4～R5年度の累計)	83.5%	策定時より改善	665 (R4～R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

障害者入所施設から地域生活へ移行する人数。
 国の指針において、地域生活に移行する者の令和5年度末の目標値は「令和元年度末の施設入所者数の6%以上」とされているところ、本県では「第6期埼玉県障害者支援計画」において定めた目標値である7.5%(令和3年度～5年度で399人)を踏まえ、令和6年度以降も同様の移行人数を目指し、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、グループホーム見学や体験入所できるようになったため、前年よりも改善した。一方で、地域移行できる利用者が少なくなりつつあるため、目標値よりも▲44人となった。
- 障害者が地域で安心して生活できるよう、グループホームなどの居住系サービス、就労継続支援事業などの日中活動系サービス及びホームヘルプなどの訪問系サービスの確保、充実に努める。

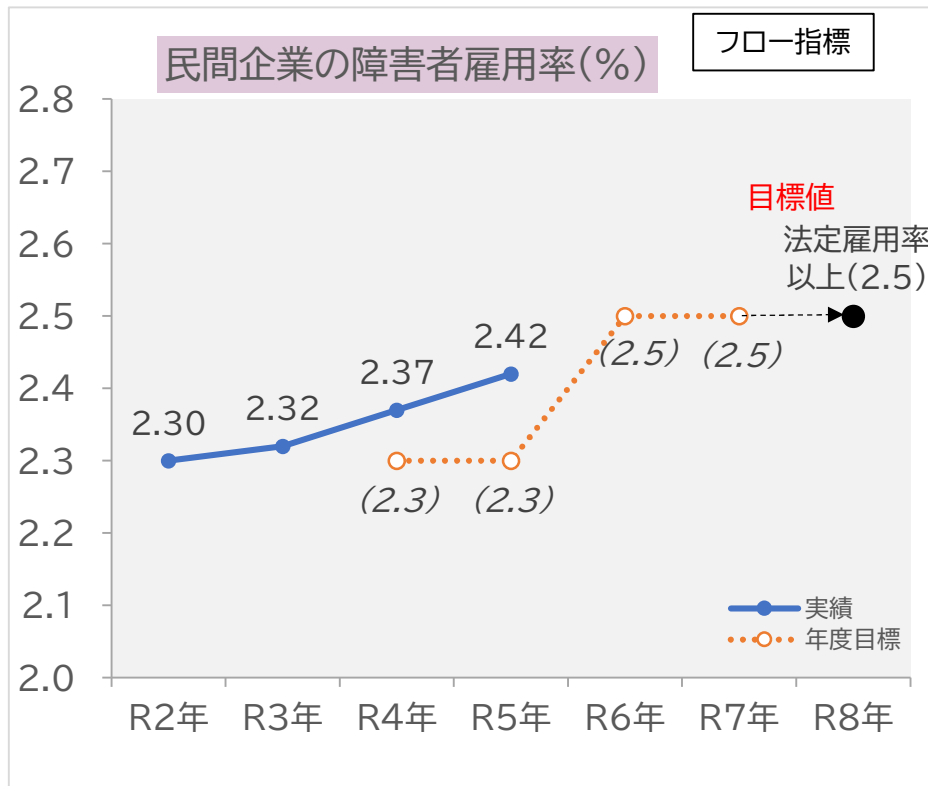
針路7

施策30 障害者の自立・生活支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
62. 民間企業の障害者雇用率	%	2.30 (R2年)	2.42 (R5年)	2.3 (R5年)	105.2%	年度目標達成	2.5 (R8年)

※年度目標値及び最終目標値は、各年6月1日時点の法定雇用率以上



≪ 指標の説明 ≫

「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づく、民間企業における障害者の雇用率。
「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、民間企業に対し義務づけられている法定雇用率以上を目指し、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

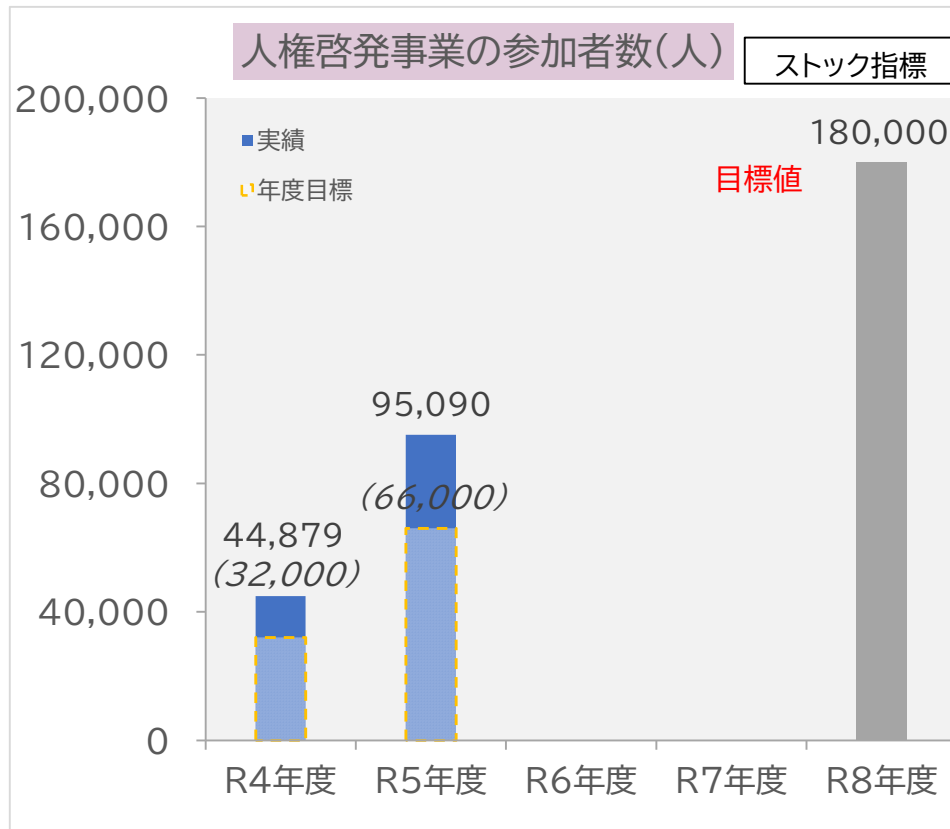
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 障害者の雇用開拓から就労支援、職場定着支援まで一連の取組を進めた結果、令和5年時点での法定雇用率(2.3%)を超える水準となった。
- 障害者の法定雇用率引上げに対し、民間企業における障害者雇用の拡大の取組を引き続き進めていく。

針路7

施策31 人権の尊重

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
63. 人権啓発事業の参加者数	人	— (-)	95,090 (R4~R5年度の累計)	66,000 (R4~R5年度の累計)	144.1%	年度目標達成	180,000 (R4~R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

人権尊重社会をめざす県民運動の各種事業や市町村・企業向け講師派遣研修会などへの参加者数の累計。

人権啓発事業の参加者数について、過去5年間(平成28年度～令和2年度)の最高値(27,214人)を上回る30,000人から、令和4年度以降更に毎年度2,000人ずつ増加させることを目指し、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

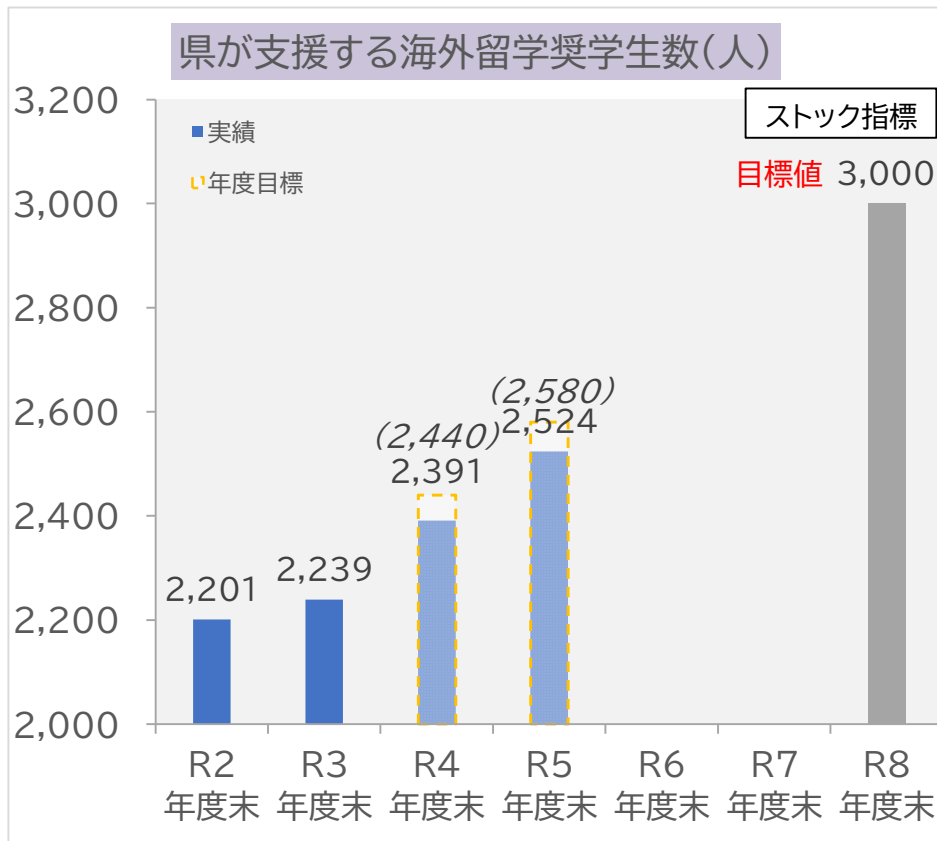
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- にじいろ(埼玉県性的マイノリティ)県民講座の受講者数増加等により目標を達成した。
- オンラインでの啓発イベント・県民講座の実施や、彩の国だより・ラジオ・SNS等、様々な媒体を活用した広報を行うことにより、啓発事業の参加者数を増やしていく。

針路8

施策32 多文化共生と国際交流のSAITAMAづくり

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
64. 県が支援する海外留学奨学生数	人	2,201 (R2年度末)	2,524 (R5年度末)	2,580 (R5年度末)	97.8%	策定時より改善	3,000 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

「埼玉発世界行き」奨学生数と姉妹友好州省派遣者数の累計。
過去の実績(毎年度140人程度)を踏まえ、同水準の若者の留学支援を継続することを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

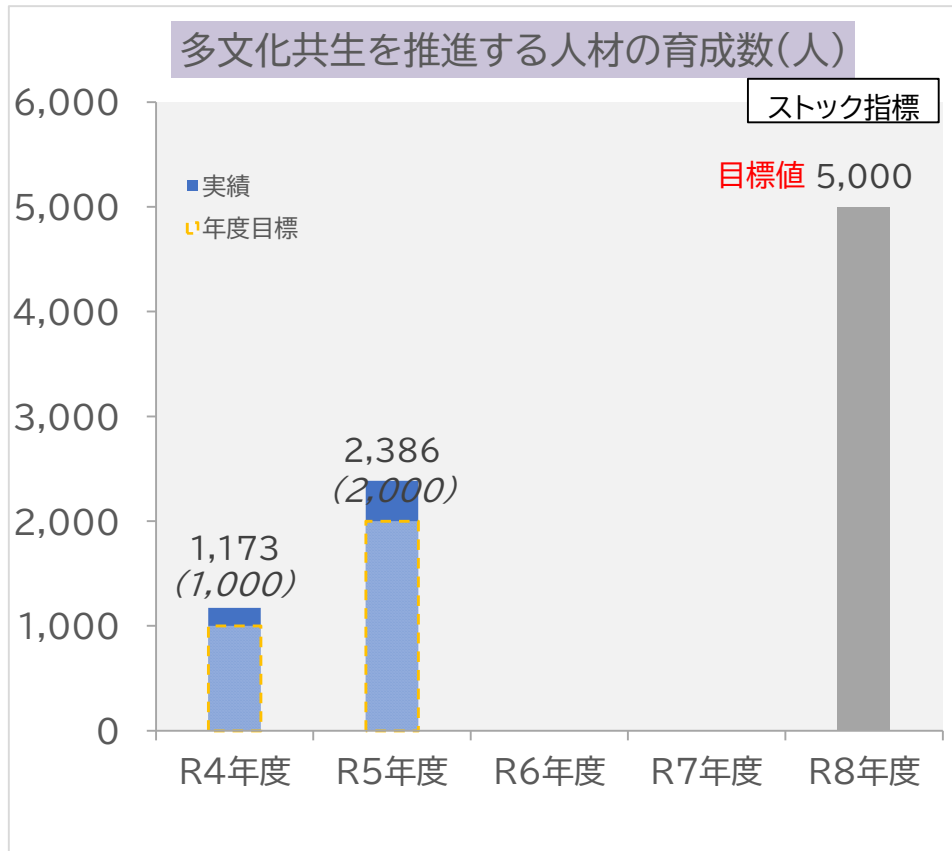
- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により海外への渡航が制限されたことから、令和2年度及び令和3年度は県が支援する海外留学奨学生は少なかったが、令和4年度以降、急激な円安等の影響があるものの、年度目標に近い留学生を海外に送り出すことができた。
- 海外情勢を考慮しながら柔軟な対応をすることで、引き続き若者の留学を支援していく。

針路8

施策32 多文化共生と国際交流のSAITAMAづくり

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
65. 多文化共生を推進する人材の育成数	人	- (-)	2,386 (R4~R5年度の累計)	2,000 (R4~R5年度の累計)	119.3%	年度目標達成	5,000 (R4~R8年度の累計)



◀ 指標の説明 ▶

県が実施する「やさしい日本語講座」や「日本語学習支援者研修」などを受講した人数の累計。
毎年度約1,000人に対し研修等を実施し、外国人住民が求める支援を行う人材を増やすことを目指し、目標値を設定。

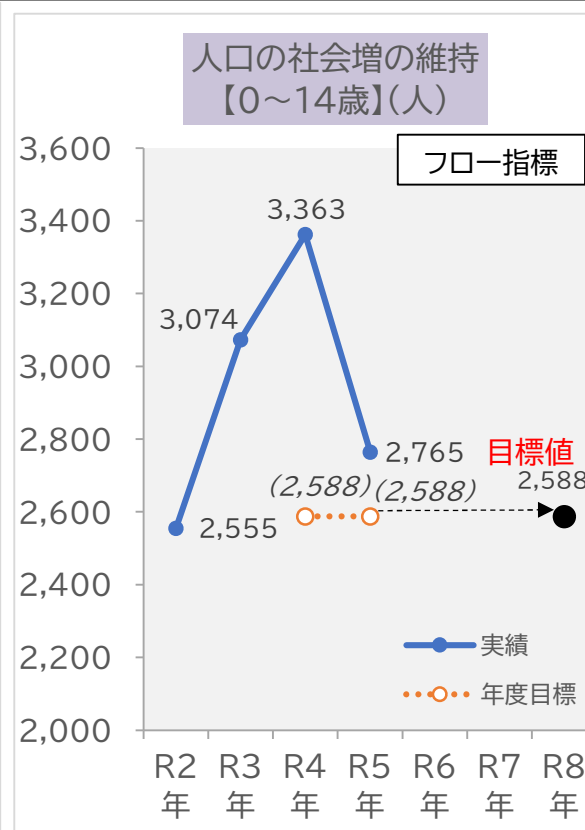
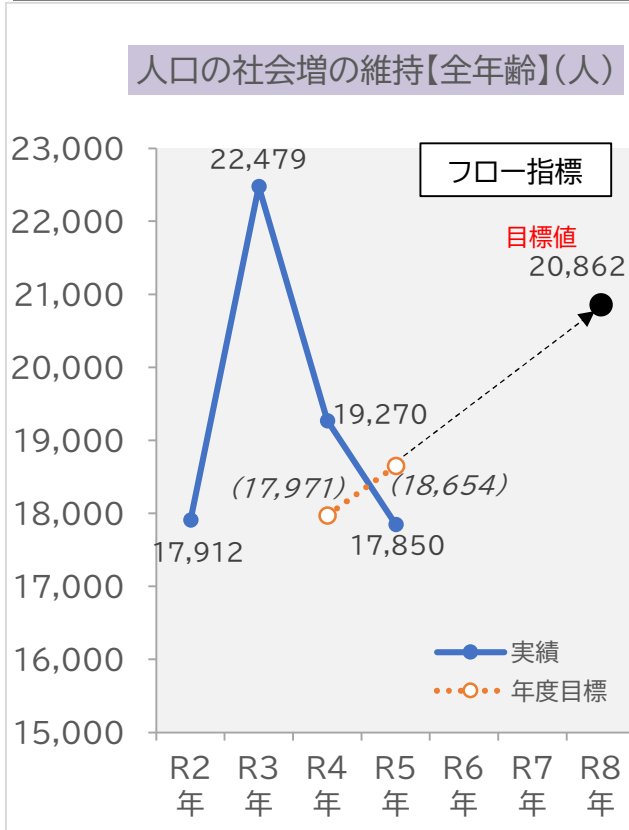
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 研修を県内4地域で開催したこと、オンラインでの開催も組み合わせることで、県内の様々な地域の県民が参加できたことにより、年度目標を上回った。
- 引き続き、研修のオンライン対応を進めるとともに、県内の学校や企業にも受講を働きかけ、幅広い年代の人材の育成を目指していく。

針路8 施策33 地域の魅力創造発信と観光振興

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
66. 人口の社会増の維持	人	全年齢17,912 0~14歳2,555 (R2年)	17,850 2,765 (R5年)	18,654 2,588 (R5年)	95.7% 106.8%	策定時より後退	20,862 2,588 (R8年)



◀ 指標の説明 ▶

本県への転入者数と転出者数の差。
 全年齢は、過去5年間(平成28年~令和2年)の平均値及び伸び率を踏まえ、増加させることを目指し、目標値を設定。
 0~14歳は、少子化が見込まれる中、過去5年間(平成28年~令和2年)の平均値を維持することを目指し、目標値を設定。

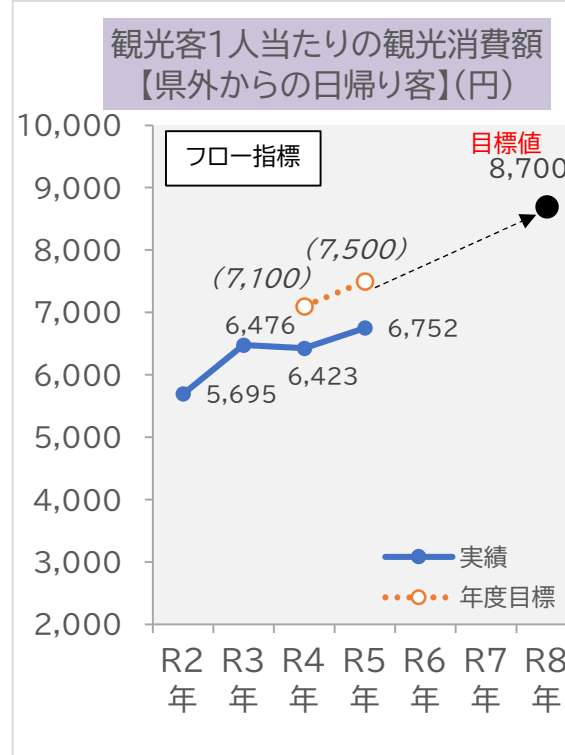
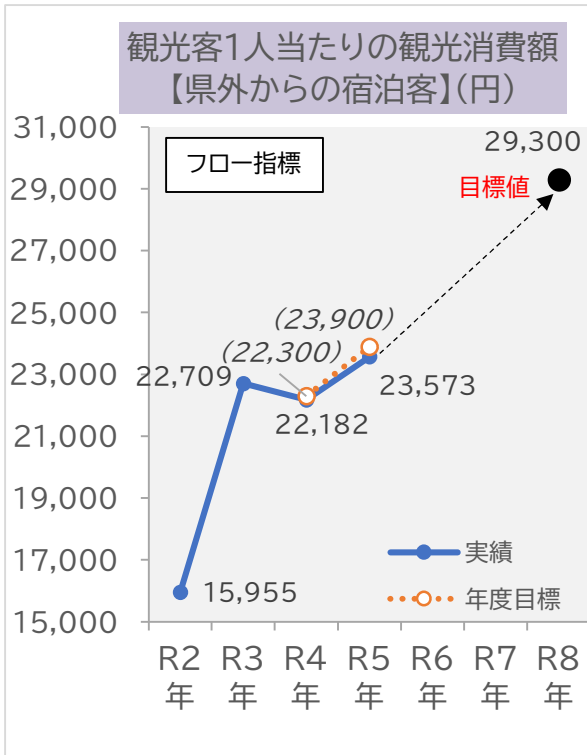
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。(0~14歳は最終目標を上回る)
- 全年齢は、「コロナ禍が収束した令和5年度は、テレワーカーの割合が首都圏全体で減少するなど、東京都が大幅な転入超過に戻ったこと」などを背景に社会増が減少したと推測される。
- 上記を踏まえ、子育て世代を本県に定着させるための魅力ある地域づくりに加えて、転出超過が続く30代以降の東京都民の住み替え需要に対応し、移動先に選ばれるための効果的な施策を調査、分析していく。

針路8 施策33 地域の魅力創造発信と観光振興

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
67. 観光客1人当たりの観光消費額	円	県外からの宿泊客 15,955	23,573	23,900	98.6%	策定時より改善	29,300
		県外からの日帰り客 5,695 (R2年)	6,752 (R5年)	7,500 (R5年)	90.0%		8,700 (R8年)



◀ 指標の説明 ▶

県外からの宿泊客及び日帰り客1人1回当たりの旅行における消費額。

令和4年に平成30年と令和元年の平均値まで回復させた上で、平成23年から令和元年の実績値の伸びを踏まえ、宿泊客は毎年7%、日帰り客は毎年5%増やすことを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

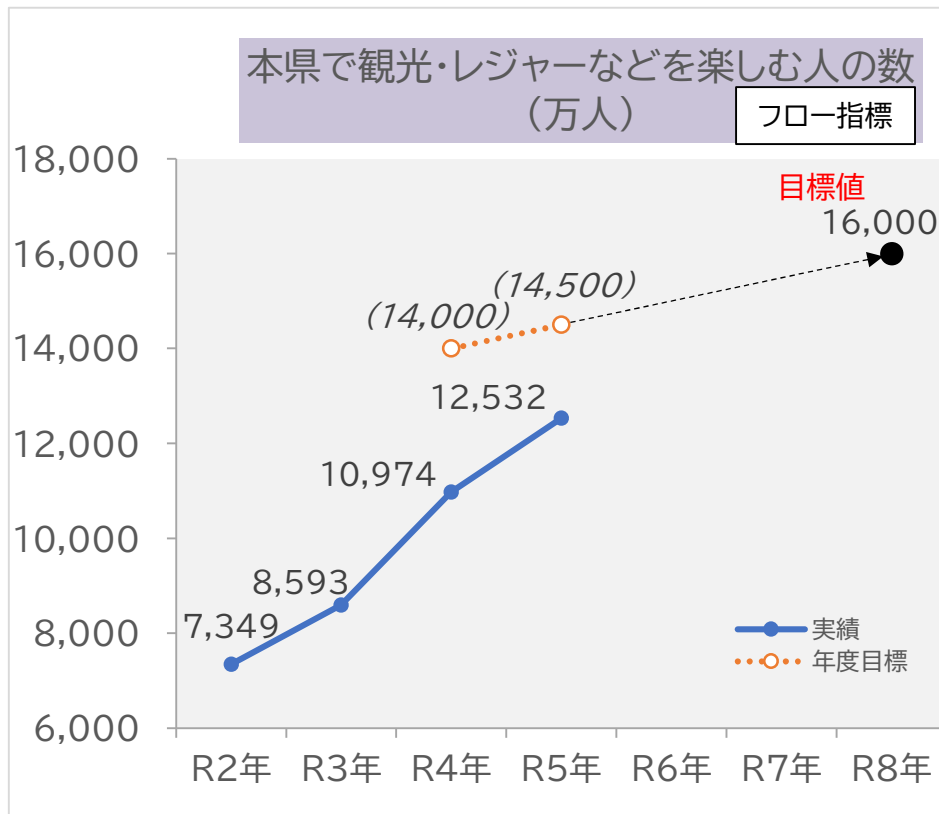
- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 宿泊客・日帰り客ともに前年よりも観光消費額が増加したが、物価高によって消費が控えられたことなどから、年度目標を下回った。
- 県内の観光周遊を促す取組により、観光消費額の増加を図っていく。

針路8

施策33 地域の魅力創造発信と観光振興

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
68. 本県で観光・レジャーなどを楽しむ人の数	万人	7,349 (R2年)	12,532 (R5年)	14,500 (R5年)	86.4%	策定時より改善	16,000 (R8年)



≪ 指標の説明 ≫

県内の観光地及び祭り、イベントなどに訪れた人数の合計(観光入込客の数)。

令和4年に平成30年と令和元年の平均値まで回復させた上で、平成23年から令和元年の実績値の伸びを踏まえ、毎年3%増やすことを目指し、目標値を設定。

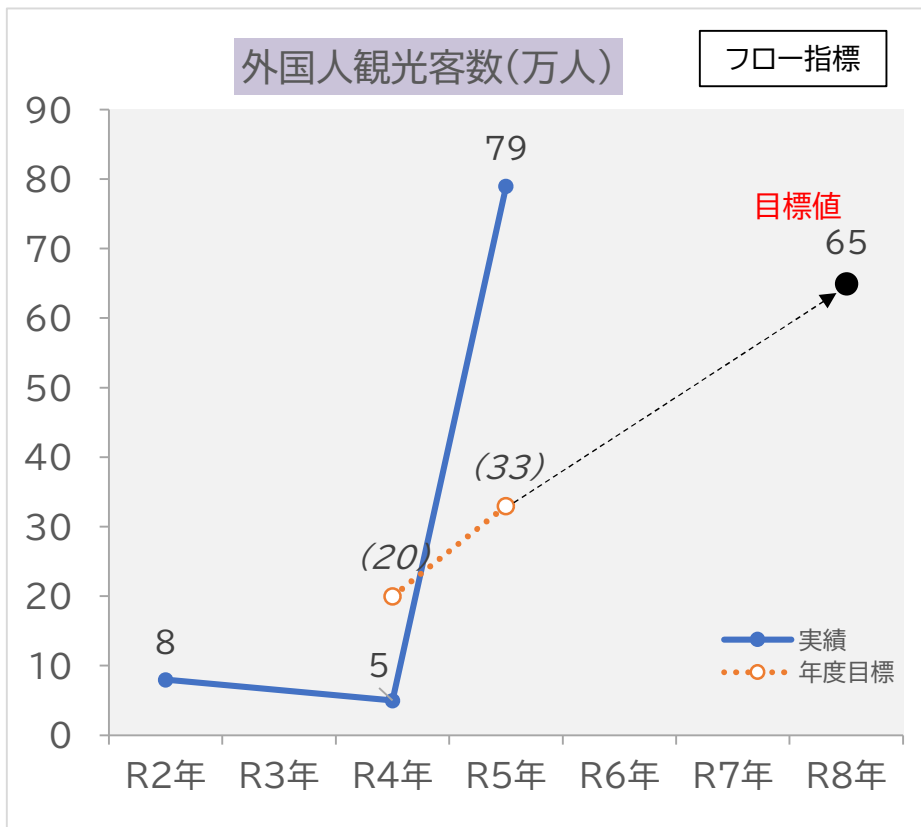
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、観光・レジャーなどを楽しむ人の数は前年よりも増加したが、コロナ禍前の水準までは回復しなかったことなどから、年度目標を下回った。
- 本県の多彩な観光資源の魅力を国内外に発信し、観光客の増加を図っていく。

針路8 施策33 地域の魅力創造発信と観光振興

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
69. 外国人観光客数	万人	8 (R2年)	79 (R5年)	33 (R5年)	239.4%	最終目標を上回る	65 (R8年)



≪ 指標の説明 ≫

1年間に本県を訪れた外国人観光客数(推計)。
外国人観光客数を令和元年の水準(65万人)まで回復させることを目指し、目標値を設定。
※新型コロナウイルス感染症の大きな影響からの回復を目指す目標値。

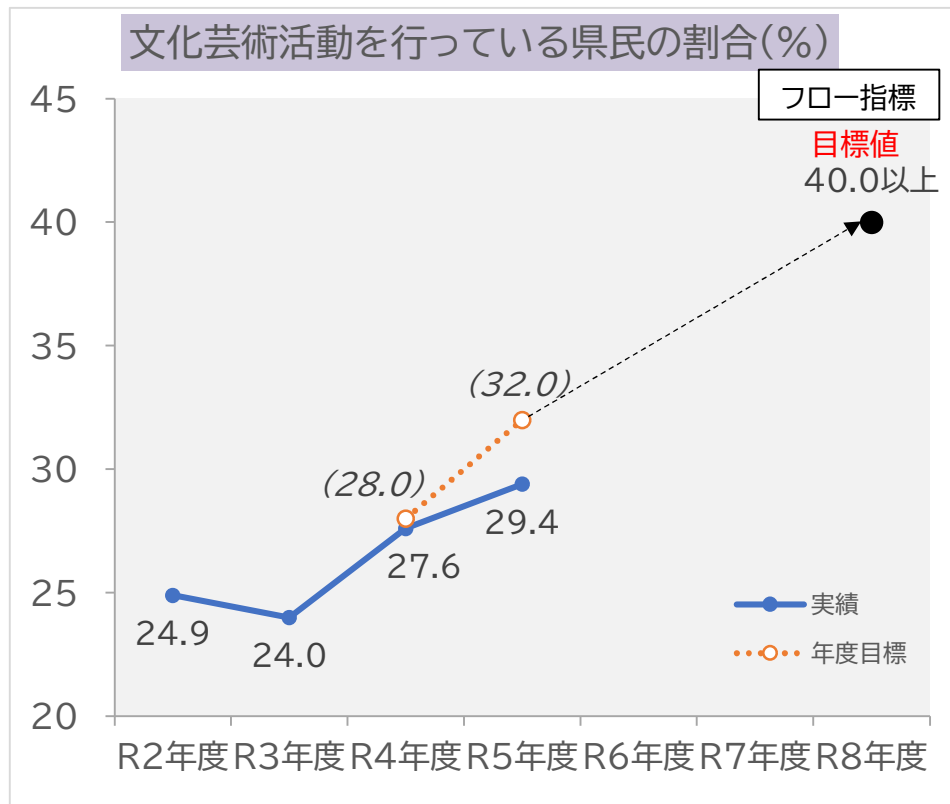
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 新型コロナウイルス感染症に係る入国制限がなくなり、都市部への外国人訪問者数がコロナ前と同程度以上に回復した。
- インバウンド向けのプロモーション等を実施し、誘客を図っていく。

針路8 施策34 文化芸術の振興

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
70. 文化芸術活動を行っている県民の割合	%	24.9 (R2年度)	29.4 (R5年度)	32.0 (R5年度)	91.9%	策定時より改善	40.0以上 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県政世論調査で「1年間に文化芸術活動を行ったことがある」と回答した県民の割合。

国の「文化芸術推進基本計画(第1期)」において、鑑賞以外の文化芸術活動をする者の割合が約40%まで増加することを目指していることを踏まえ、目標値を設定。

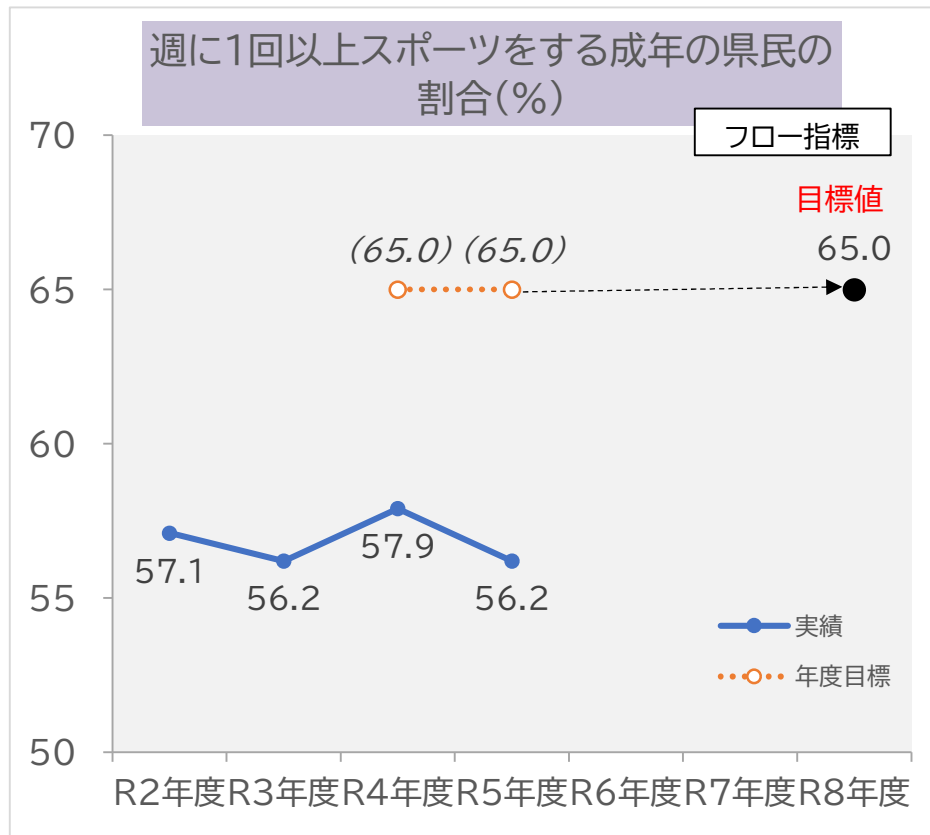
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、県民の文化芸術活動は再び活性化しつつあるが、未だ回復途上にあつたため、コロナ禍以前の水準(令和元年度:32.3%)には戻りきらなかった。指標は年度目標(32%)に届かなかったものの、前年度を超える件数の助成を行うなどの支援を行い、達成率は9割を超えた。
- 活性化しつつある県民の文化芸術活動を一層促進するため、助成金等による団体への支援強化を図っていく。

針路8 施策35 スポーツの振興

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
71. 週に1回以上スポーツをする成年の県民の割合	%	57.1 (R2年度)	56.2 (R5年度)	65.0 (R5年度)	86.5%	策定時より後退	65.0 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県政世論調査で「週に1回以上スポーツをする」と回答した成年の県民の割合。
 国の「スポーツ基本計画」において、成年の週1回以上のスポーツ実施率が65%程度となることを目指していることを踏まえ、目標値を設定。

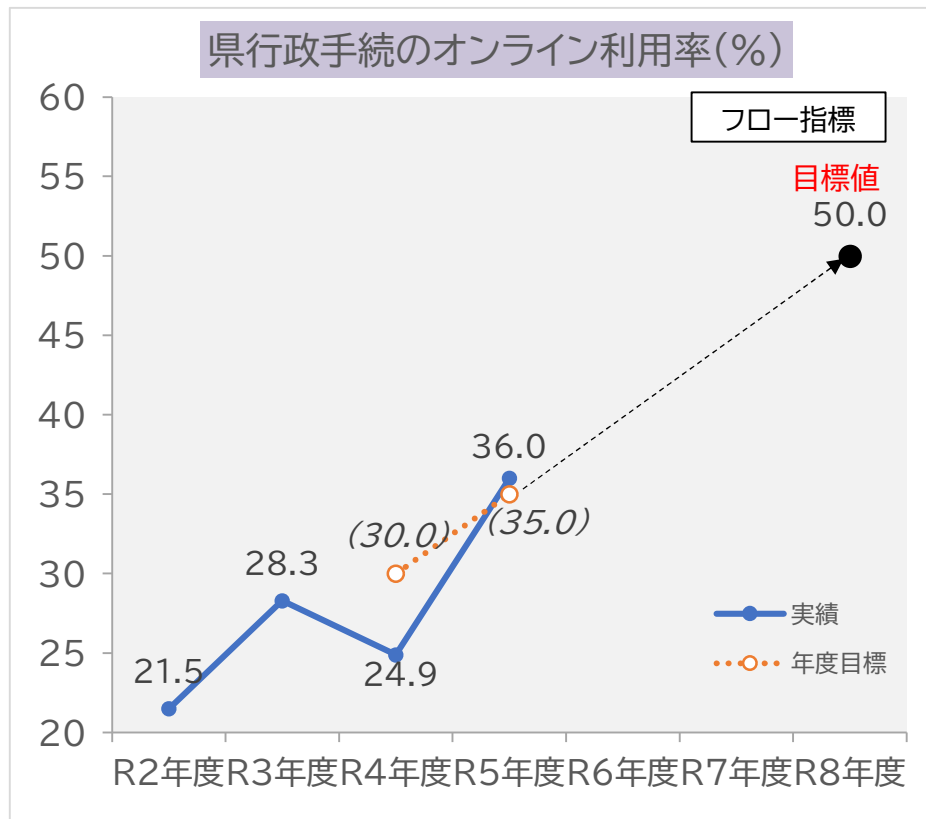
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- 県政世論調査の結果、スポーツ・レクリエーション活動をする機会がなかった理由として、仕事や家事・育児等で忙しいことを挙げた回答者が最も多く、前年を上回っていた。なお国が令和5年度に実施した世論調査におけるスポーツ実施率も前年から減少し、本県と同様の傾向となっている。
- 仕事や家事・育児等で忙しい年代(30～50歳代)は他の年代に比べスポーツ実施率が低い。これらの年代を含め、幅広い世代がスポーツに親しめる施策を推進する。

針路8 施策36 デジタル技術を活用した県民の利便性の向上

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
72. 県行政手続のオンライン利用率	%	21.5 (R2年度)	36.0 (R5年度)	35.0 (R5年度)	102.9%	年度目標達成	50.0 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

県の行政手続の総申請件数に対する、オンライン申請件数の割合。国の「規制改革実施計画」における、各省庁の所管する行政手続のオンライン利用率の引上げについての方針を踏まえ、県の現状値を勘案し、目標値を設定。

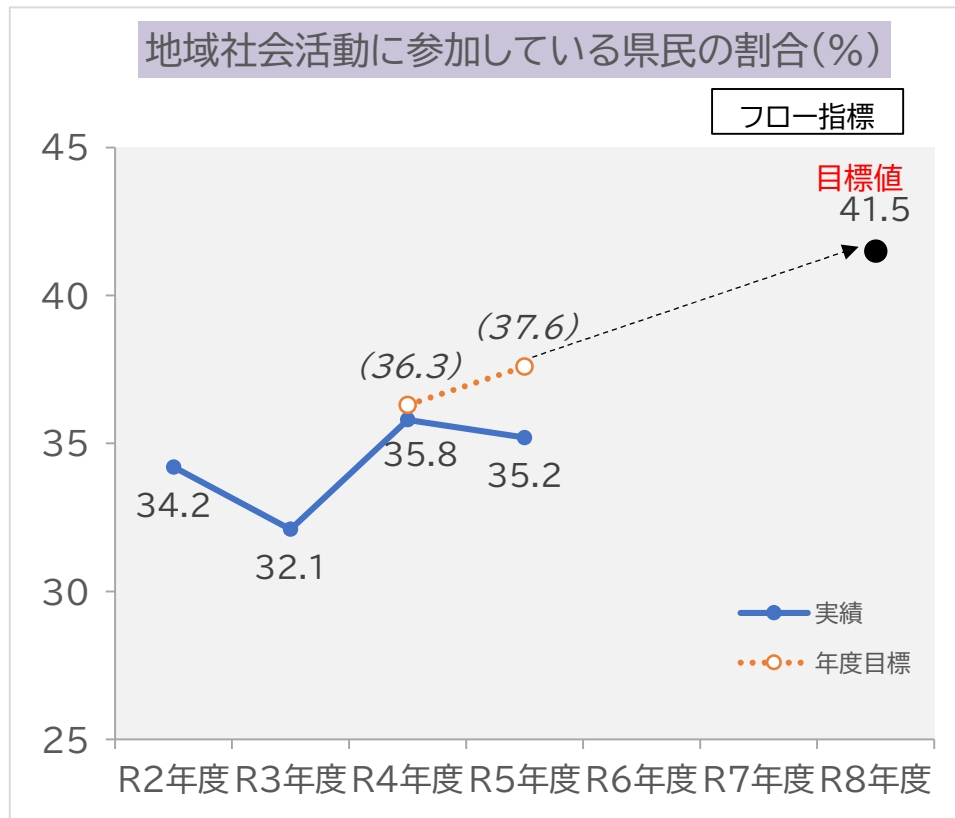
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 申請件数の多い手続のオンライン化や、証紙廃止に伴うキャッシュレス化が進んだことにより、年度目標を達成した。
- DXの第2ステップ「業務プロセス改革」を通じて、紙で提出する必要がある手続等の見直しを行い、手続のオンライン化を進めるとともに、ユーザビリティに配慮したシステム構築や広報・普及啓発等の取組を一体的に推進することにより、更なるオンライン利用率の向上を図る。

針路8 施策37 多様な主体による地域社会づくり

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
73. 地域社会活動に参加している県民の割合	%	34.2 (R2年度)	35.2 (R5年度)	37.6 (R5年度)	93.6%	策定時より改善	41.5 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県政世論調査で「過去1年間に地域社会活動(自治会、PTAなどによる地域活動及びNPO、ボランティア活動など)に参加したことがある」と回答した県民の割合。

過去最高値(平成26年度 41.5%)まで回復させることを目指し、目標値を設定。

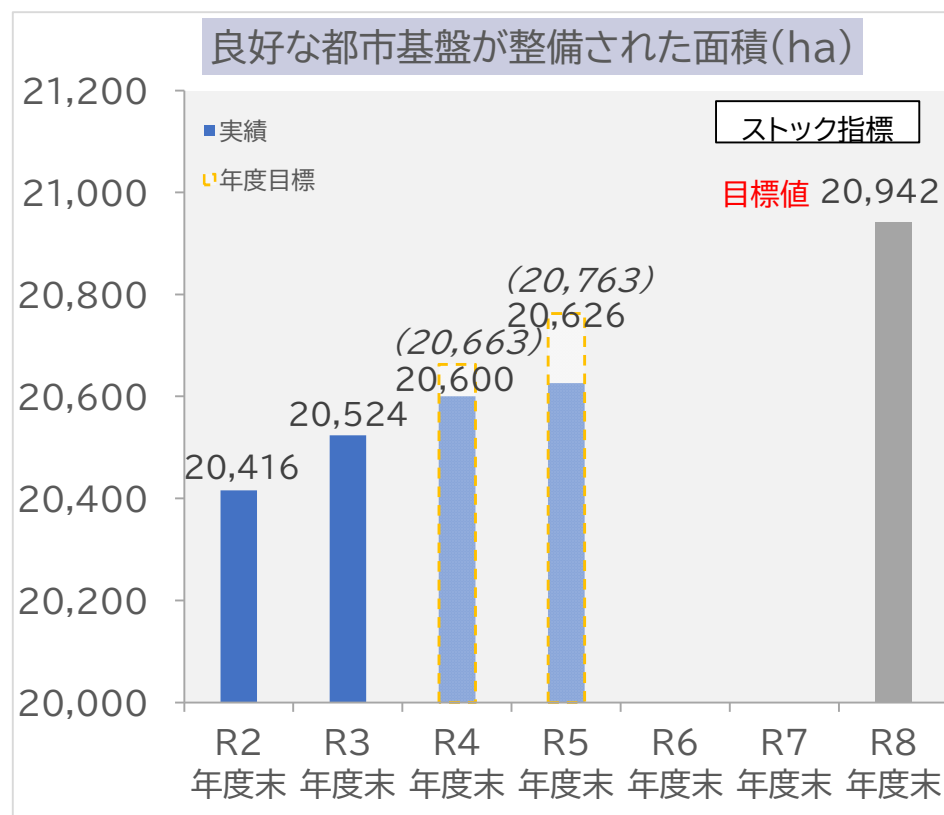
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 地域社会活動への不参加の理由は、「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」「参加するきっかけが得られない」「興味がない」が上位にあがっている。令和5年度については、コロナによって低下した意欲が回復しきれていなかったことが指標の後退した要因として考えられる。
- NPO等と企業・団体等の連携を促進するための活動情報の発信やマッチング支援を行うなど、県民が地域社会活動に参加しやすくなる環境を作っていく。

針路9 施策38 住み続けられるまちづくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
74. 良好な都市基盤が整備された面積	ha	20,416 (R2年度末)	20,626 (R5年度末)	20,763 (R5年度末)	99.3%	策定時より改善	20,942 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

土地区画整理事業、市街地再開発事業により、良好な都市基盤(住宅地や商業地)が整備され、災害対応力が向上した土地の面積。
各事業主体が令和8年度までに予定している住宅地や商業地の整備を着実に推進することを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

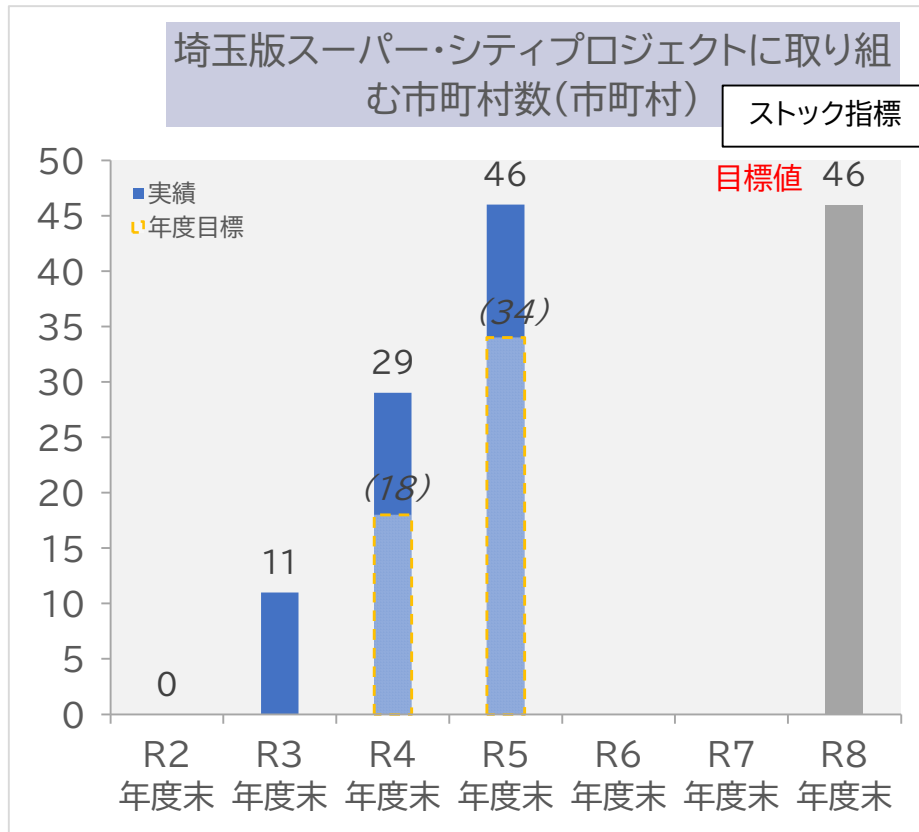
- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 土地区画整理事業や市街地再開発事業への一部補助など事業の実施と促進に取り組んだ結果、各地区における進捗はあるが、一部遅れがでている。
- 引き続き、円滑な事業の実施と促進に取り組んでいく。

針路9

施策38 住み続けられるまちづくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
75. 埼玉版スーパー・シティプロジェクトに取り組む市町村数	市町村	0 (R2年度末)	46 (R5年度末)	34 (R5年度末)	135.3%	最終目標を上回る	46 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

「埼玉版スーパー・シティプロジェクトの基本的な考え方(骨格)」に基づくまちづくりの検討に着手した市町村の数。

令和3年度に実施した市町村意向調査で取組意向を示した市町村において、プロジェクトに基づくまちづくりが進むことを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

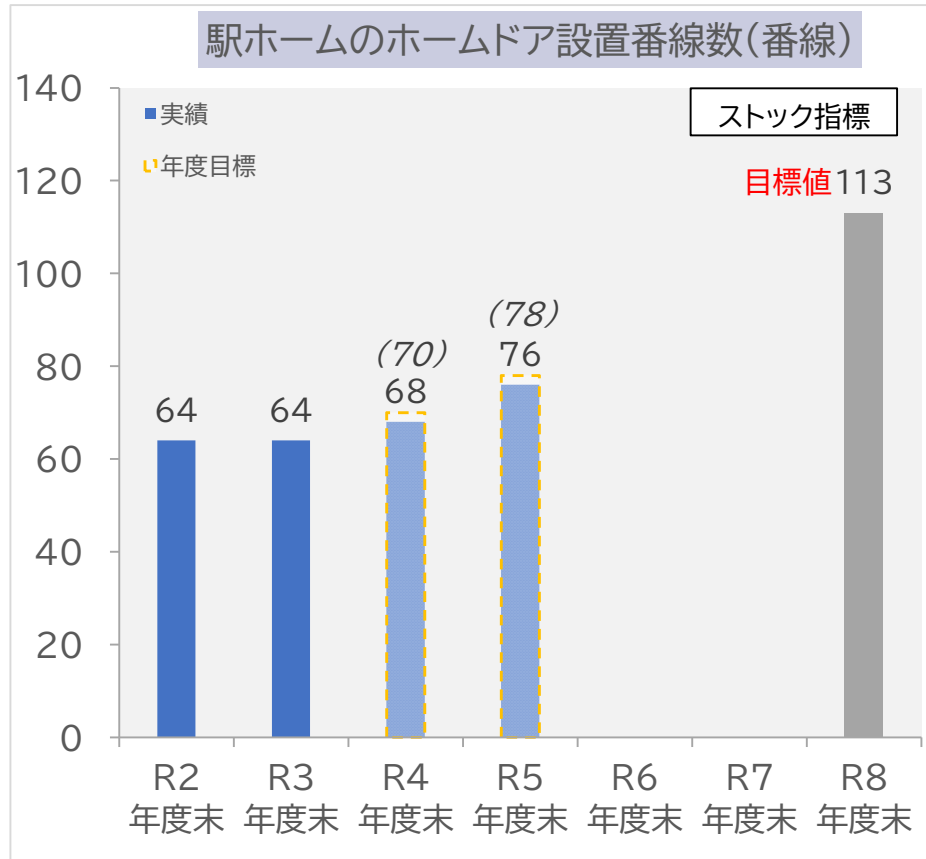
- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- ワンストップ窓口において各市町村からの相談に一括して対応するとともに、プロジェクトに関する市町村説明会を開催した。また、市町村と企業等の交流機会の拡大及びマッチング強化の取組を実施した。
- プロジェクトに取り組む市町村に対して、関係各課で構成する事業化支援チームにより市町村のまちづくりの具体化を支援するとともに、財政支援や技術支援、企業等とのマッチング支援等を実施していく。

針路9

施策39 埼玉の価値を高める公共交通網の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
76. 駅ホームのホームドア設置番線数	番線	64 (R2年度末)	76 (R5年度末)	78 (R5年度末)	97.4%	策定時より改善	113 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

ホームドアが設置されている駅の番線数。
鉄道事業者が作成したホームドア整備計画に基づき、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

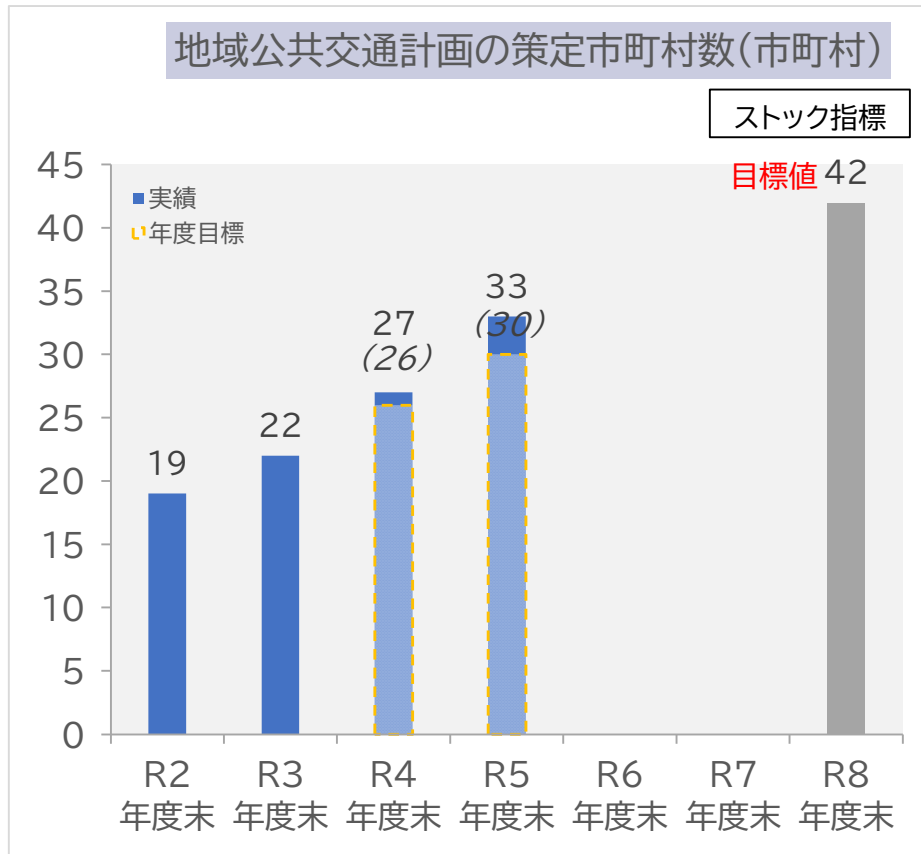
- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 鉄道事業者が行うホームドアの整備を支援する市町村に対し、補助金による支援等を行っている。策定時の数値は上回ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響や半導体不足等による鉄道事業者の整備計画の見直し等が年度目標に到達しなかった要因と考えられる。
- 市町村と連携してホームドアの整備を行う鉄道事業者を支援していくなど、令和6年度においても引き続き取組を進めていく。

針路9

施策39 埼玉の価値を高める公共交通網の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
77. 地域公共交通計画の策定市町村数	市町村	19 (R2年度末)	33 (R5年度末)	30 (R5年度末)	110.0%	年度目標達成	42 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」において、努力義務とされている地域公共交通計画(マスタープラン)を策定した市町村数。平成26年度から令和2年度までの策定実績を踏まえ、毎年度4件ずつ増加させることを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

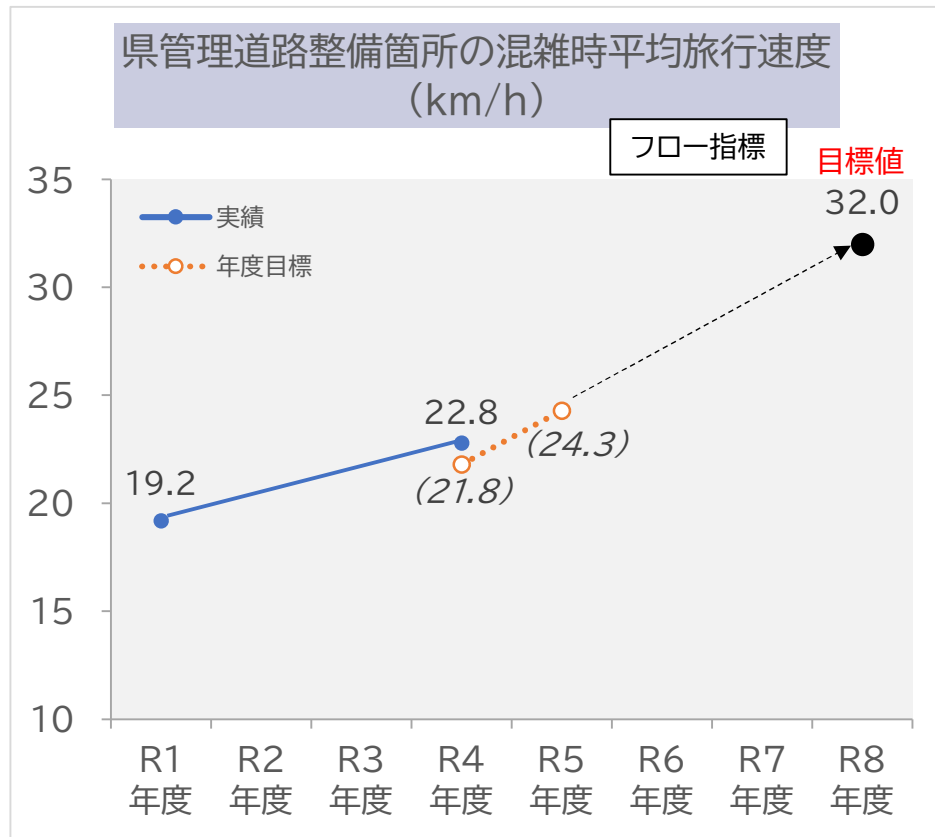
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 市町村が地域公共交通計画を策定するインセンティブとして、地域公共交通計画に基づく取組への財政支援を行うとともに、市町村向けの研修会や市町村の地域公共交通会議などを通して積極的に市町村に働きかけた結果、年度目標を上回った。
- 引き続き、地域公共交通計画策定のインセンティブとなる財政支援や研修会や交通会議を通じた市町村への積極的な働きかけによって、地域公共交通計画の策定促進を図る。

針路9

施策40 埼玉の活力を高める道路ネットワークの構築

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
78. 県管理道路整備箇所の混雑時平均旅行速度	km/h	19.2 (R1年度)	22.8 (R4年度)	21.8 (R4年度)	104.6%	年度目標達成	32.0 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

朝夕ピーク時の混雑などを解消するために整備を進めている県管理道路における混雑時平均旅行速度。
 自動車が円滑に走行できるよう道路整備を進めて渋滞が緩和し、全国平均(32.0km/h)水準まで改善することを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

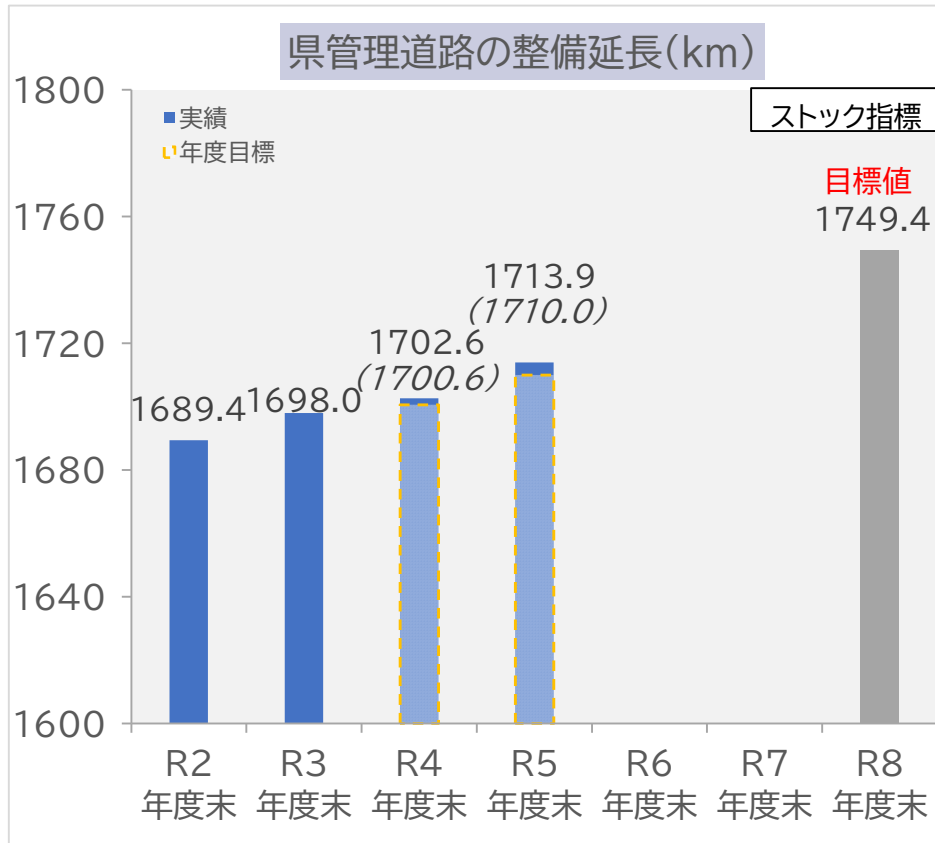
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 県管理道路延長の整備については、着実に達成しているため、旅行速度についても改善され、年度目標を上回った。
- 旅行速度の改善のために、引き続き県管理道路の整備などに取り組む。

針路9

施策40 埼玉の活力を高める道路ネットワークの構築

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
79. 県管理道路の整備延長	km	1,689.4 (R2年度末)	1,713.9 (R5年度末)	1,710.0 (R5年度末)	100.2%	年度目標達成	1,749.4 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

バイパス整備、現道拡幅及び交差点改良が行われた距離の累計。過去5年間(平成28年度～令和2年度)の実績を踏まえ、同水準の整備延長を完了することを目指し、目標値を設定。

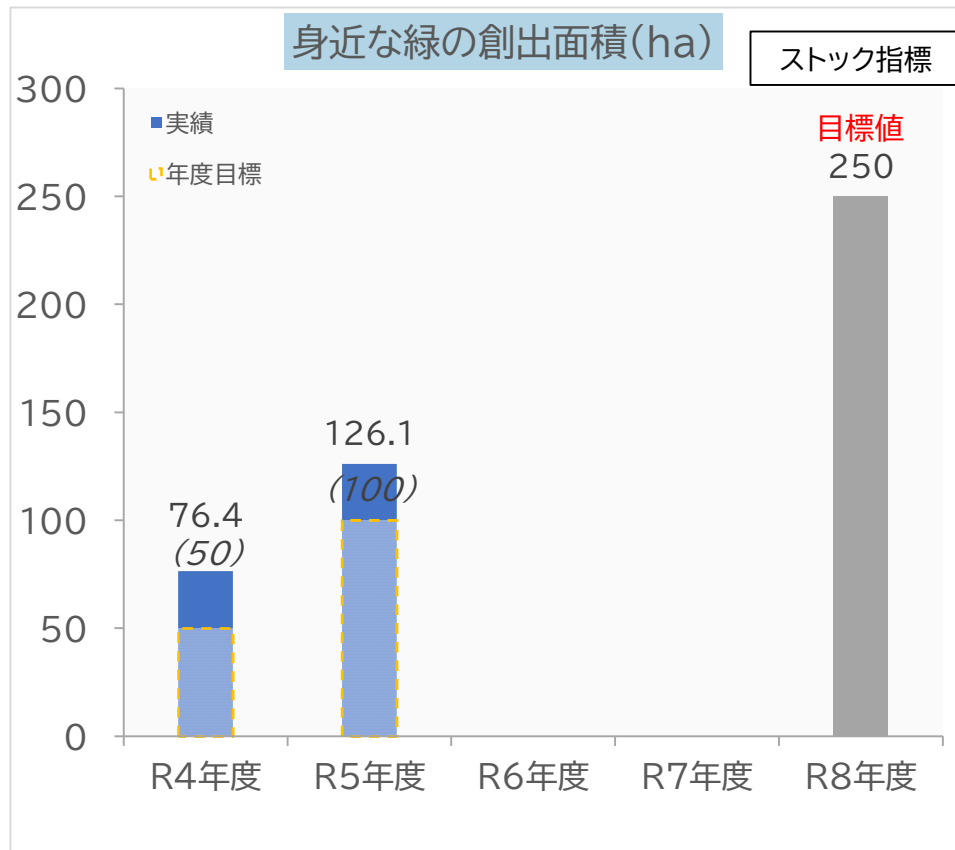
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 道路整備に向けて関係者との協議が進んだため、年度目標を上回る県管理道路の整備延長となった。
- 協議が難航している整備予定箇所も含め、引き続き取組を進めていく。

針路10 施策41 みどりの保全と創出

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
80. 身近な緑の創出面積	ha	— (—)	126.1 (R4～R5年度の累計)	100 (R4～R5年度の累計)	126.1%	年度目標達成	250 (R4～R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

県や市町村の条例に基づく緑化計画届出制度等による緑化面積及び園庭・校庭の芝生化などによる緑の創出面積の合計。
類似制度を持つ都府県の中でトップクラスの創出面積を目指し、毎年50haを目標値に設定。

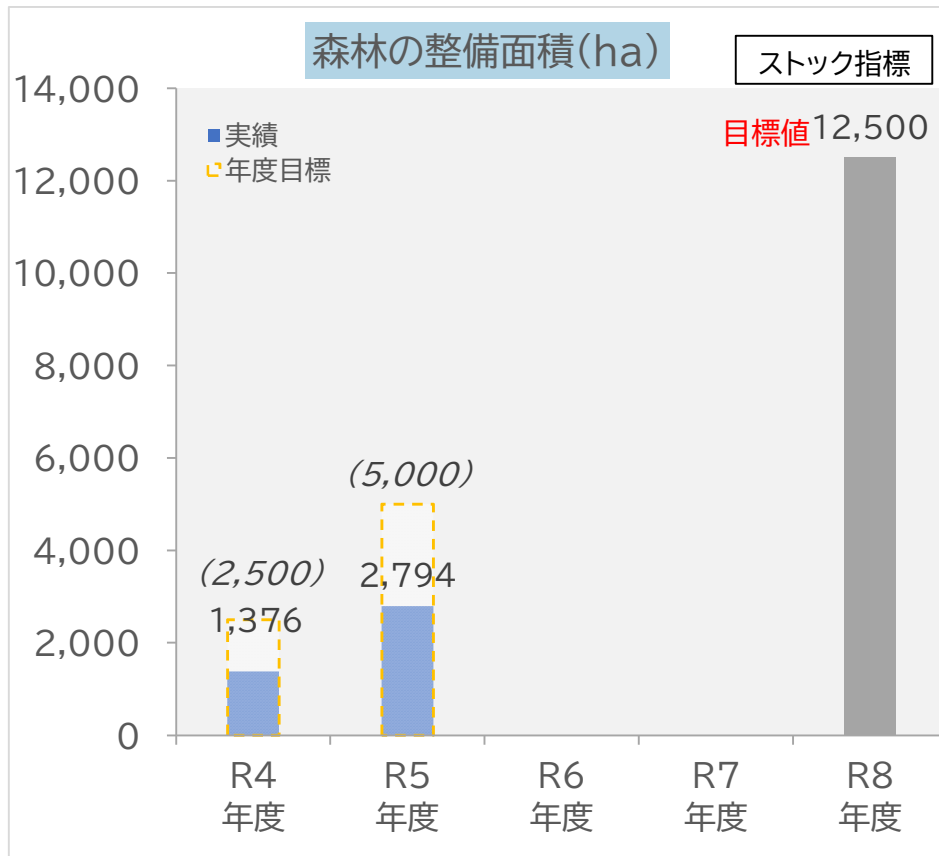
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 事業者が緑化計画届出書を提出するに当たり、環境管理事務所が指導や助言を適宜行っていることや、優良な緑化計画の認定及び表彰を行っていることなどにより、事業者の緑化への意識向上が図られていることが目標達成の要因と考えている。
- 今後も事業者が緑化計画届出書を提出するに際し、環境管理事務所による適切な指導や助言を継続するとともに、優良な緑化計画の認定といった表彰制度により事業者の緑化への意識向上につながるよう引き続き取り組む。

針路10 施策41 みどりの保全と創出

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
81. 森林の整備面積	ha	— (—)	2,794 (R4～R5年度の累計)	5,000 (R4～R5年度の累計)	55.9%	策定時より改善	12,500 (R4～R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

間伐や植栽、下刈りなどの森林整備を実施した面積。
将来にわたり森林を適正に維持していくため、間伐や植栽、下刈り、獣害等による被害地の再生などの森林整備を、年間2,500ha実施することを目指し、目標値を設定。

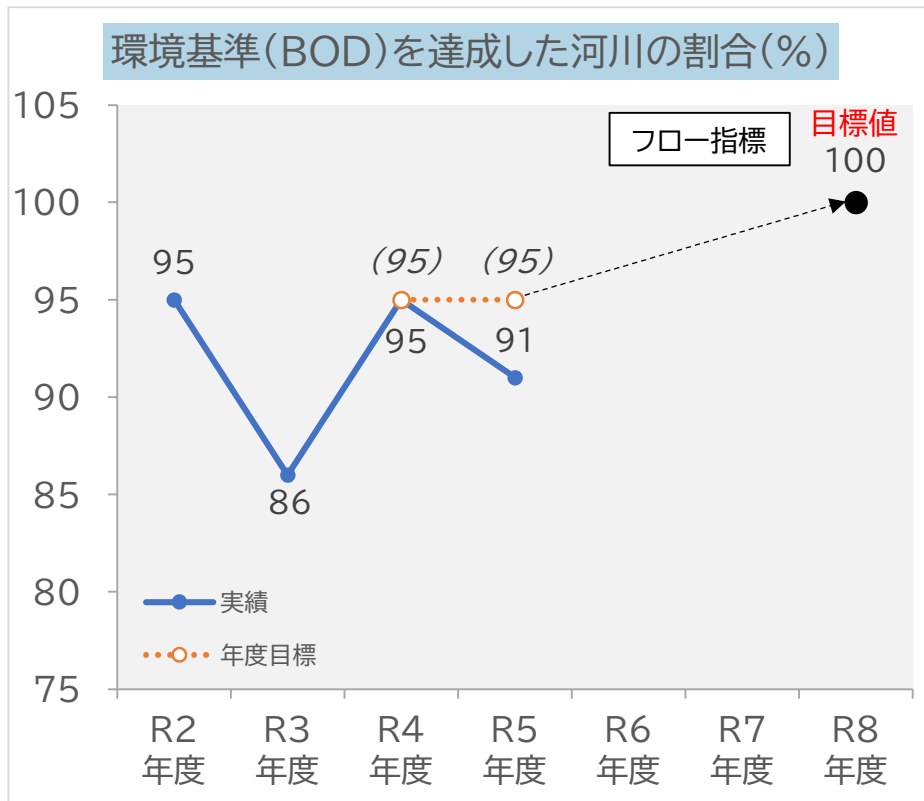
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 間伐や植栽、下刈、ナラ枯れ対策などに取り組んでおり、市町村の森林環境譲与税の活用も進みつつあるが、まだ十分ではないこと、コロナ禍で減少したボランティアによる森林整備がコロナ前の水準まで戻っていないことにより、年度目標を下回った。
- 森林環境譲与税を活用した森林整備が進むよう市町村を支援するとともに、森林ボランティア団体と連携し、全国植樹祭を契機とした参加者募集の取組等を推進することにより、森林整備面積の向上を図る。

針路10 施策42 恵み豊かな川との共生

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
82. 環境基準(BOD)を達成した河川の割合	%	95 (R2年度)	91 (R5年度)	95 (R5年度)	95.8%	策定時より後退	100 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

「埼玉県公共用水域水質測定計画」に基づく測定を行う河川におけるBOD(生物化学的酸素要求量)の環境基準の達成率。
測定対象の全ての河川で環境基準を達成することを目指し、目標値を設定。

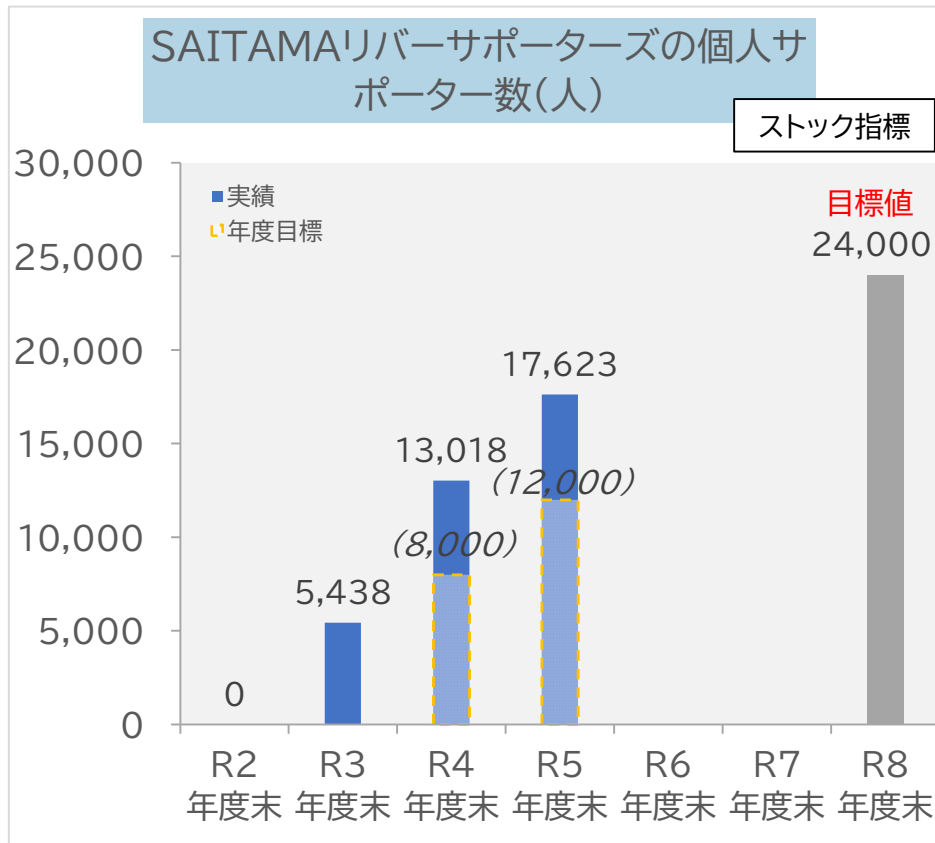
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- 河川水質改善の主な要因である生活排水処理率は向上しているものの、令和5年度は汚濁希釈効果のある降水量が例年より少なく、年度目標値に到達しなかった。
- 引き続き、下水道、農業集落排水施設、合併処理浄化槽の整備による生活排水処理率の向上を図りつつ、水質を監視していく。

針路10 施策42 恵み豊かな川との共生

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
83. SAITAMAリバーサポーターズの個人サポーター数	人	0 (R2年度末)	17,623 (R5年度末)	12,000 (R5年度末)	146.9%	年度目標達成	24,000 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

川との共生や保全に取り組むSAITAMAリバーサポーターズの個人サポーター数。

過去の市町村や環境団体によるイベント等への参加者数の年平均2,700人を踏まえ、それを上回る数の個人サポーターの増加(年間4,000人)を目指し、目標値を設定。

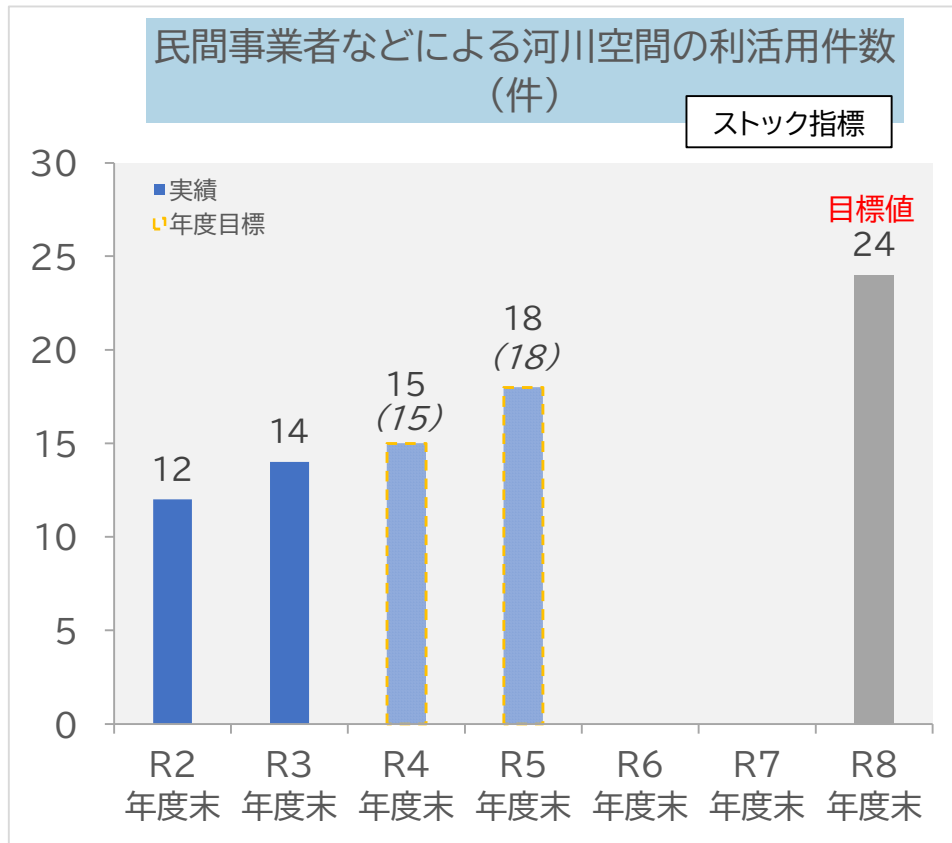
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 新規登録促進や登録継続のため、引き続き、生き物調査、川遊びイベントなど川を楽しむ情報の発信、河川清掃活動の協力者募集や川の国応援団の活動の発信、川での活動に役立つ情報やコラムの発信などを行った。令和5年度は鉄道ファンやハイキング愛好者をターゲットにした取組も行い、拡大を図った。
- これまでの情報発信を継続して行うほか、ゲーム要素を持たせた仕組みとすることで、今まで川に関心がなかった県民に興味を持ってもらう「リバサポ・クエスト」を実施する。

針路10 施策42 恵み豊かな川との共生

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
84. 民間事業者などによる河川空間の利活用件数	件	12 (R2年度末)	18 (R5年度末)	18 (R5年度末)	100.0%	年度目標達成	24 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

県管理河川において民間事業者などが河川空間を安らぎとにぎわいの場として利活用する件数。
民間事業者などと連携して新たに河川空間を利活用する件数として、これまでの取組実績などを踏まえ、目標値を設定。

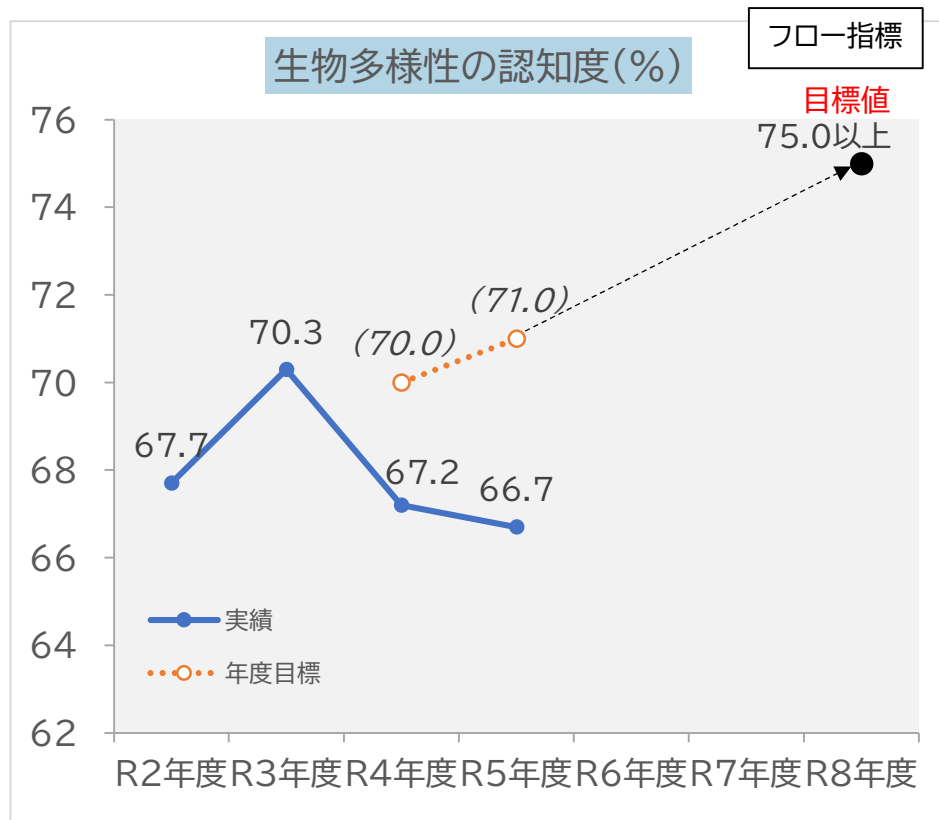
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 民間事業者等が河川空間の商業利用に意欲を持つよう、先行事例について幅広くSNS等で情報発信を行った。
- 地元市町村が事務局の利用調整協議会で、地域活性化の方針、施設使用者の募集方法、選定方法等を審議し、「水辺空間とことん活用プロジェクト」による河川空間の利活用件数の増加を図る。「水辺deベンチャーチャレンジ」にて、実施候補箇所(14箇所)の具体的な利活用計画の検討を行うとともに、利活用計画が具体化した箇所については測量設計や工事を進める。

針路10 施策43 生物多様性の保全

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
85. 生物多様性の認知度	%	67.7 (R2年度)	66.7 (R5年度)	71.0 (R5年度)	93.9%	策定時より後退	75.0以上 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県政世論調査で「生物多様性」という言葉について、言葉の意味も含め知っている又は言葉は聞いたことがあると回答した県民の割合。
 国の「生物多様性国家戦略」の数値目標に合わせて設定した「埼玉県生物多様性保全戦略」の目標値(75.0%以上)を踏まえ、目標値を設定。

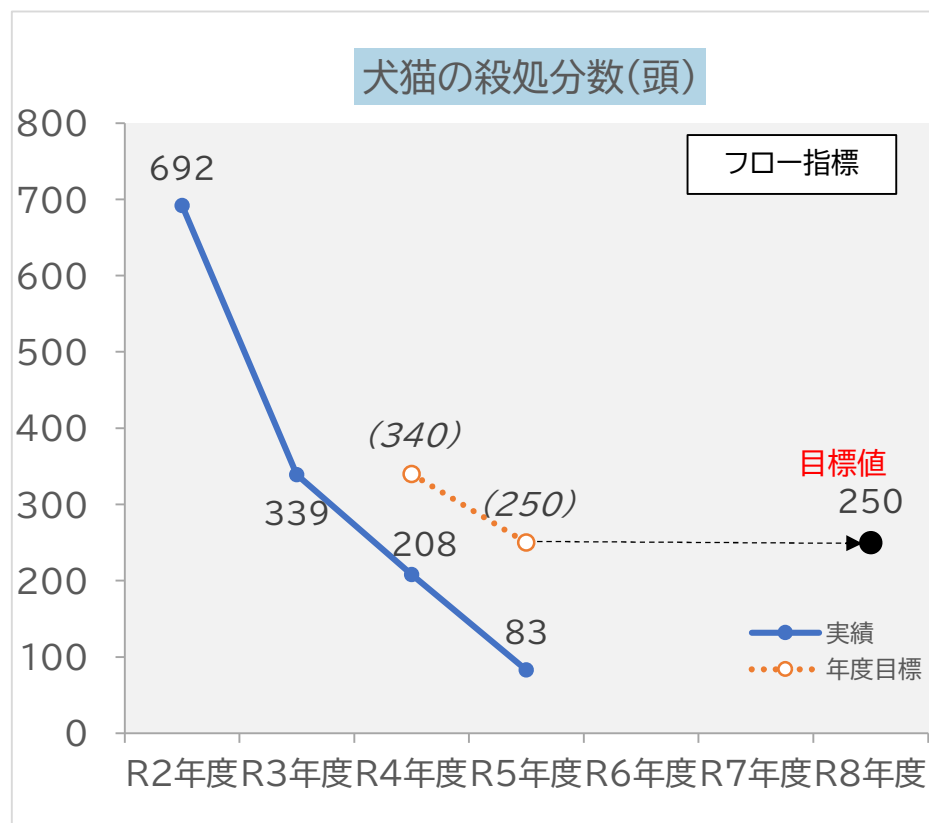
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- 年代別認知度をみると、30～50歳代のいわゆる現役世代で低水準となっている。関心の低い層などには、自発的な行動が必要なイベント等の既存の取組だけでは認知度向上への効果は薄い。また、高水準で推移してきた若年世代である10歳代・20歳代の認知度がR5年度に大きく低下しており、対策が必要である。
- これまで行ってきた県政出前講座や自然ふれあい施設におけるイベント等の実施に加え、特に現役世代をターゲットとした普及啓発に取り組む。

針路10 施策43 生物多様性の保全

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
86. 犬猫の殺処分数	頭	692 (R2年度)	83 (R5年度)	250 (R5年度)	301.2%	最終目標を上回る	250 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県(指定都市及び中核市を含む)が収容した犬猫のうち殺処分された数。
 「埼玉県動物愛護管理推進計画(第二次改定版)」において、令和12年度末までに犬猫の殺処分数ゼロの達成を目指していることを踏まえ、目標値を設定。

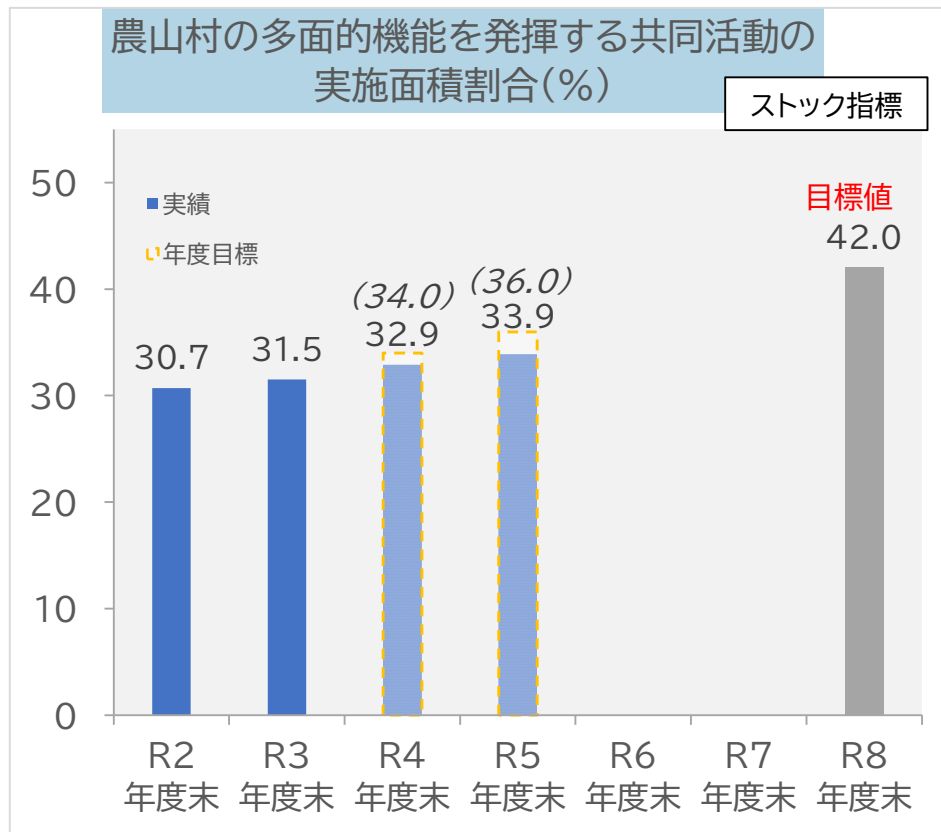
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 県に収容された犬猫の殺処分数を削減するため、迷子動物の返還やボランティア等と連携した新たな飼い主への譲渡事業の促進、野良猫の繁殖抑制の推進等に努めたことが要因であると考えられる。
- 今後も引き続き、犬猫の適正飼養の啓発や譲渡事業の拡充、飼い主のいない猫の繁殖抑制の推進等を進め、更なる殺処分数削減に取り組んでいく。

針路10 施策44 活力ある農山村の創造

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
87. 農山村の多面的機能を発揮する共同活動の実施面積割合	%	30.7 (R2年度末)	33.9 (R5年度末)	36.0 (R5年度末)	94.2%	策定時より改善	42.0 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

農振農用地(田畑)に占める、農地や農業用排水路の草刈りや泥上げなど地域の共同活動を実施した面積の割合。
過去5年間(平成28年度～令和2年度)の実績値の伸び(年平均約2ポイント)を踏まえ、同等の伸びを維持することを目指し、目標値を設定。

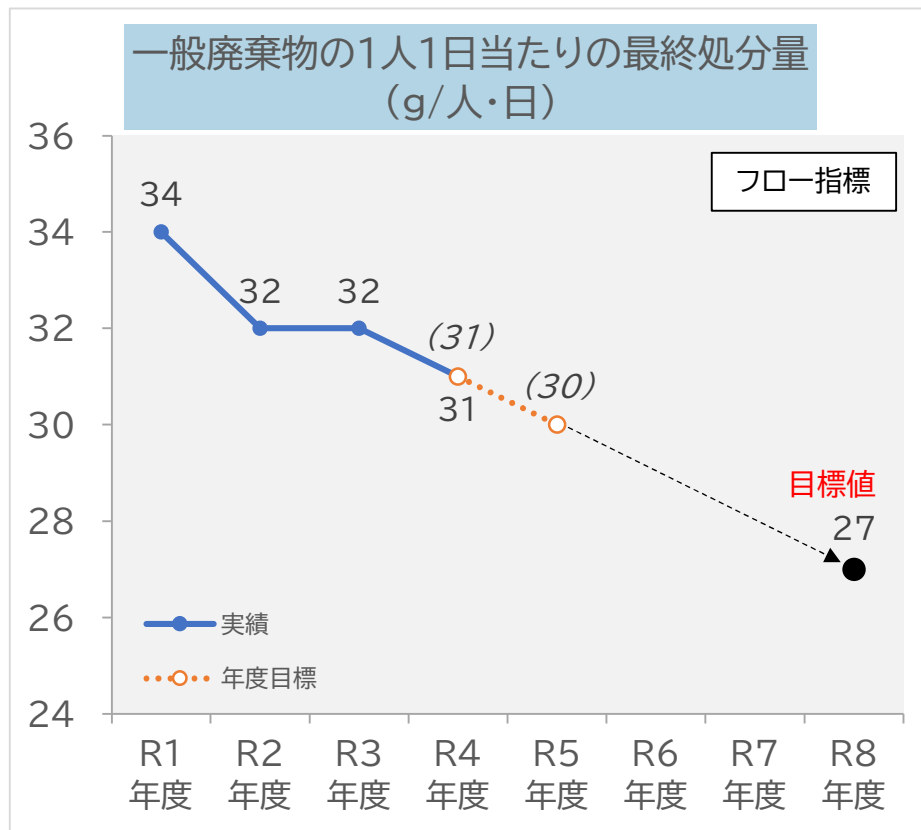
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 説明会やPR活動を実施したものの、高齢化等により地域のリーダーや活動を行う人材の確保が難しい状況もあり、年度目標に及ばなかった。
- 目標達成に向け、各市町村に重点推進地区を設定し、地域の実情に応じて推進するとともに、説明会の実施やPR活動を行い、制度への理解を進め、事業の拡大を図っていく。

針路10 施策45 資源の有効利用と廃棄物の適正処理の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
88. 一般廃棄物の1人1日当たりの最終処分量	g/人・日	34 (R1年度)	31 (R4年度)	31 (R4年度)	100.0%	年度目標達成	27 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

1人1日当たりの一般廃棄物の最終処分(埋立処分)量。
 国の基本方針における削減目標を踏まえて設定した「第9次埼玉県廃棄物処理基本計画」における令和7年度の目標値(28g/人・日)を更に削減することを目指し、目標値を設定。

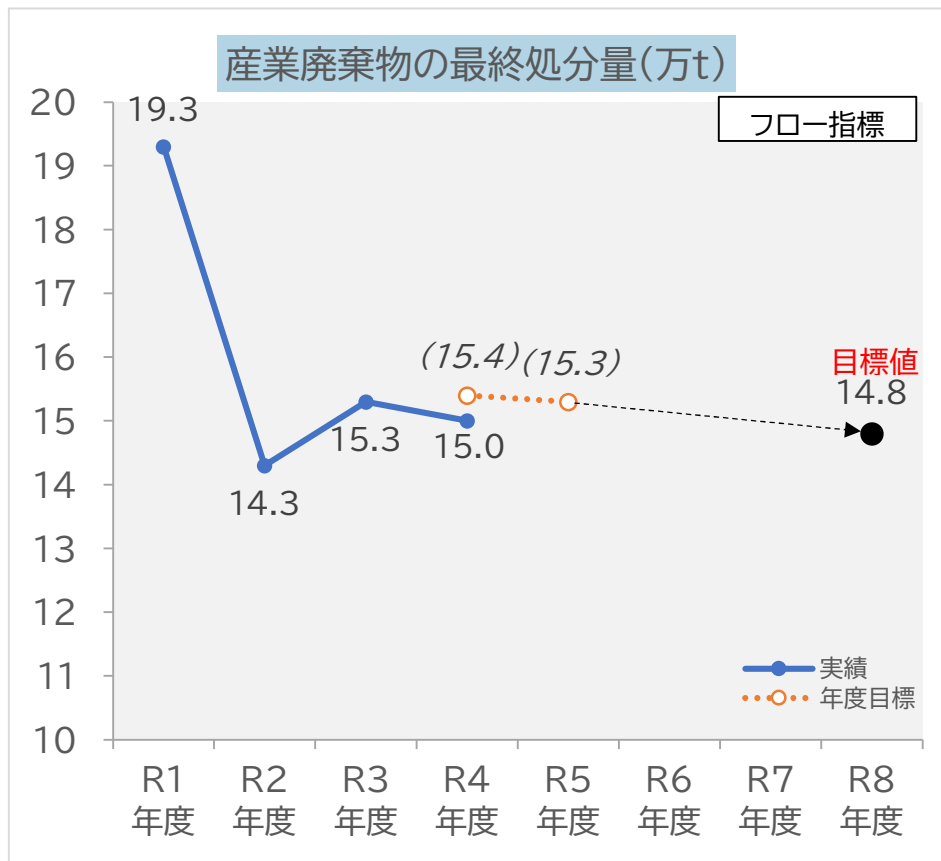
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 再生紙、金属原料及びセメント原料などに再生利用されることにより、順調に削減が進んでおり、年度目標を達成する結果となった。
- 企業や市町村、消費者団体等と連携し、ごみの排出抑制と資源の循環利用を進める。また、市町村等が設置する一般廃棄物処理施設から発生する焼却灰やばいじんなどについても、県内セメント工場でセメント原料などに再生利用することで最終処分量の削減を促進する。

針路10 施策45 資源の有効利用と廃棄物の適正処理の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
89. 産業廃棄物の最終処分量	万t	19.3 (R1年度)	15.0 (R4年度)	15.4 (R4年度)	102.7%	年度目標達成	14.8 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

年間の産業廃棄物の最終処分(埋立処分)量。
国の基本方針における削減目標を踏まえて設定した「第9次埼玉県廃棄物処理基本計画」における令和7年度の目標値(15万t)を更に削減することを目指し、目標値を設定。

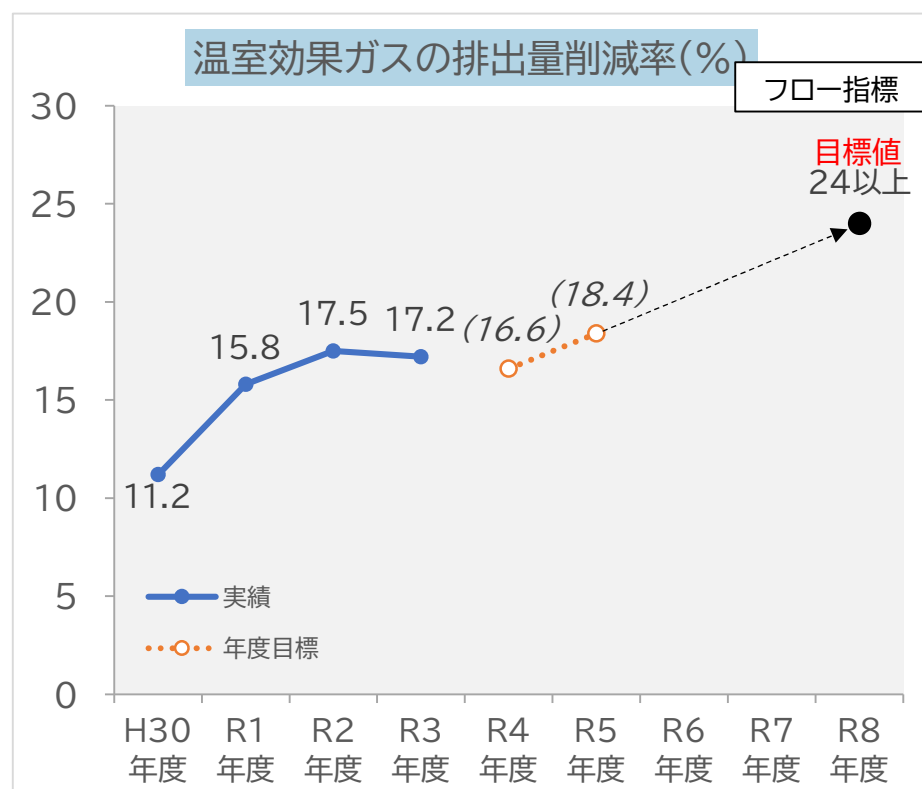
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 中間処理による減量化、また再資源化を進めることで最終処分量が減少し、年度目標を達成する結果となった。
- 建設リサイクル法等各種リサイクル法が適正に運用されるよう、事業者への指導等を行っており、引き続きこれら取組を行っていく。また、今年度から廃棄物処理業者に対する再資源化技術の高度化に向けた補助制度を設けており、最終処分量の削減を促進する。

針路10 施策46 地球環境に優しい社会づくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
90. 温室効果ガスの排出量削減率	%	12 (H30年度)	17.2 (R3年度)	- (-)	-	-	24以上 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県全体の温室効果ガス排出量の削減率(平成25年度(2013年度)比)。
 令和32年(2050年)までの脱炭素社会の実現を旨とした「地球温暖化対策の推進に関する法律」の改正を踏まえ、目標値を設定。
 ※国の「地球温暖化対策計画」改定後、5か年計画期間中に目標値を再設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

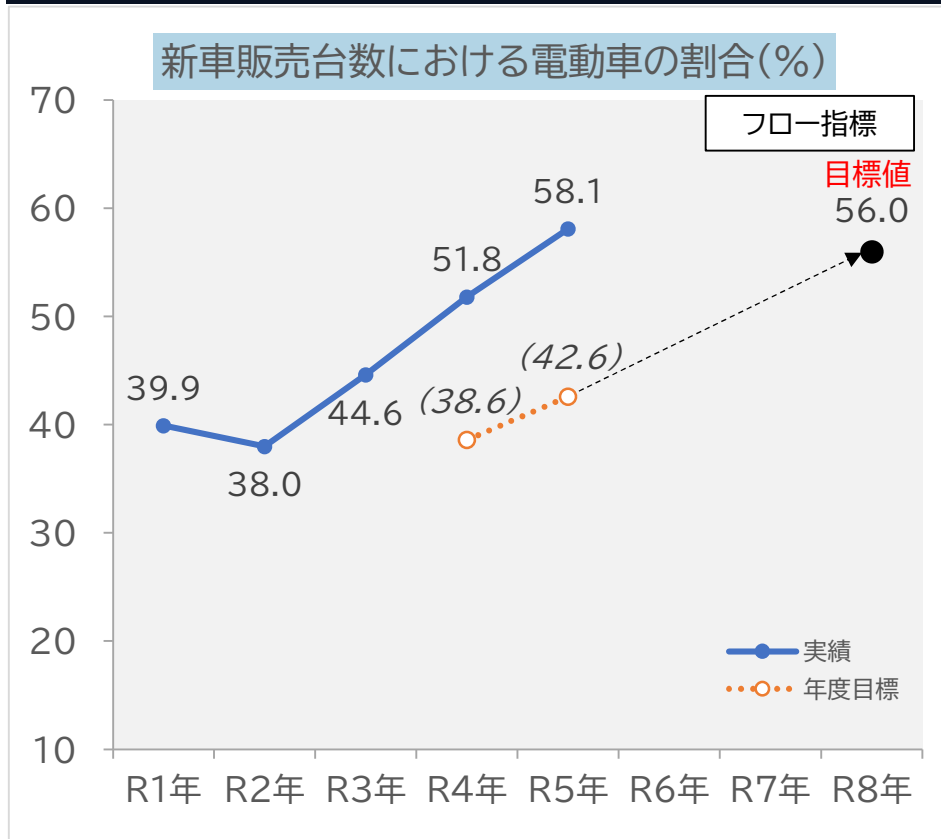
- 最新値は計画開始前であるが、策定時より改善している。
- 令和2年度までは削減傾向で推移してきたが、令和3年度の削減率は前年度比では0.3%減少した。これはコロナ禍からの経済回復によりエネルギー消費量が増加したこと等が要因と考えられる。
- 2050年カーボンニュートラル実現に向けて令和4年度末に改定した地球温暖化対策実行計画に基づき、更なる省エネ対策の推進や再生可能エネルギーの活用拡大、脱炭素社会への変革等、温暖化対策を強化していく。

※国資料の修正により過去の値の修正あり。

針路10 施策46 地球環境に優しい社会づくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
91. 新車販売台数における電動車の割合	%	39.9 (R1年)	58.1 (R5年)	42.6 (R5年)	136.4%	最終目標を上回る	56.0 (R8年)



◀ 指標の説明 ▶

乗用車の新車販売における電動車(ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車、電気自動車及び燃料電池自動車)の割合。
 国の「グリーン成長戦略」の目標(2030年代半ばまでに、乗用車新車販売で電動車100%を実現)を踏まえ、令和17年(2035年)までに電動車の割合100%を達成することを目指し、目標値を設定。

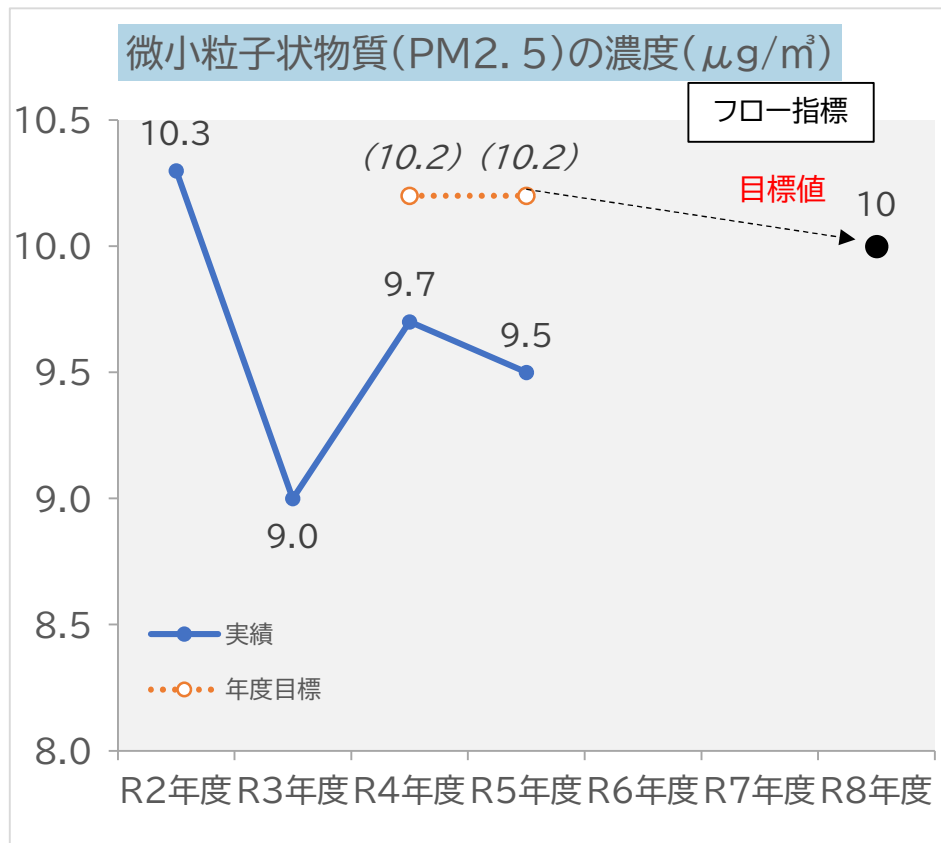
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 国のクリーンエネルギー自動車導入促進補助金等の影響により、全国的に乗用車の新車販売台数における電動車割合が上昇した。(埼玉県 R3:44.6% → R5:58.1%、全国 R3:44.7% → R5:58.7%)
- 令和4年度途中から、電気自動車等導入費補助事業を新たに開始した。令和6年度も補助金を継続し、EV、PHV等の電動車の普及促進を図る。

針路10 施策47 公害のない安全な地域環境の確保

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
92. 微小粒子状物質(PM2.5)の濃度	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	10.3 (R2年度)	9.5 (R5年度)	10.2 (R5年度)	107.4%	最終目標を上回る	10 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

大気中の微小粒子状物質(PM2.5)の年平均濃度。
世界保健機関(WHO)のガイドライン値($5\mu\text{g}/\text{m}^3$)を見据え、国内の環境基準($15\mu\text{g}/\text{m}^3$)より厳しく、近隣都県が掲げる最も厳しい目標値である $10\mu\text{g}/\text{m}^3$ の達成を目指し、目標値を設定。

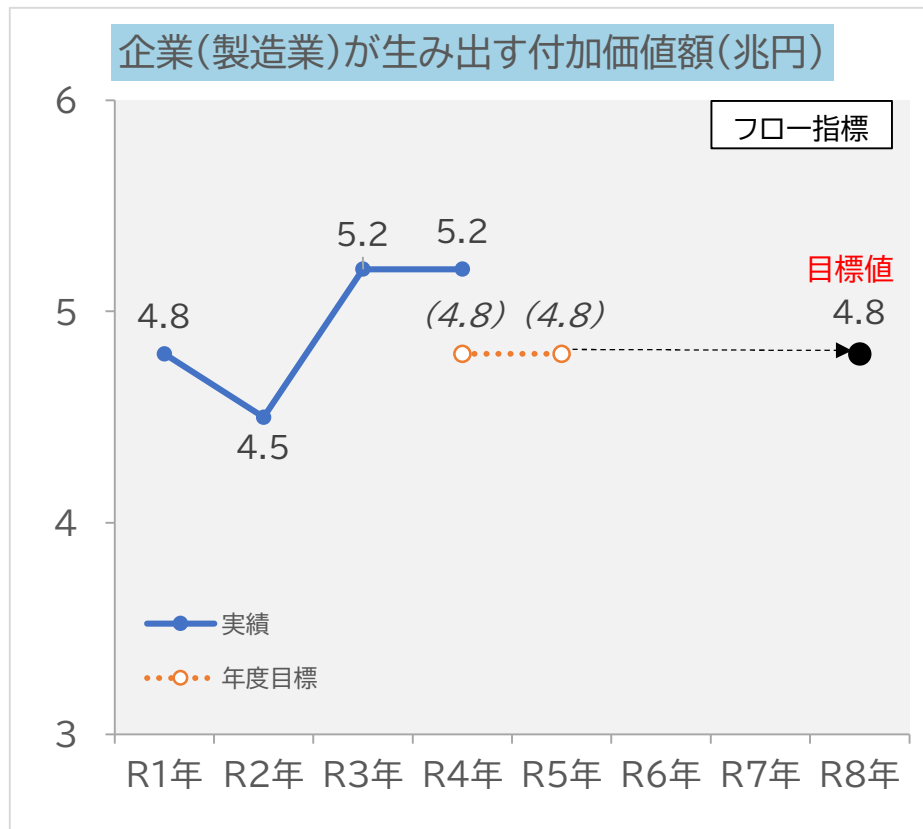
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 工場・事業場のばい煙規制や自動車排ガス対策のほか、PM2.5の生成に寄与するVOCの排出削減の取組を進めた結果、最終目標を達成した。
- 今後も引き続き、ばい煙規制、自動車排ガス対策を実施するとともに、VOC等の規制対象事業者に対する排出抑制の徹底、事業者の自主的な取組支援等を実施していく。世界保健機関(WHO)のガイドライン値($5\mu\text{g}/\text{m}^3$)を見据えて取り組んでいく。

針路11 施策48 新たな産業の育成と企業誘致の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
93. 企業(製造業)が生み出す付加価値額	兆円	4.8 (R1年)	5.2 (R4年)	4.8 (R4年)	108.3%	最終目標を上回る	4.8 (R8年)



≪ 指標の説明 ≫

従業者4人以上の製造業を営む事業所が生み出す付加価値額(事業所の生産活動において新たに生み出された価値。製造品出荷額などから原材料費や減価償却費などを差し引いたもの)。

成長が見込まれる分野の育成などの取組により、過去5年間の最大値(平成30年4.8兆円)の達成を目指し、目標値を設定。
※新型コロナウイルス感染症の大きな影響からの回復を目指す目標値。

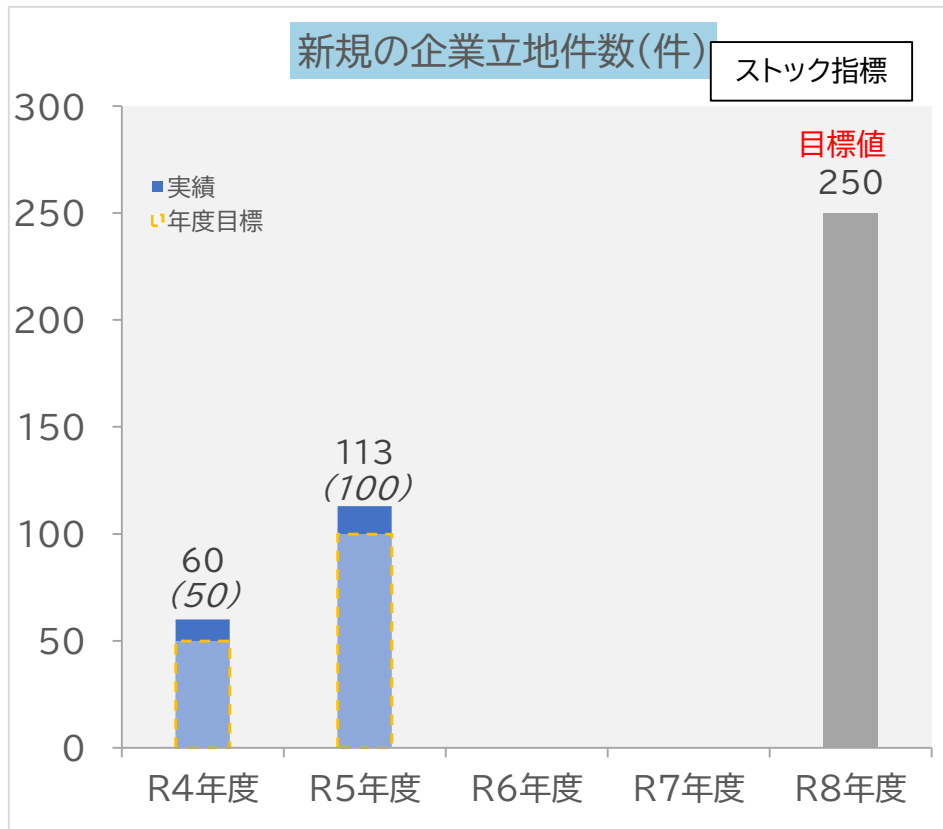
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 次世代産業として成長が期待できる分野に参入する企業を支援し、企業の持続的な成長を促したため。
- 引き続き、成長が見込まれる分野の育成などに取り組む。

針路11 施策48 新たな産業の育成と企業誘致の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
94. 新規の企業立地件数	件	— (—)	113 (R4～R5年度の累計)	100 (R4～R5年度の累計)	113.0%	年度目標達成	250 (R4～R8年度の累計)



◀ 指標の説明 ▶

令和4年度以降、県内に立地した工場・研究所などの累計件数。
過去5年間(平成28年度～令和2年度)の実績を踏まえ、産業団地など
適地への立地を進め、毎年度50件の企業立地を目指し、目標値を設定。

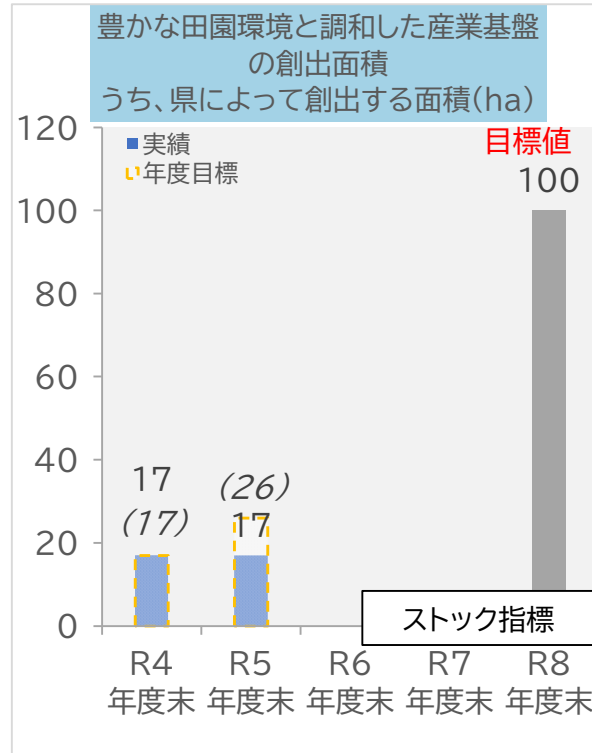
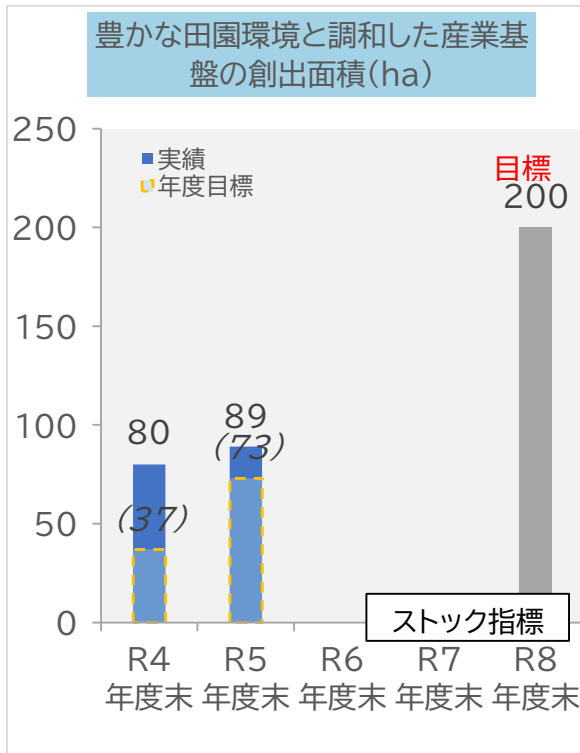
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 建築資材の高騰など物価高の影響はあるが、圏央道の暫定2車線区間の4車線化など交通利便性の更なる向上等を背景に、引き続き多くの企業から立地ニーズがあり、またオンラインも活用した積極的な企業誘致活動を行った結果、年度目標を達成した。
- 引き続き、市町村や金融機関等と連携したオール埼玉での企業誘致に取り組んでいく。

針路11 施策48 新たな産業の育成と企業誘致の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
95. 豊かな田園環境と調和した産業基盤の創出面積	ha	— (うち、県によって 創出する面積)	89	73	121.9%	策定時より改善	200
		— (—)	17 (R4～R5年度の累計)	26 (R4～R5年度の累計)	65.4%		100 (R4～R8年度の累計)



◀ 指標の説明 ▶

計画的な開発により新たに整備された産業基盤の面積。各事業主体が令和8年度までに予定している産業基盤の整備などを着実に推進することを目指し、目標値を設定。

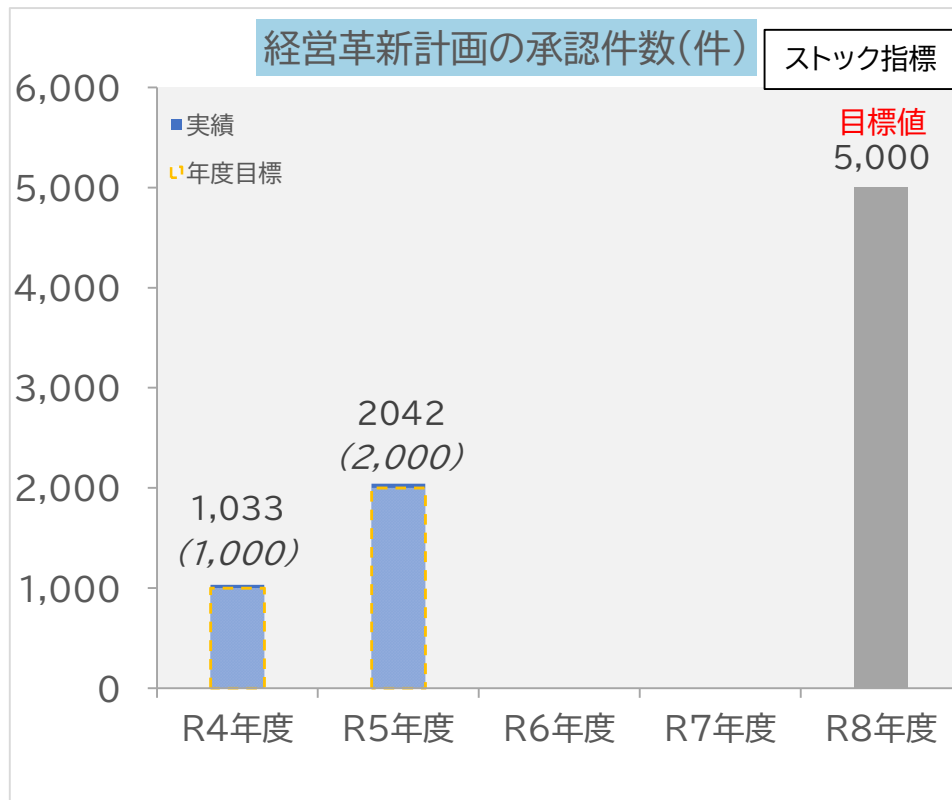
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。(全体面積は年度目標を達成している。)
- 全体面積は年度目標を達成できたが、県によって創出する面積については、分譲企業からの要望を踏まえて造成計画を変更したことから、工事が令和5年度中に完了しなかった。
- 「埼玉の持続的成長を支える産業基盤づくり取組方針」に基づき、引き続き豊かな田園環境と調和した産業基盤を創出する。変更事項を反映させた工事を令和6年度中に完了させる。

針路11 施策49 変化に向き合う中小企業・小規模事業者の支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
96. 経営革新計画の承認件数	件	— (—)	2,042 (R4~R5年度の累計)	2,000 (R4~R5年度の累計)	102.1%	年度目標達成	5,000 (R4~R8年度の累計)



◀ 指標の説明 ▶

「中小企業等経営強化法」に基づく経営革新計画の知事の承認件数。過去5年間(平成28年度～令和2年度)の実績を踏まえ、毎年度1,000件程度の経営革新計画承認支援実績を維持することを目指し、目標値を設定。

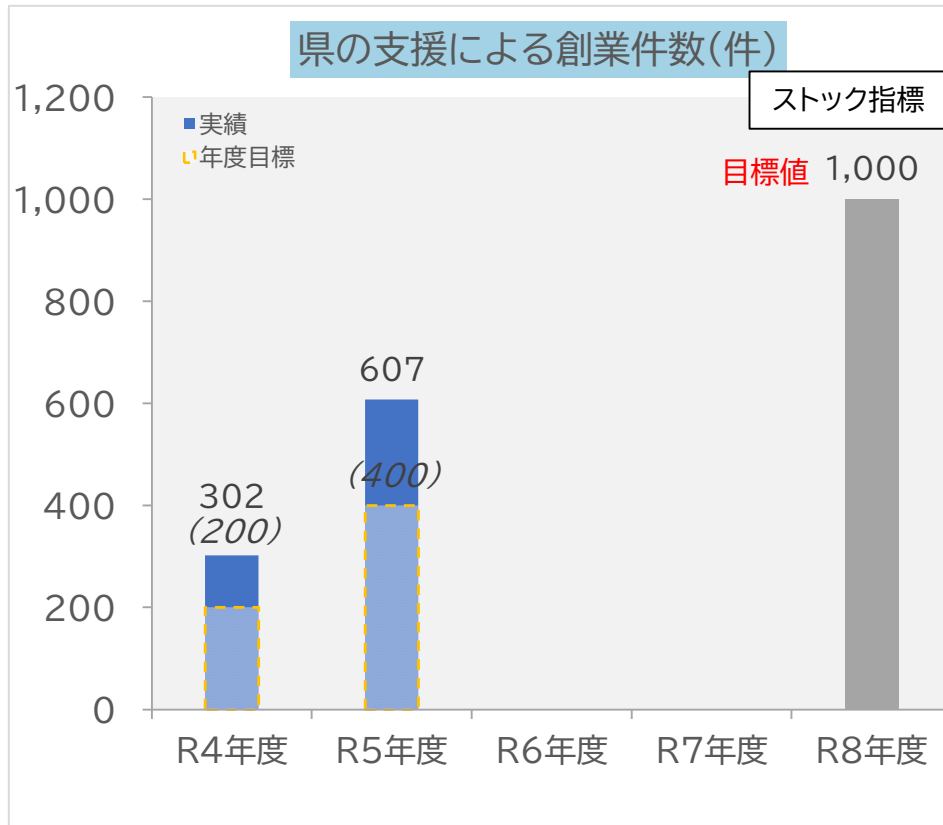
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 埼玉県では、県内の商工団体に推進事務費や専門家派遣費といった補助金(中小企業経営力向上補助金)を交付し、経営革新計画の策定から承認後のフォローアップまで一貫支援する仕組みを構築している。また、県では商工団体職員の資質向上のための研修会や、金融機関や土業団体との連携づくりにより、円滑に事務が遂行できるような環境整備に努めている。
- 引き続き、商工団体等と連携し、経営革新計画の策定から承認後のフォローアップまで一貫した支援を行っていく。

針路11 施策49 変化に向き合う中小企業・小規模事業者の支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
97. 県の支援による創業件数	件	— (—)	607 (R4～R5年度の累計)	400 (R4～R5年度の累計)	151.8%	年度目標達成	1,000 (R4～R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

県が支援したもので、県が把握する創業件数。
過去5年間(平成28年度～令和2年度)の実績を踏まえ、毎年度200件程度の創業支援実績を維持することを目指し、目標値を設定。

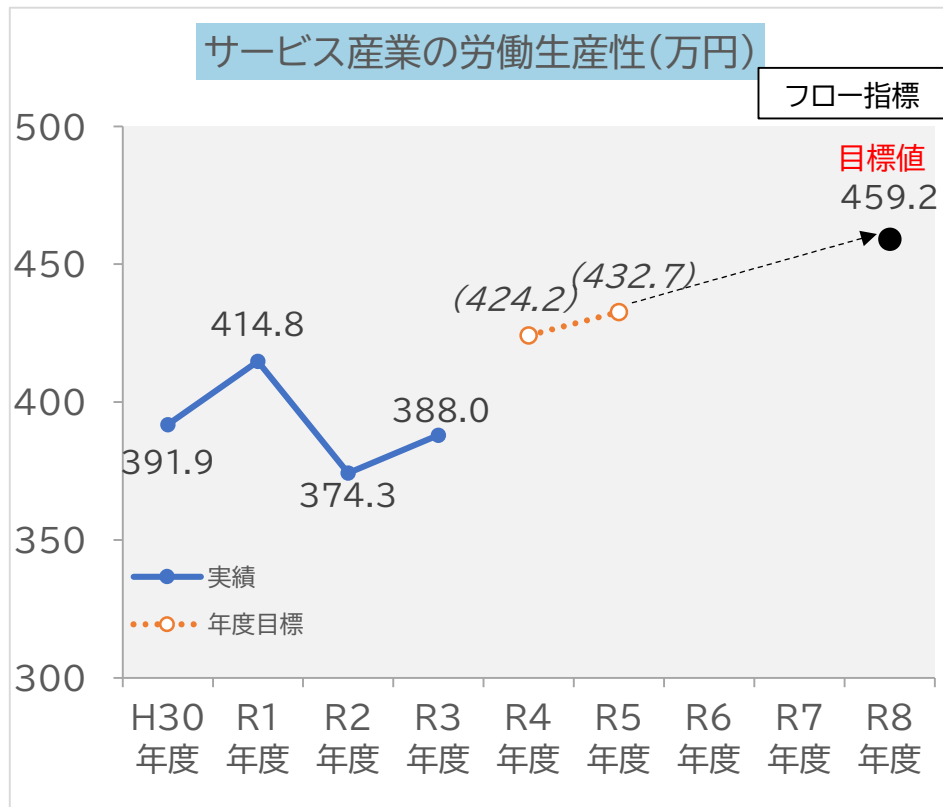
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 創業・ベンチャー支援センター埼玉における、オンライン相談の導入や女性に特化した支援などにより、利用者数が増加した結果、創業件数についても年度目標値を大きく上回った。
- 引き続き、創業・ベンチャー支援センター埼玉において、創業前後の一貫した支援を行っていく。

針路11 施策50 商業・サービス産業の育成

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
98. サービス産業の労働生産性	万円	391.9 (H30年度)	388.0 (R3年度)	- (-)	-	-	459.2 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

サービス産業に従事する就業者1人当たりの県内純生産額(政府サービス・金融及びインフラ関連産業を除く)。
サービス分野の生産性向上の取組により、サービス産業に従事する就業者1人当たり県内純生産額が毎年度2%以上向上することを目指し、目標値を設定。

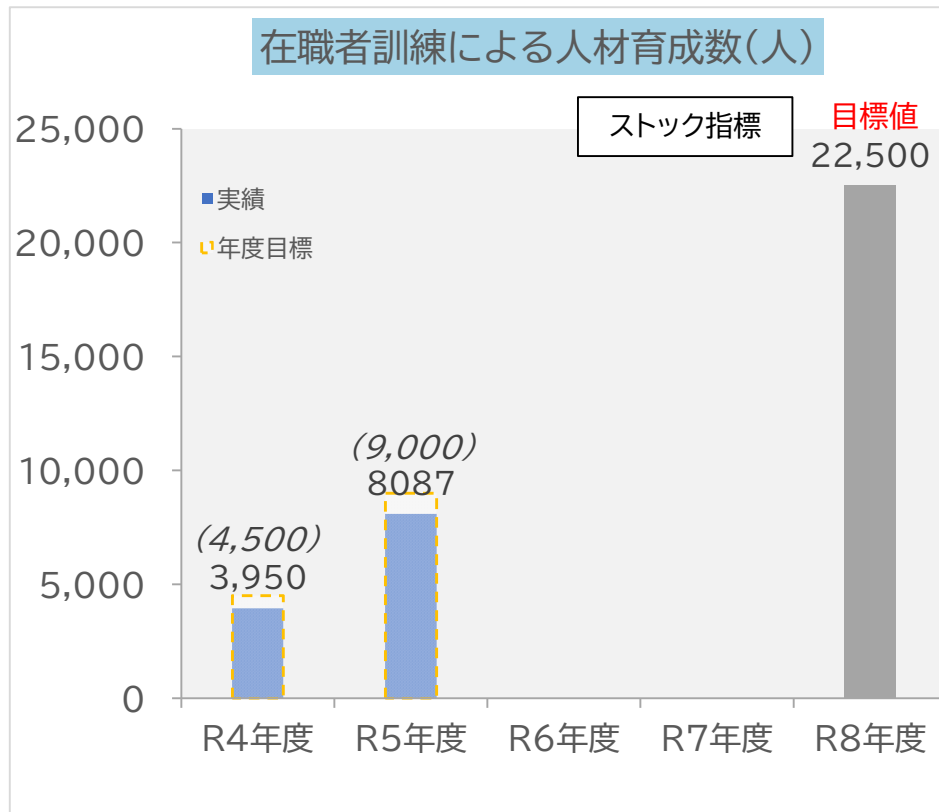
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画開始前であるが、策定時より後退している。
- 新型コロナウイルス感染症による影響もあり、令和3年度の数値は策定時の値を下回る結果となった。
- サービス産業の生産性向上のため、業種業態を問わず有効であるICTの導入について取組を進めて行く。特に、キャッシュレスやeコマースといった決済・販売手法の活用を引き続き支援することで、商業・サービス産業事業者のデジタルトランスフォーメーションを後押ししていく。

針路11 施策51 産業人材の確保・育成

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
99. 在職者訓練による人材育成数	人	— (—)	8,087 (R4～R5年度の累計)	9,000 (R4～R5年度の累計)	89.9%	策定時より改善	22,500 (R4～R8年度の累計)



◀ 指標の説明 ▶

企業の従業員のスキルアップを図るために県が実施している技能講習を受講した人の数。
企業の従業員の人材育成支援について、令和元年度実績(4,356人)を上回る水準を維持することを目指し、目標値を設定。

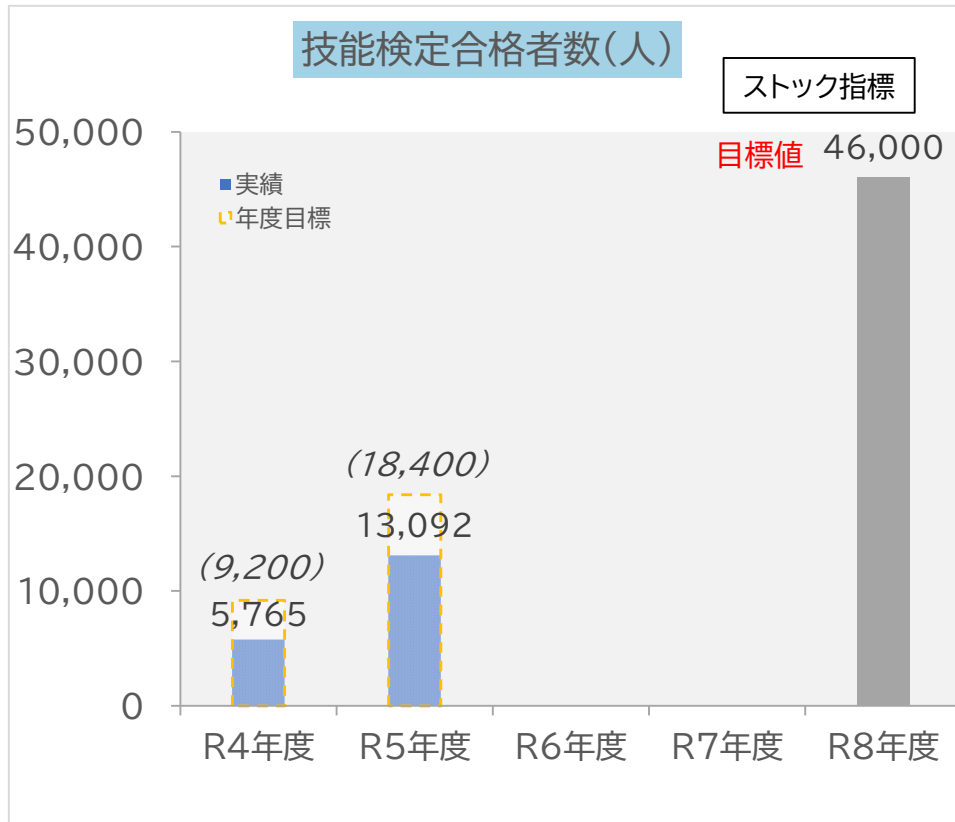
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で受講を控えた企業からの需要が戻りきっておらず、年度目標を下回ったと考えられる。
- 広報活動に力を入れ、受講者数の増加に努める。

針路11 施策51 産業人材の確保・育成

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
100. 技能検定合格者数	人	— (—)	13,092 (R4～R5年度の累計)	18,400 (R4～R5年度の累計)	71.2%	策定時より改善	46,000 (R4～R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

主にものづくり分野の技能を公証する国家検定制度である技能検定の合格者数。
技能検定合格者について、過去最高である令和元年度実績(9,238人)の水準まで回復させた上でそれを維持することを目指し、目標値を設定。

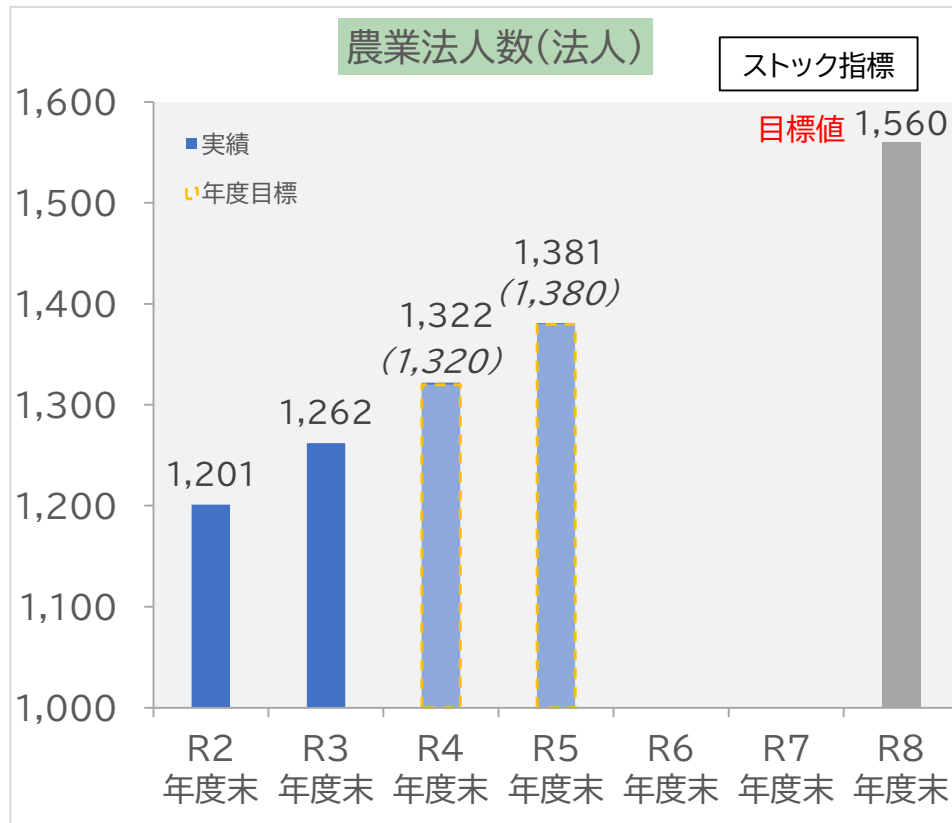
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 入国制限の緩和により、技能実習生の受検者及び合格者数は回復しつつあるが、令和2～4年度の新型コロナウイルス感染症の水際対策による技能実習生の入国制限の影響が依然として残り(上位級の受検対象が不在)、受検者数及び合格者数が伸び悩んだ。
- 今後の技能実習生の受検者及び合格者数は、在留資格「技能実習」での入国者数の伸び率を参考に、令和元年度の実績を上回る見込みである。技能検定受検促進のための広報に努め、受検の働きかけを積極的に行っていく。

針路12 施策52 農業の担い手育成と生産基盤の強化

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
101. 農業法人数	法人	1,201 (R2年度末)	1,381 (R5年度末)	1,380 (R5年度末)	100.1%	年度目標達成	1,560 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

農業組合法人、定款に農業に関する事業が明示されている法人の数。

国の「日本再興戦略(改訂2015)」における令和5年度の農業法人数の目標値(5万法人)を踏まえ、県におけるこれに相当する水準(1,380法人)を達成し、更に増加させることを目指し、目標値を設定。

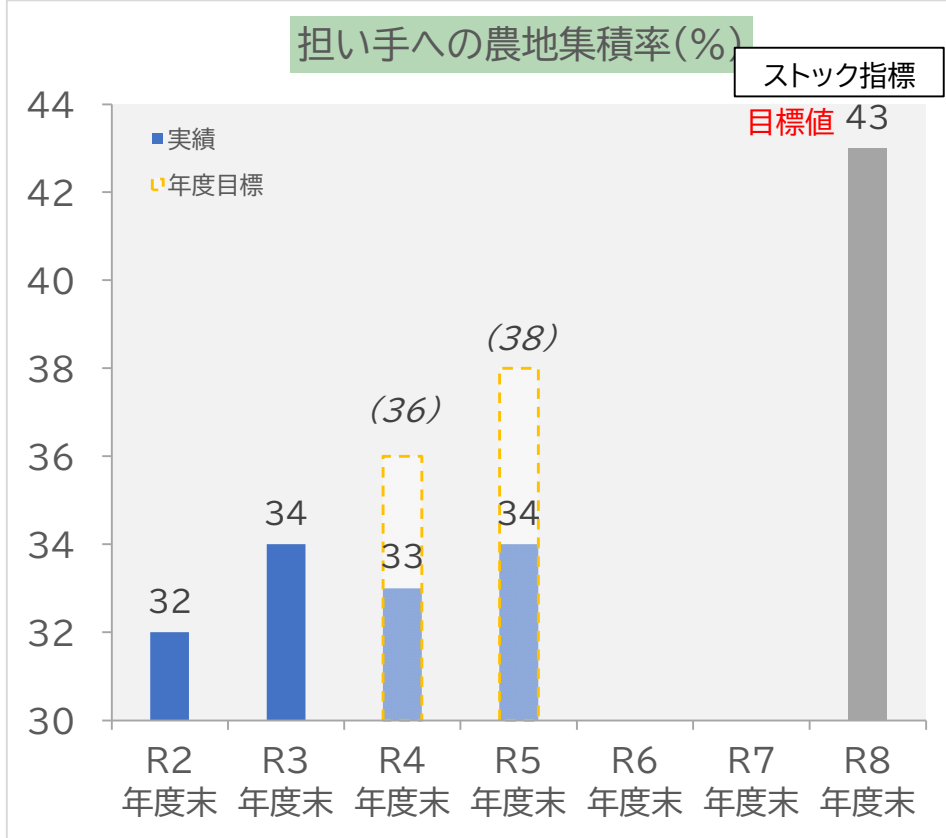
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 農業経営・就農支援センターが経営相談会において、法人化を希望する農業経営体に対して法人化支援を行ったため、また、法人化を希望する経営体の掘り起こし活動を行ったため、円滑な法人化を支援することができ、年度目標を達成した。
- 昨年度に引き続き、農業経営・就農支援センターによる伴走支援を行う。また、昨年度行った掘り起こし活動を基に、法人化数を確保する。

針路12 施策52 農業の担い手育成と生産基盤の強化

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
102. 担い手への農地集積率	%	32 (R2年度末)	34 (R5年度末)	38 (R5年度末)	89.5%	策定時より改善	43 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

農業振興地域を有する市町村において、認定農業者などの担い手が利用している耕地面積の割合。
「農業経営基盤強化促進法」に基づき策定している「農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針」において、令和12年度末までに担い手への農地集積率が50%となることを目指していることを踏まえ、目標値を設定。

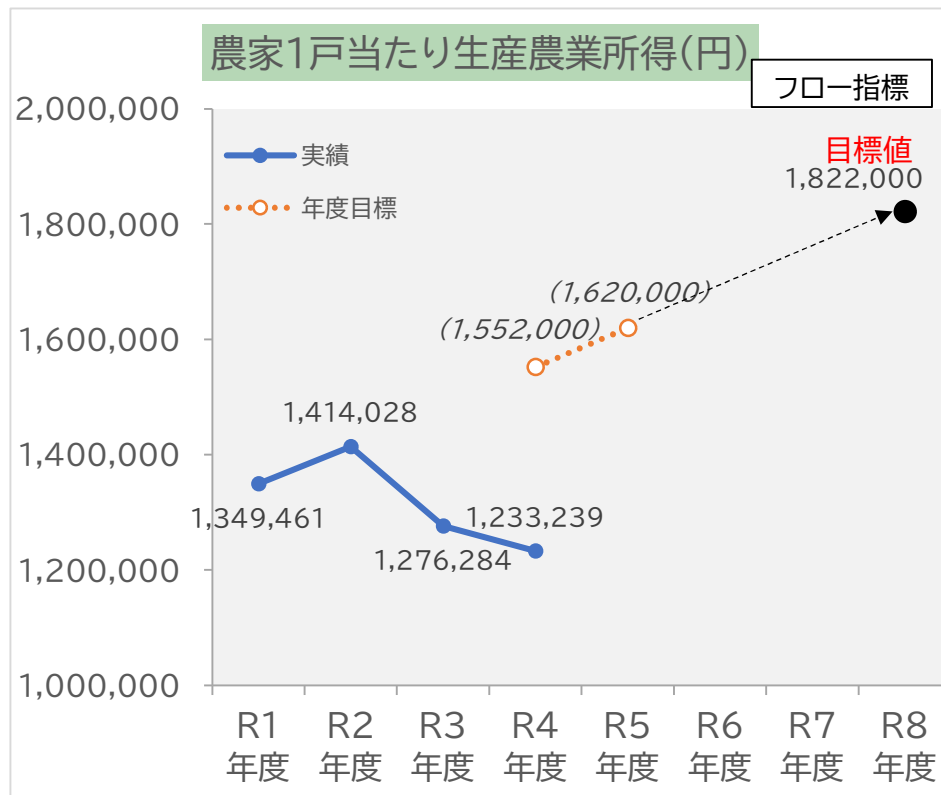
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 農地中間管理事業の活用等により集積率は向上したものの、担い手の高齢化や離農による経営面積の減少もあり伸び率は鈍化し、年度目標を下回ったと考えられる。
- 関係機関と連携して農地中間管理事業を進めるとともに、農地の区画拡大などを行う基盤整備事業との連携により担い手への農地の集積・集約化を推進することで、取組を強化する。

針路12 施策53 強みを生かした収益力ある農業の確立

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
103. 農家1戸当たり生産農業所得	円	1,349,461 (R1年度)	1,233,239 (R4年度)	1,552,000 (R4年度)	79.5%	策定時より後退	1,822,000 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

農家1戸当たりの農業経営による1年間の所得。
過去5年間(平成27年度～令和元年度)の実績値の伸び率(年平均約5%)を踏まえ、令和元年度の現状値から35%向上させることを目指し、目標値を設定。

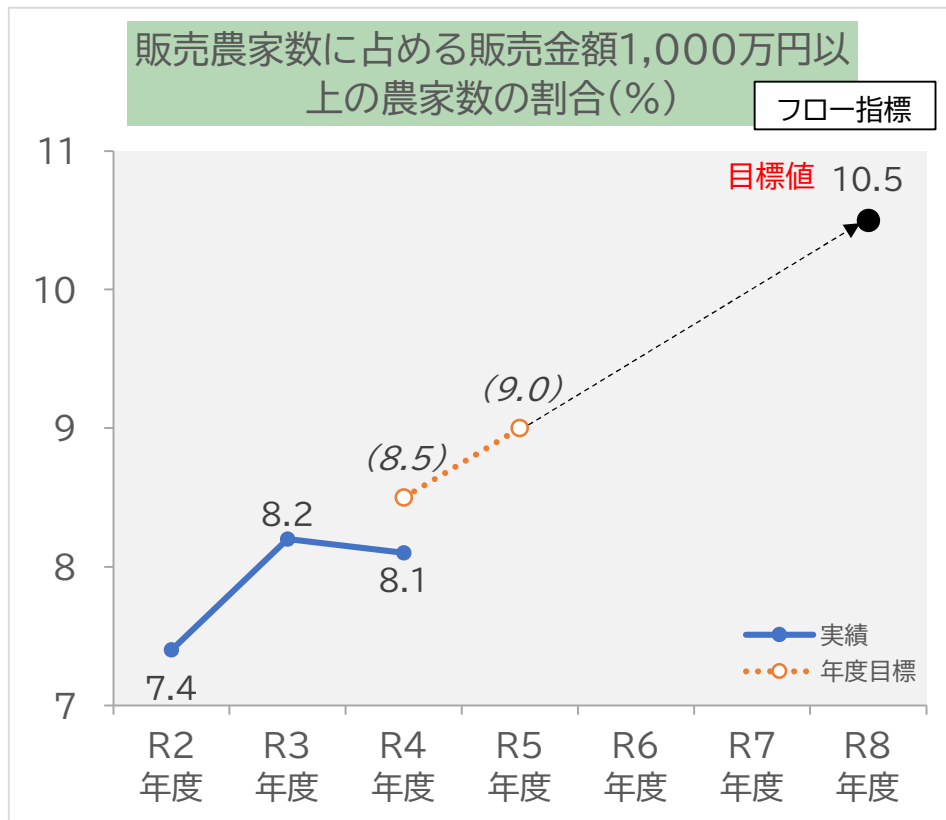
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- 国際的な原料価格の上昇等により、肥料、飼料、光熱動力などの農業生産資材価格が上昇したこと等から、本県の生産農業所得は前年から20億円減少し、目標に達成しなかった。
- 消費者ニーズを的確に反映した農産物の生産拡大を図るほか、デジタル技術などを活用したスマート農業の推進により生産性を高め、農家1戸当たり生産農業所得の向上への取組を進めていく。

針路12 施策53 強みを生かした収益力ある農業の確立

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
104. 販売農家数に占める販売金額1,000万円以上の農家数の割合	%	7.4 (R2年度)	8.1 (R4年度)	8.5 (R4年度)	95.3%	策定時より改善	10.5 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

販売農家数に占める農産物販売金額が1,000万円以上の農家数の割合。
「埼玉県農林水産業振興基本計画」における令和7年度の目標値(10%)を踏まえ、更に販売農家数に占める販売金額1,000万円以上の農家数の割合を増加させることを目指し、目標値を設定。

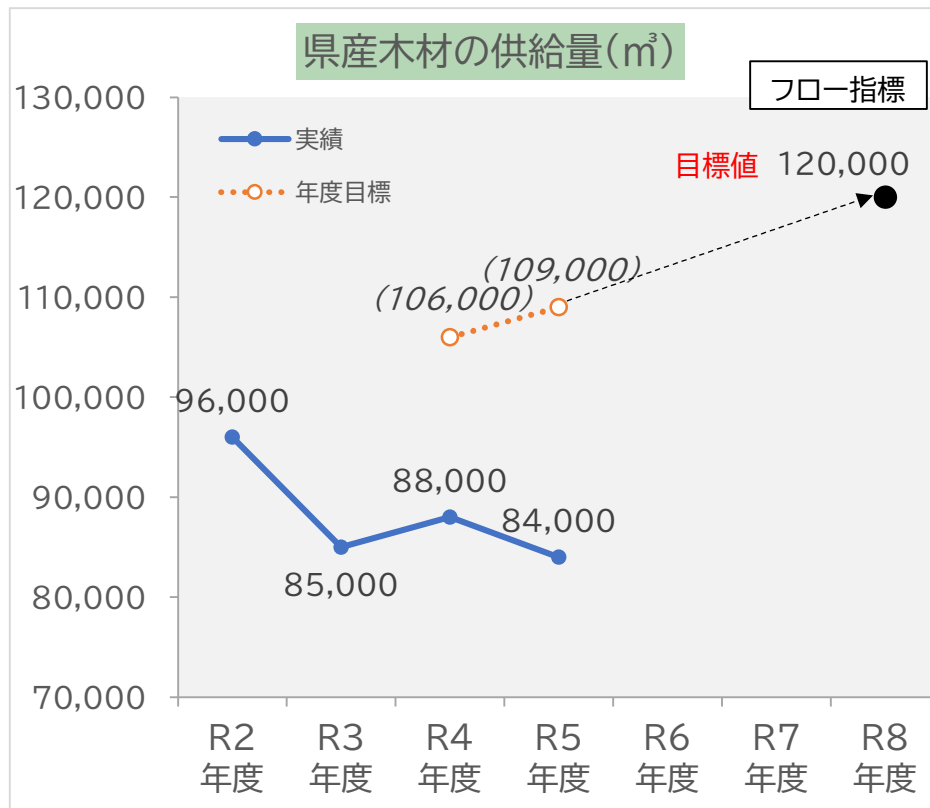
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 大規模経営農家の規模縮小や廃業による販売金額の減少などにより、販売金額1,000万円以上の農家数が減少したため、結果としてその割合は8.1%となり、目標に到達しなかった。
- 消費者ニーズを的確に反映した農産物の生産拡大を図るとともに、県産農産物の高付加価値化やブランド化などの推進に取り組み、販売金額1,000万円以上の農家数の向上に努めていく。

針路12 施策54 林業の生産性向上と県産木材の利用拡大

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
105. 県産木材の供給量	m ³	96,000 (R2年度)	84,000 (R5年度)	109,000 (R5年度)	77.1%	策定時より後退	120,000 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

森林から伐採・搬出され、利用される木材量。
令和22年度までに木材供給量を森林資源の循環利用の実現に必要な201,000m³/年まで増加させることを目指し、目標値を設定。

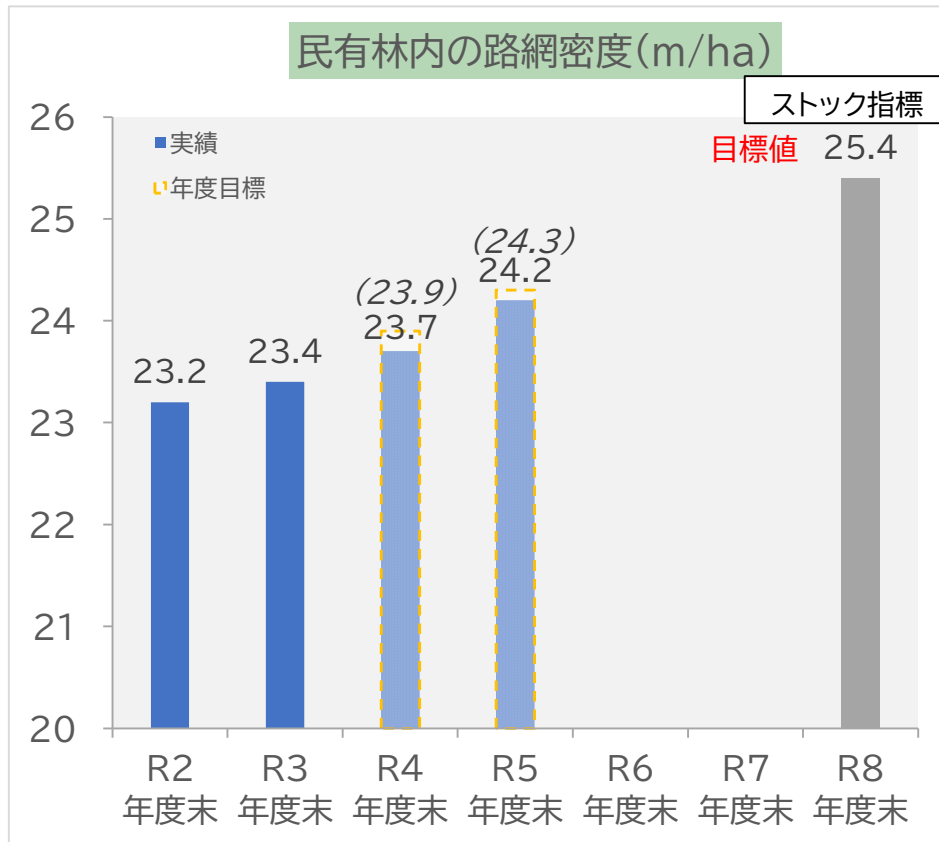
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は計画策定時の値より悪化しており、より一層の努力を要する。
- ウッドショック時に木材の流通が滞った影響により、流通各社が在庫を確保した結果、全国的に在庫が大幅に増え、木材価格が下がったことで伐り控えの動きがあった。また、年度末の積雪により伐採作業が遅延し、年度内の素材生産に影響があった。
- 県産木材を計画的・安定的に供給できる新たな流通体制を整備し、県産木材供給量の増加に取り組む。

針路12 施策54 林業の生産性向上と県産木材の利用拡大

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
106. 民有林内の路網密度	m/ha	23.2 (R2年度末)	24.2 (R5年度末)	24.3 (R5年度末)	99.6%	策定時より改善	25.4 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

民有林内に開通している路網(公道、森林管理道及び作業道)の密度。
効率的な森林整備や木材生産を可能とするための国が示した路網整備の水準を踏まえ、本県の自然条件などを勘案し、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 森林整備に必要な作業道の開設に取り組んだものの、国庫予算の内示減により事業量が減じたことで事業進捗に遅れが生じたため、年度目標を下回った。
- 効率的な森林整備や木材生産を可能とするため、森林情報の収集、土地の境界の明確化、森林所有者の合意形成など施業地の集約化・団地化に向けた各々の課題を解決し、路網整備を進めていく。